

第28回 市政総合世論調査

報告書

平成23年

東京都 青梅市

目 次

I 調査の概要および回答者の属性

1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象および調査方法	1
(3)	調査項目	1
(4)	回収率等	2
(5)	回収率の推移	2
(6)	本調査報告書の留意点	3
2	回答者の属性	4
(1)	性別	4
(2)	年齢	4
(3)	居住地区	4
(4)	同居家族の人数	5
(5)	職業	5
(6)	勤務地	6
(7)	住居形態	6
(8)	居住年数	7
(9)	青梅市に住む前の居住地	7

II 調査結果の分析

1	生活環境について	9
(1)	住みやすさについて	9
(2)	今後の定住意向	11
(3)	住み続けたい主な理由	13
(4)	移転したい主な理由	14
2	生活の状況について	15
(1)	昨年と比較した暮らし向き	15
(2)	暮らし向きが楽になった理由	17
(3)	暮らし向きが苦しくなった理由	18
(4)	暮らし向きについて	19
(5)	余裕が欲しいと思う点	20
3	今後のまちづくりの方向について	21
(1)	10年後の青梅市の将来像	21
(2)	重点的に取り組むべき施策	24

(3) 理想的な生活	27
4 住宅について	29
(1) 住宅対策で力を入れてほしいこと	29
5 ごみ減量について	30
(1) ごみの減量推進に有効なこと	30
(2) ごみを減らすための工夫	31
6 防災・防犯対策について	32
(1) 脅威を感じる自然災害	32
(2) 自然災害に対する備え	33
(3) 何も備えていない理由	35
(4) 防災対策で市に期待または充実すべきと思うこと	36
(5) 青梅市消防団活動で知っていること	37
(6) 防災行政無線のチャイム放送の時間	38
(7) チャイム放送の希望放送時間	39
(8) チャイム放送の音色	40
(9) 火災発生時の防災行政無線	41
(10) 防犯上不安に感じること	42
(11) 安全・安心なまちづくりで力を入れるべき施策	43
(12) 防犯・交通安全活動への協力	44
(13) 協力しているまたはしたい防犯・交通安全活動	45
(14) 協力していない理由	46
7 生涯学習について	47
(1) 開催してほしい教室や講演会	47
8 青梅市の施設利用について	48
(1) 市立図書館の利用について	48
(2) 市立図書館の利用目的	49
(3) 利用したことがない理由	50
(4) 市民センターの利用について	51
(5) 市民センターの利用目的	52
(6) 利用したことがない理由	53
9 男女平等について	54
(1) 男女平等参画社会に向け市が力を入れるべき施策	54
10 健康について	55
(1) 健康診断の受診について	55
(2) 健康診断の受診場所	56
(3) 健康診断の種類	57
(4) 健康診断を受けなかった理由	58
11 医療について	59
(1) 市の救急医療体制について	59

(2) 市の救急医療体制に満足していない理由	60
1 2 子育てについて	61
(1) 安心して子育てをするために必要な取組み	61
(2) 市の子育て支援事業で整備、充実すべきもの	62
(3) 現在子育てをしているか	63
(4) 子育てについて悩んでいること	64
(5) 子育てについての相談者	65
1 3 高齢社会や介護保険制度について	66
(1) 介護が必要となった場合に受けたい介護	66
(2) 自宅で介護を受けたい理由	67
(3) 施設等で介護を受けたい理由	68
(4) 介護サービス充実のための費用負担について	69
1 4 買物・商業関連施設について	70
(1) 買物をする場所	70
(2) 商業施設について	73
(3) 商店街施設について	74
1 5 ボランティア・市民活動について	75
(1) ボランティア・市民活動への参加	75
(2) 参加しているボランティア活動等	76
(3) ボランティア活動等に参加しない理由	77
(4) ボランティア活動等への参加意向	78
(5) ボランティア活動等への参加方法	79
(6) 青梅ボランティア・市民活動センターについて	80
(7) 青梅ボランティア・市民活動センターの利用目的	81
1 6 自治会等について	82
(1) 自治会への加入状況	82
(2) 参加している自治会の事業	83
(3) 自治会への加入意向	84
(4) 自治会に未加入の理由	85
(5) 小学生の子どもの有無	86
(6) 子供会への加入状況	86
(7) 参加している子供会の事業	87
(8) 子供会への加入意向	88
(9) 子供会へ未加入の理由	89
(10) 自治会に力を入れてほしい活動	90
1 7 市役所に対する印象について	91
(1) 市役所の印象	91
1 8 市政への参画方法について	93
(1) 市民の意見等を取り入れるための重点的な取組	93

19	情報関連について.....	94
	(1) 市の情報の入手方法.....	94
	(2) 市の広報の読みやすさ.....	95
	(3) 市の広報の読みにくい理由.....	96
	(4) 市の広報の入手方法.....	97
	(5) 市の広報を読む程度.....	98
	(6) 市のホームページについて.....	99
	(7) 市のホームページで充実してほしい項目.....	100
	(8) インターネットの接続端末.....	102
	(9) インターネットへの接続回線.....	103
	(10) インターネットの利用目的.....	104
20	多摩川競艇事業について.....	105
	(1) 多摩川競艇事業の認知度.....	105

資料：数表・調査票

数表.....	107
調査票.....	177

I 調査の概要および回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

この調査は、市民の生活意識と市政各分野にわたる意向、要望などを把握し、今後の行政運営上の参考とするものである。

(2) 調査対象および調査方法

項目	内容
調査地域	市内全域
調査対象	市内に居住する20歳以上の男女
サンプル数	2,000
抽出法	住民基本台帳から無作為抽出
設問数	43問
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
調査時期	平成23年5月
地区分析	市内を11地区に区分

(3) 調査項目

1 生活環境について	11 医療について
2 生活の状況について	12 子育てについて
3 今後のまちづくりの方向について	13 高齢社会や介護保険制度について
4 住宅について	14 買物・商業関連施設について
5 ごみ減量について	15 ボランティア・市民活動について
6 防災・防犯対策について	16 自治会等について
7 生涯学習について	17 市役所に対する印象について
8 青梅市の施設利用について	18 市政への参画方法について
9 男女平等について	19 情報関連について
10 健康について	20 多摩川競艇事業について

(4) 回収率等

配布数	2, 0 0 0
有効回収数	1, 1 9 5
回収率	5 9. 8 %

(5) 回収率の推移

実施回	実施年	配布数	回収数	回収率 (%)
1	昭和 40 年	1, 496	1, 405	93. 9%
2	41 年	1, 500	1, 344	89. 6%
3	42 年	1, 500	1, 331	88. 7%
4	44 年	1, 500	1, 096	73. 1%
5	45 年	1, 500	982	65. 5%
6	46 年	1, 500	1, 017	67. 8%
7	47 年	1, 500	1, 034	68. 9%
8	48 年	1, 500	1, 034	68. 9%
9	49 年	1, 500	999	66. 6%
10	50 年	1, 500	1, 004	66. 9%
11	51 年	1, 500	1, 003	66. 9%
12	52 年	1, 500	1, 044	69. 6%
13	53 年	1, 500	1, 026	68. 4%
14	54 年	1, 500	1, 037	69. 1%
15	55 年	1, 500	1, 064	70. 9%
16	56 年	1, 500	993	66. 2%
17	57 年	1, 500	1, 013	67. 5%
18	58 年	1, 500	999	66. 6%
19	60 年	1, 500	849	56. 6%
20	62 年	1, 500	872	58. 1%
21	平成元年	2, 000	1, 064	53. 2%
22	3 年	2, 000	1, 167	58. 4%
23	5 年	2, 000	1, 387	69. 4%
24	7 年	2, 000	1, 255	62. 8%
25	10 年	2, 000	1, 222	61. 1%
26	13 年	2, 000	1, 388	69. 4%
27	18 年	2, 000	1, 218	60. 9%
28	23 年	2, 000	1, 195	59. 8%

(6) 本調査報告書の留意点

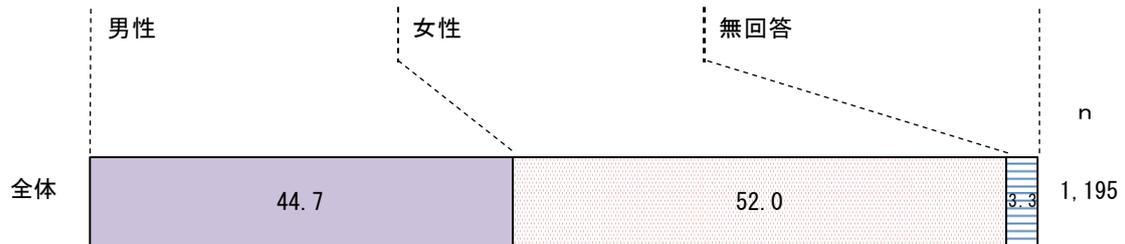
本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要がある。

- 比率は百分率（％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100％を上下する場合もある。
- 基数となるべき実数は、“n = ○○○”として掲載し、各比率はnを100％として算出した。
- 質問の終りに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100％を超える場合がある。
- 問の中には「～に○をつけた方にかがいます。」などいろいろな制限があり、回答者の数が少ない問が含まれる。またクロス分析においても項目によっては回答者数が少なく、有意性が低いものもある。

2 回答者の属性

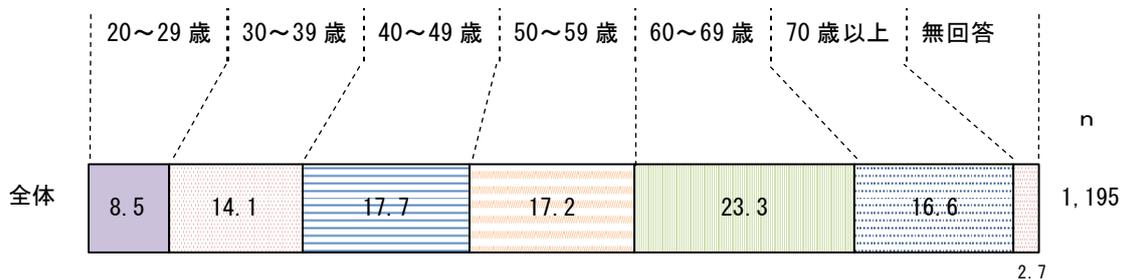
(1) 性別

回答者の性別構成は、「男性」が44.7%、「女性」が52.0%となっている。



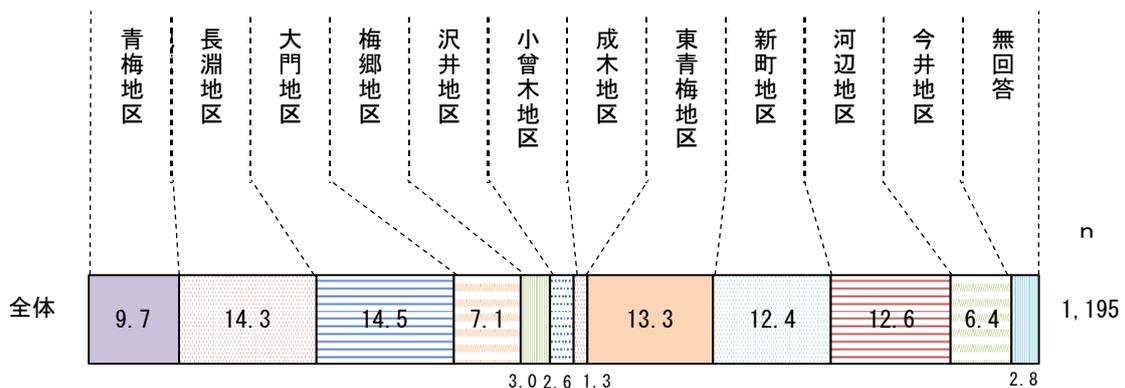
(2) 年齢

回答者の年齢構成は、「20～29歳」が8.5%、「30～39歳」が14.1%、「40～49歳」が17.7%、「50～59歳」が17.2%、「60～69歳」が23.3%、「70歳以上」が16.6%となっている。



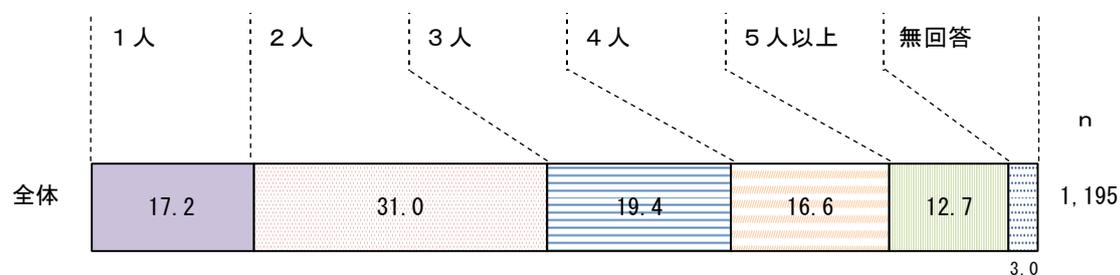
(3) 居住地区

居住地区は、「青梅地区」が9.7%、「長淵地区」が14.3%、「大門地区」が14.5%、「梅郷地区」が7.1%、「沢井地区」が3.0%、「小曾木地区」が2.6%、「成木地区」が1.3%、「東青梅地区」が13.3%、「新町地区」が12.4%、「河辺地区」が12.6%、「今井地区」が6.4%となっている。



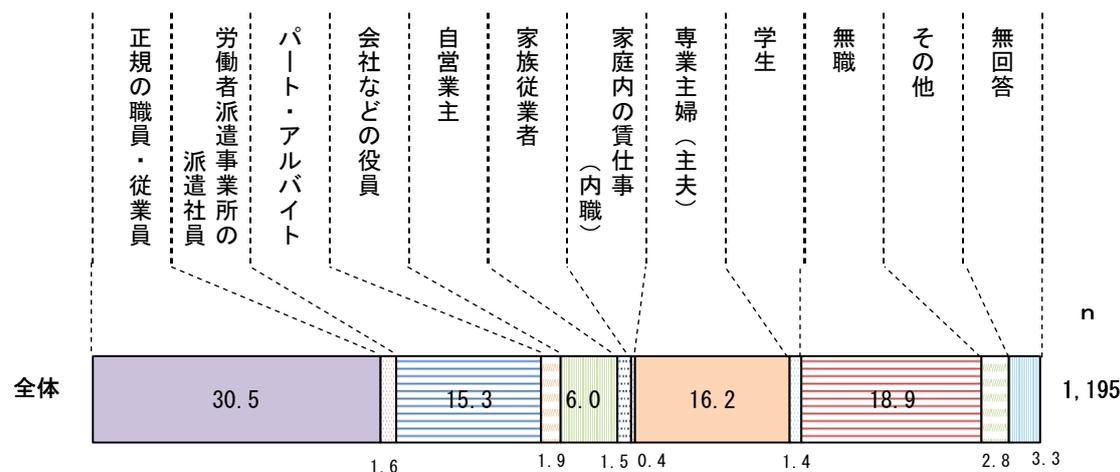
(4) 同居家族の人数

同居家族の人数は、「1人」が17.2%、「2人」が31.0%、「3人」が19.4%、「4人」が16.6%、「5人以上」が12.7%となっている。



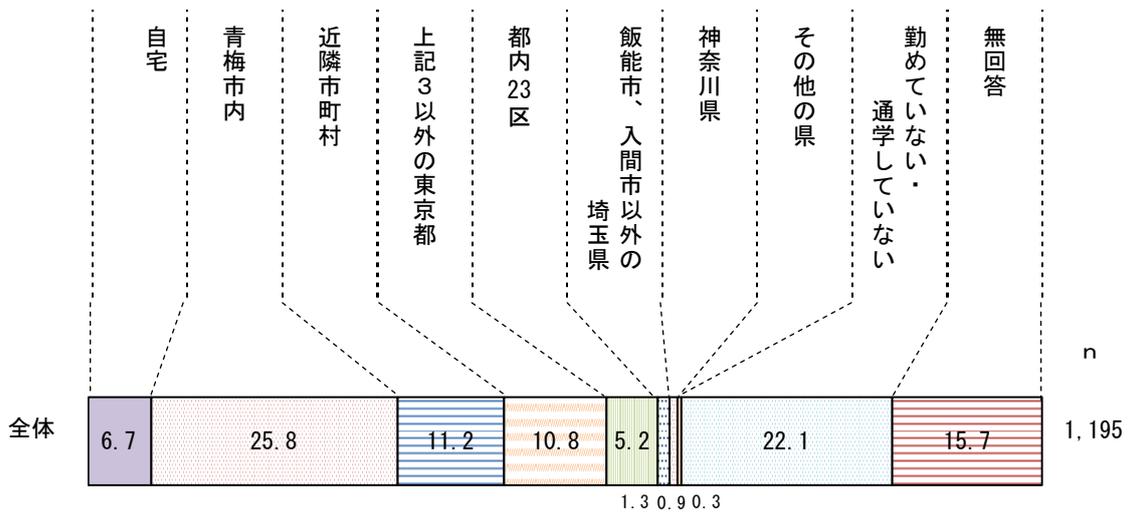
(5) 職業

職種は、「正規の職員・従業員」が30.5%、「労働者派遣事業所の派遣社員」が1.6%、「パート・アルバイト」が15.3%、「会社などの役員」が1.9%、「自営業主」が6.0%、「家族従業者」が1.5%、「家庭内の賃仕事（内職）」が0.4%、「専業主婦（主夫）」が16.2%、「学生」が1.4%、「無職」が18.9%、「その他」が2.8%となっている。



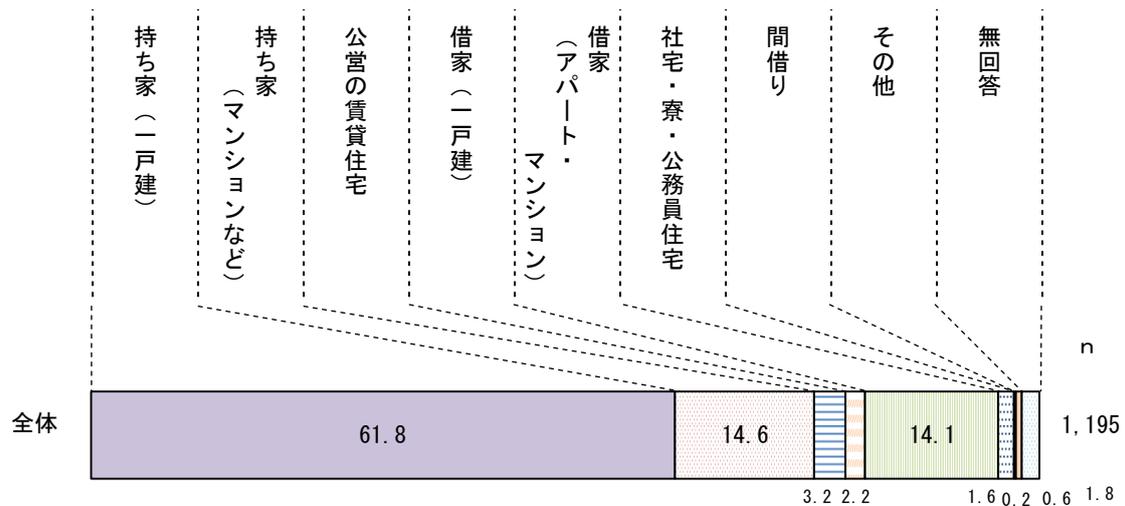
(6) 勤務地

就学先・勤務先は、「自宅」が6.7%、「青梅市内」が25.8%、「近隣市町村」が11.2%、「上記3以外の東京都」が10.8%、「都内23区」が5.2%、「飯能市、入間市以外の埼玉県」が1.3%、「神奈川県」が0.9%、「その他の県」が0.3%、「勤めていない・通学していない」が22.1%となっている。



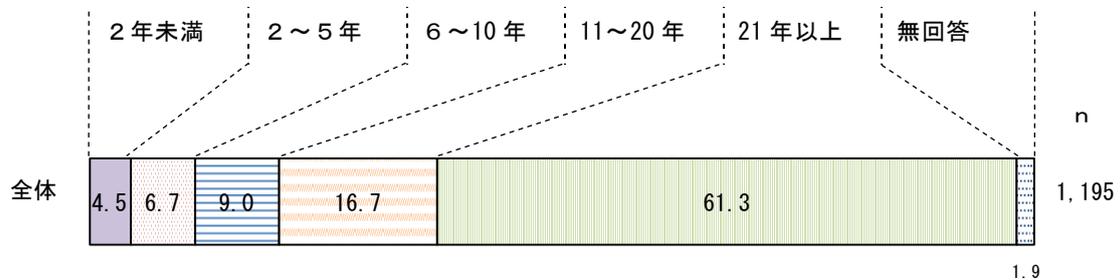
(7) 住居形態

住居形態は、「持ち家（一戸建）」が61.8%、「持ち家（マンションなど）」が14.6%、「公営の賃貸住宅」が3.2%、「借家（一戸建）」が2.2%、「借家（アパート・マンション）」が14.1%、「社宅・寮・公務員住宅」が1.6%、「間借り」が0.2%、「その他」が0.6%となっている。



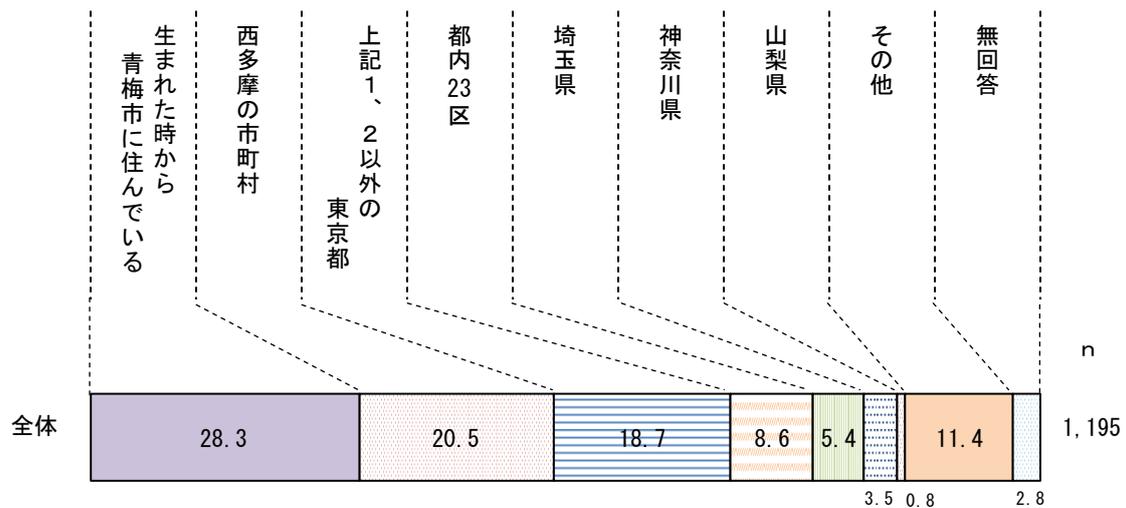
(8) 居住年数

居住年数は、「2年未満」が4.5%、「2～5年」が6.7%、「6～10年」が9.0%、「11～20年」が16.7%、「21年以上」が61.3%となっている。



(9) 青梅市に住む前の居住地

青梅市に住む前の居住地は、「生まれた時から青梅市に住んでいる」が28.3%、「西多摩の市町村」が20.5%、「上記1、2以外の東京都」が18.7%、「都内23区」が8.6%、「埼玉県」が5.4%、「神奈川県」が3.5%、「山梨県」が0.8%、「その他」が11.4%となっている。



Ⅱ 調査結果の分析

1 生活環境について

(1) 住みやすさについて

問1 あなたは、青梅市を住みよいまちだと思えますか。



● 「住みよいと思う」が67.5%、一方「住みにくいと思う」は5.5%。

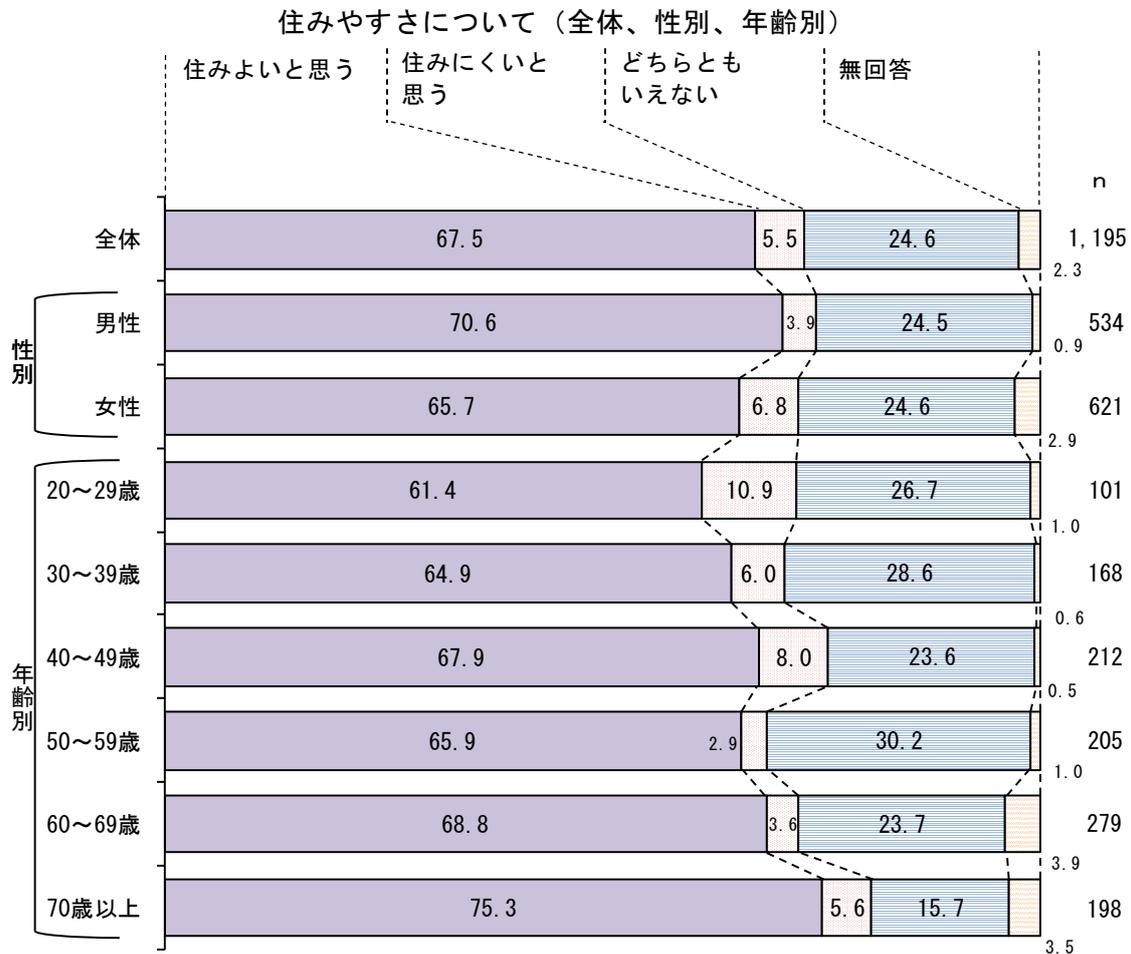
[全体]

市の住みやすさをたずねたところ、「住みよいと思う」が67.5%と6割を超えて最も多く、「どちらともいえない」が24.6%、「住みにくいと思う」が5.5%となっている。

[属性別]

性別でみると、「住みよいと思う」が男性70.6%・女性65.7%となっており、男性がやや多くなっている。

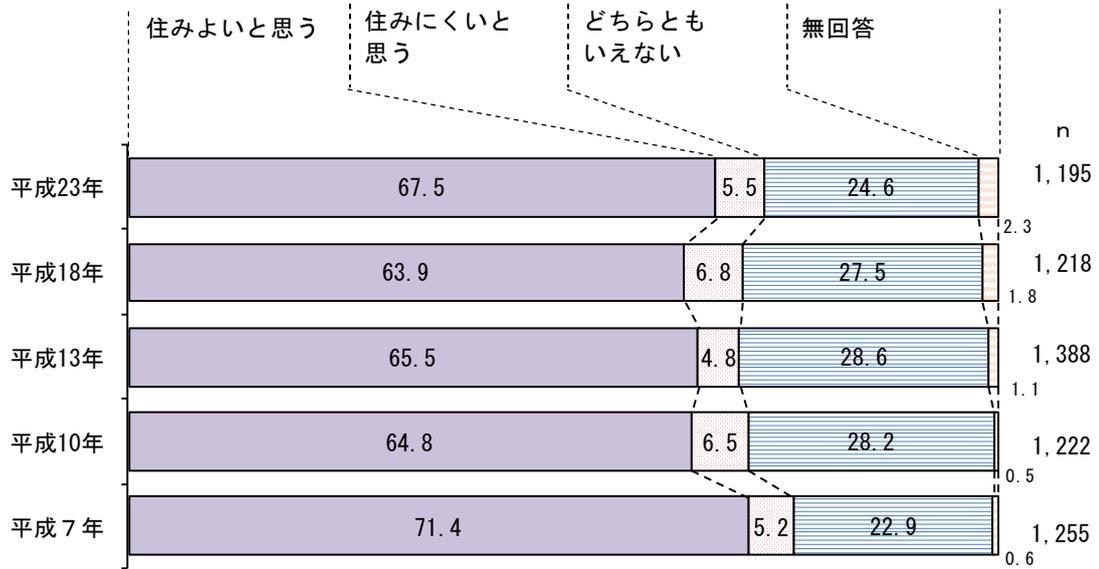
年齢別でみると、すべての年齢層で「住みよいと思う」が6割を超えて最も多く、特に70歳以上で75.3%と7割を超えている。また、20～29歳では「住みにくいと思う」が10.9%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



青梅市の住みやすさについて（平成7年～平成23年）

〔過去との比較〕

過去の調査結果と比較すると、「住みよいと思う」という回答が平成18年の63.9%から今回の調査で67.5%と3.6ポイント増加し、「住みにくいと思う」という回答は平成18年の6.8%から5.5%へと1.3ポイント減少している。



(2) 今後の定住意向

問2 あなたは、これからも青梅市に住み続けたいと思いますか。

● 「今後も住み続けたい」が73.3%。

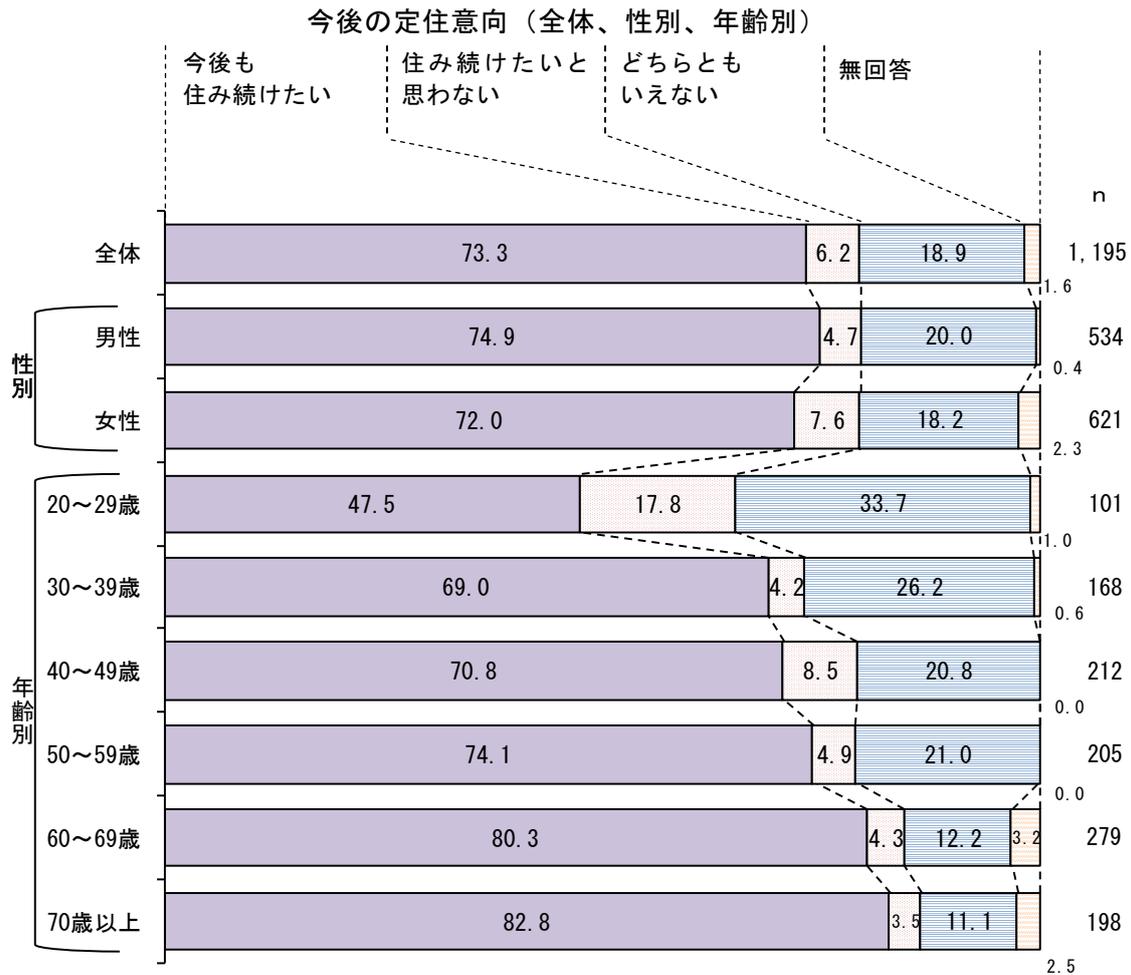
[全体]

今後の定住意向をたずねたところ、「今後も住み続けたい」が73.3%で7割を超えて最も多く、「どちらともいえない」が18.9%、「住み続けたいと思わない」が6.2%となっている。

[属性別]

性別で見ると、「今後も住み続けたい」が男性74.9%・女性72.0%となっており、男性がやや多くなっている。

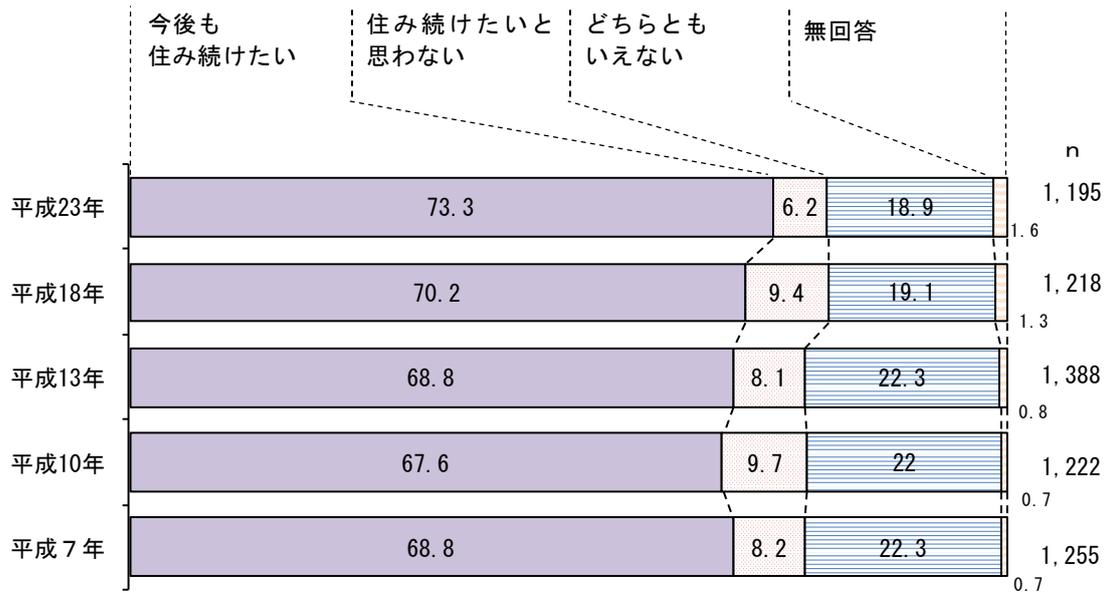
年齢別で見ると、年齢が上がるにつれて、「今後も住み続けたい」が高くなり、60～69歳・70歳以上で80.3%・82.8%と8割を超えている。また、20～29歳では「住み続けたいと思わない」が17.8%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



定住意向の変化（平成7年～平成23年）

[過去との比較]

過去の調査結果と比較すると、「今後も住みたい」という回答が平成18年の70.2%から今回の調査で73.3%と3.1ポイント増加し、「住みたいと思わない」という回答は平成18年の9.4%から6.2%へと3.2ポイント減少している。



(3) 住み続けたい主な理由

問2-1 住み続けたいと思われる主な理由は何ですか。【問2で「1. 今後も住み続けたい」と回答した人のみ/複数回答】



● 「自然環境がよい」、「自分の家や土地がある」、「長年住みなれ愛着がある」が3大理由。

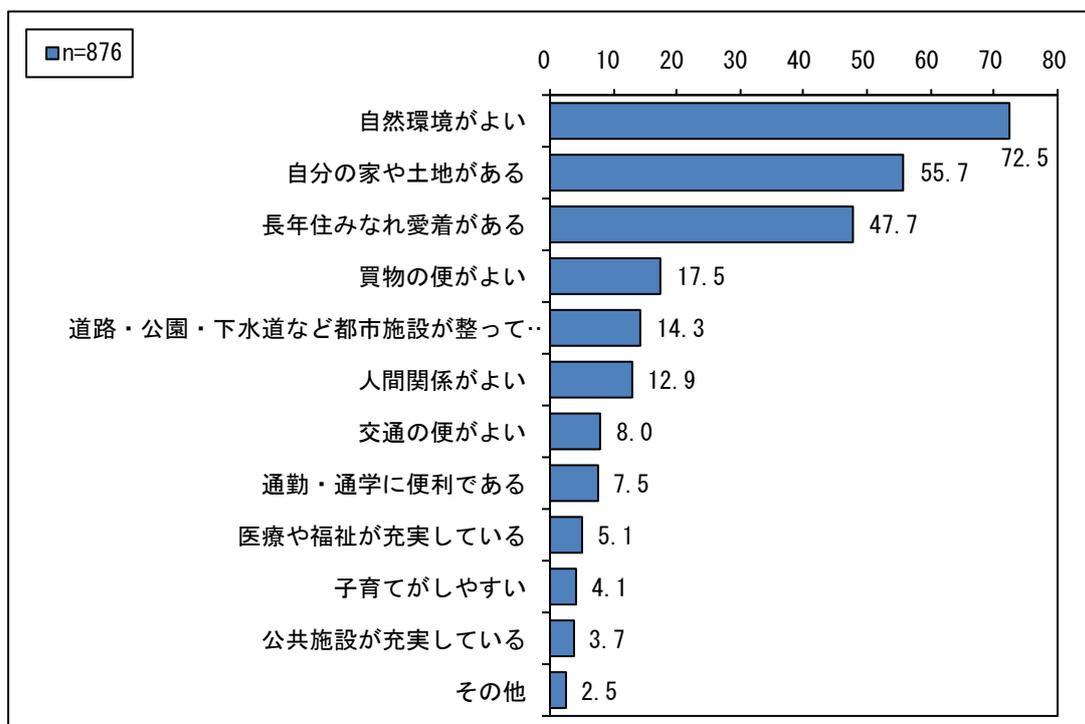
[全体]

「今後も住み続けたい」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「自然環境がよい」が72.5%で第1位に挙げられ、次いで「自分の家や土地がある」が55.7%、「長年住みなれ愛着がある」が47.7%と続き、これらが他を大きく引き離して住み続けたい3大理由となっている。以下「買物の便がよい」が17.5%、「道路・公園・下水道などの都市施設が整っている」が14.3%、「人間関係がよい」が12.9%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「自然環境がよい」、「自分の家や土地がある」、「長年住みなれ愛着がある」が上位に挙げられている。

住み続けたい主な理由（「今後も住み続けたい」と回答した人のみ・全体）



(4) 移転したい主な理由

問2-2 市外へ移転したいと思われる主な理由は何ですか。【問2で「2. 住み続けたいと思わない」と回答した人のみ／複数回答】



● 「交通が不便である」が第1位。次いで「通勤・通学に不便である」、「買い物に不便である」が続く。

[全体]

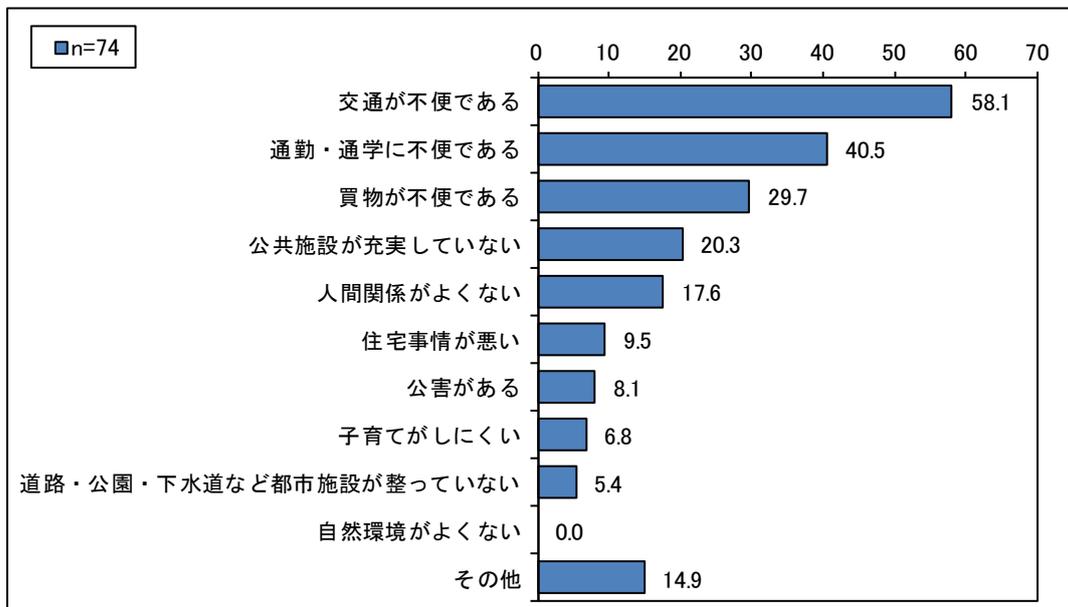
「住み続けたいと思わない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「交通が不便である」が58.1%で第1位に挙げられ、次いで「通勤・通学に不便である」が40.5%、「買物が不便である」が29.7%、「公共施設が充実していない」が20.3%、「人間関係がよくない」が17.6%などの順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「交通が不便である」が56.0%・59.6%で第1位、「通勤・通学に不便である」が52.0%・34.0%で第2位となっている。

年齢別で見ると20～29歳・50～59歳・60～69歳・70歳以上で「交通が不便である」が66.7%・60.0%・66.7%・71.4%、30～39歳で「子育てがしにくい」が42.9%、40～49歳で「交通が不便である」、「通勤・通学に不便である」がともに50.0%で、それぞれ第1位となっている。

移転したい主な理由（「住み続けたいと思わない」と回答した人のみ・全体）



2 生活の状況について

(1) 昨年と比較した暮らし向き

問3 お宅の暮らし向きは昨年の今頃と比べるとどのように変わりましたか。

● 「変わらない」が 58.2%、「苦しくなった」が 34.5%、「楽になった」は 3.3%。

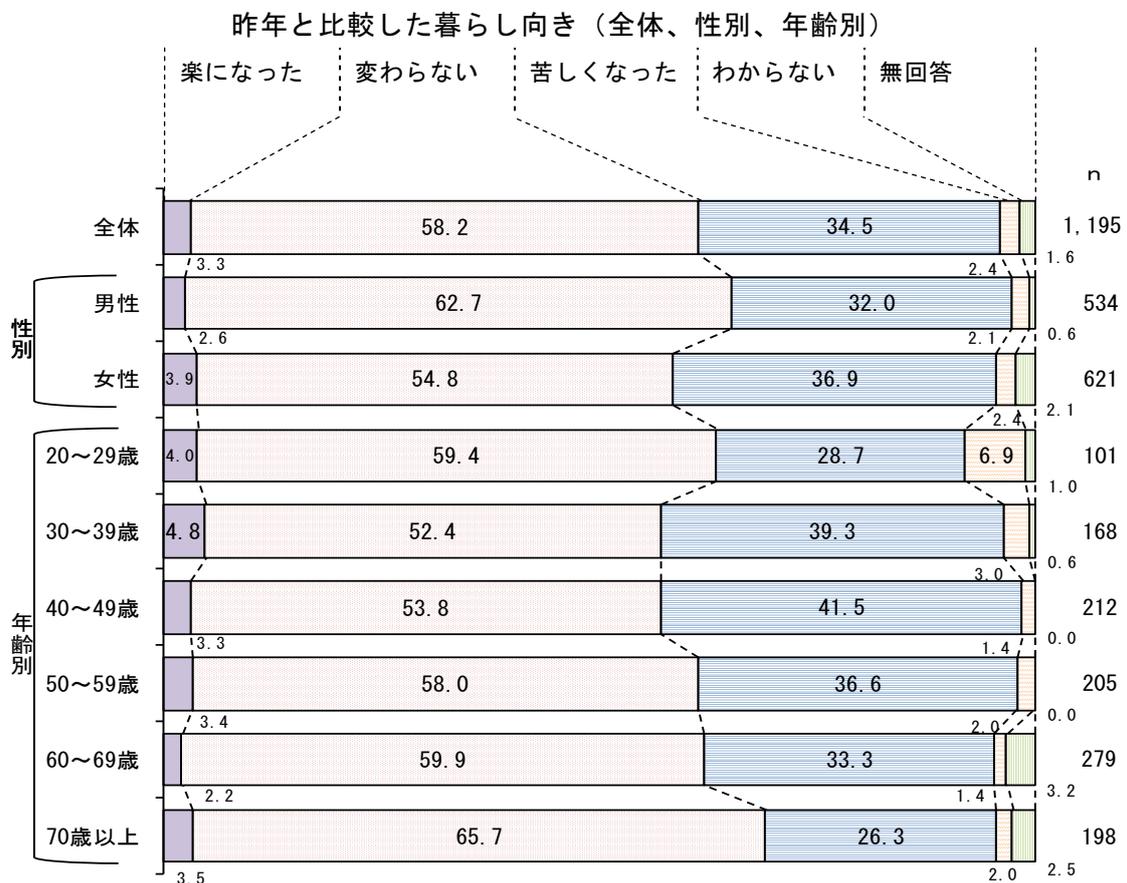
[全体]

暮らし向きの変化をたずねたところ、「変わらない」が 58.2%で半数を超えて最も多く、「苦しくなった」が 34.5%、「楽になった」が 3.3%となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「変わらない」が 62.7%・54.8%で半数を超えて最も多いが、「楽になった」は男性 2.6%・女性 3.9%、「苦しくなった」は男性 32.0%・女性 36.9%と、女性のほうが「楽になった」および「苦しくなった」と明確な回答が多い。

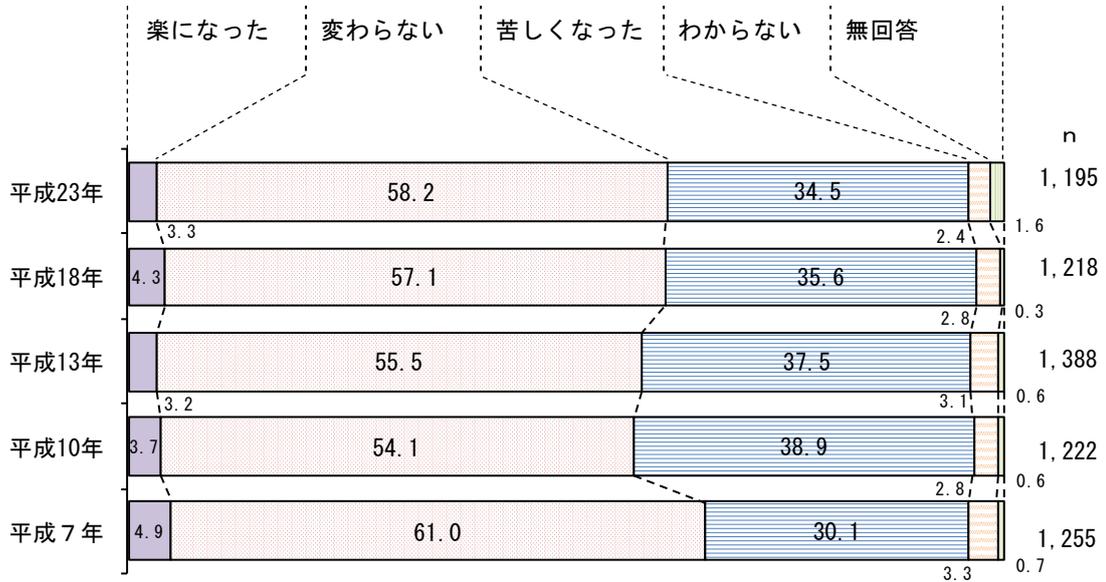
年齢別で見ると、すべての年齢層で「変わらない」が半数を超えて最も多いが、30～39歳・40～49歳では「苦しくなった」が 39.3%・41.5%で約4割を占めており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



暮らし向きの変化（平成7年～平成23年）

[過去との比較]

過去の調査結果と比較すると、「楽になった」という回答が平成18年の4.3%から今回の調査で3.3%と1.0ポイント減少し、「苦しくなった」という回答は平成18年の35.6%から34.5%へと1.1ポイント減少している。



(2) 暮らし向きが楽になった理由

問3-1 楽になった主な理由は何ですか。【問3で「1. 楽になった」と回答した人のみ】

● 「収入が増えた」が47.5%で約半数を占めている。

[全体]

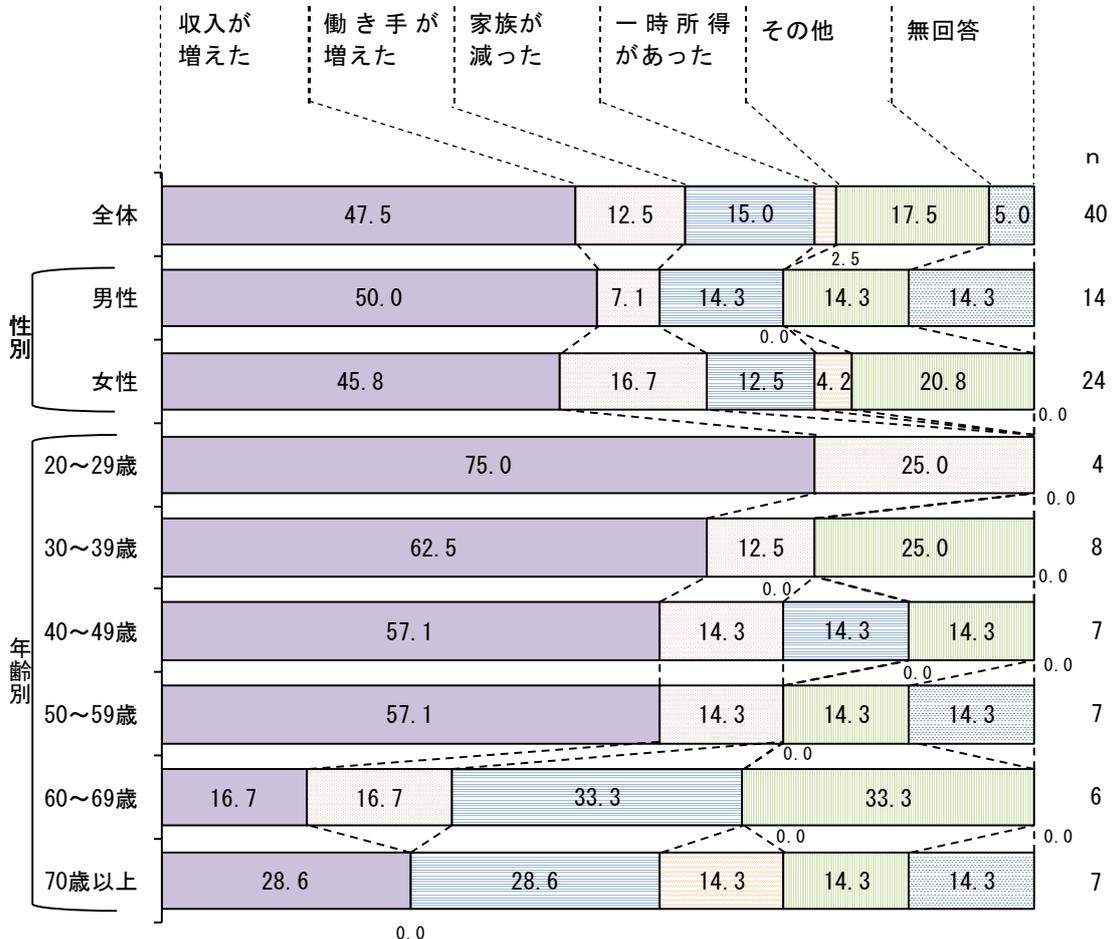
暮らし向きが「楽になった」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「収入が増えた」が47.5%で最も多く、次いで「家族が減った」が15.0%、「働き手が増えた」が12.5%などの順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「収入が増えた」が50.0%・45.8%で最も多くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳・30～39歳・40～49歳・50～59歳で「収入が増えた」が75.0%・62.5%・57.1%・57.1%、60～69歳で「家族が減った」が33.3%、70歳以上で「収入が増えた」、「家族が減った」がともに28.6%で、それぞれ最も多い回答となっている。

暮らし向きが楽になった理由（「楽になった」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



(3) 暮らし向きが苦しくなった理由

問3-2 苦しくなった主な理由は何ですか。【問3で「3. 苦しくなった」と回答した人のみ】

● 「収入が減った」が54.9%で半数を超えている。

[全体]

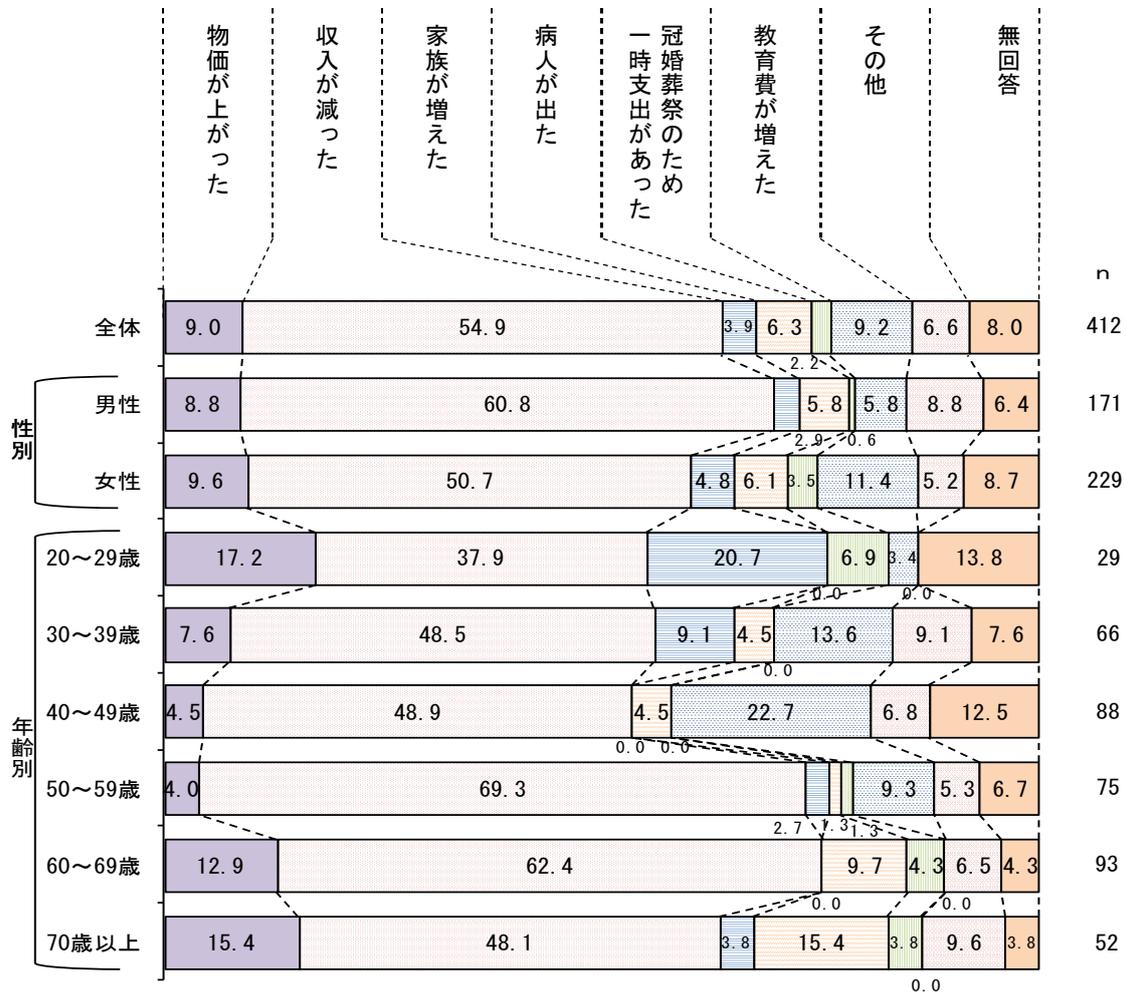
暮らし向きが「苦しくなった」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「収入が減った」が54.9%で最も多く、次いで「教育費が増えた」が9.2%、「物価が上がった」が9.0%、「病人が出た」が6.3%などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「収入が減った」が60.8%・50.7%で最も多くなっている。

年齢別でみるとすべての年齢層で「収入が減った」が最も多く、50～59歳・60～69歳では69.3%・62.4%で6割を超えている。また、20～29歳では「家族が増えた」が20.7%、40～49歳では「教育費が増えた」が22.7%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。

暮らし向きが苦しくなった理由（「苦しくなった」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



(4) 暮らし向きについて

問4 お宅の暮らし向きについて、あなたはどうお考えですか。

● 「今の暮らしではまだ余裕がない」が50.5%で半数を超えている。

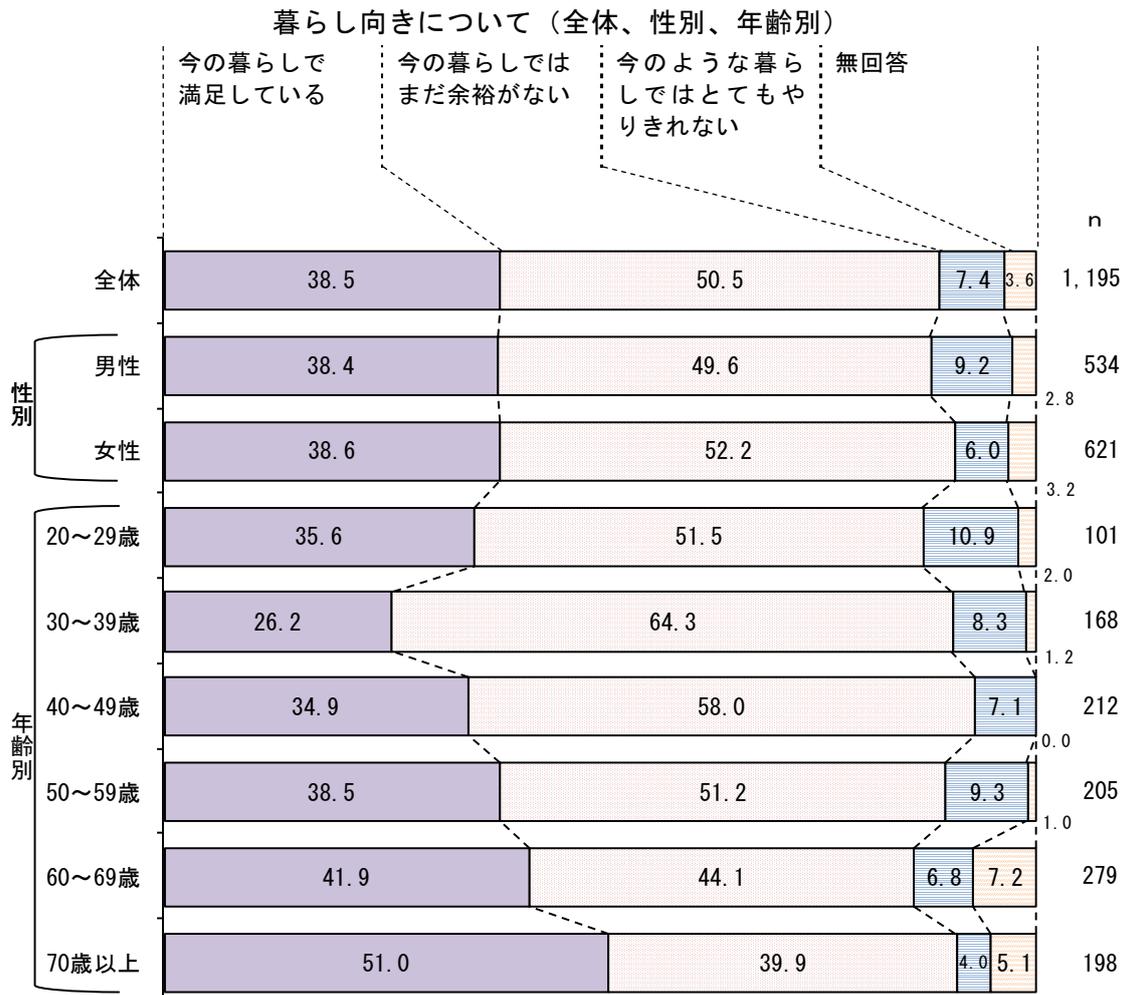
[全体]

暮らし向きについてたずねたところ「今の暮らしではまだ余裕がない」が50.5%で半数を超えて最も多く、次いで「今の暮らしで満足している」が38.5%、「今のよう暮らしではとてもやりきれない」が7.4%となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「今の暮らしではまだ余裕がない」が49.6%・52.2%と約半数を占めて最も多くなっている。

年齢別で見ると、60歳代以下のすべての年齢層で「今の暮らしではまだ余裕がない」が最も多く、30～39歳では64.9%で6割を超えている。また、30歳代より年齢が上がるにつれて「今の暮らしでは余裕がない」と回答する割合が低くなり、「今の暮らしで満足している」が高くなる傾向にあり、70歳以上では51.0%で半数を超えている。



(5) 余裕が欲しいと思う点

問4-1 どういう点でもっと余裕が欲しいと思われますか。【問4で「2. 余裕がない」または「3. とてもやりきれないと回答した人のみ」】

● 「預・貯金」が51.4%で半数を超えている。

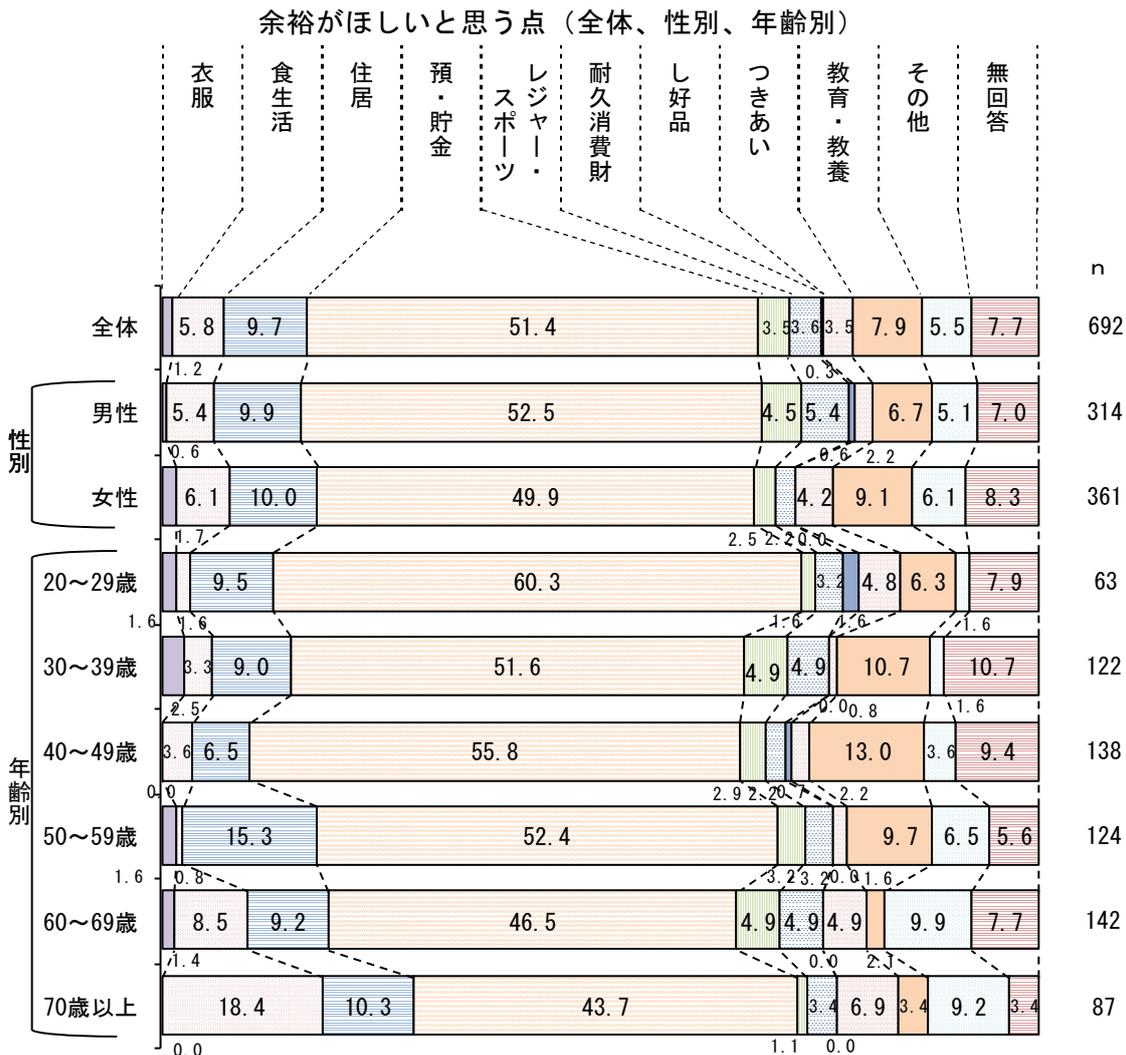
[全体]

余裕がほしいと思う点をたずねたところ、「預・貯金」が51.4%で半数を超えて最も多く、次いで「住居」が9.7%、「教育・教養」が7.9%などの順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「預・貯金」が52.5%・49.9%と約半数を占めて最も多くなっている。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「預・貯金」が最も多く、20～29歳では60.3%で6割を超えている。また、70歳以上では「食生活」が18.4%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



3 今後のまちづくりの方向について

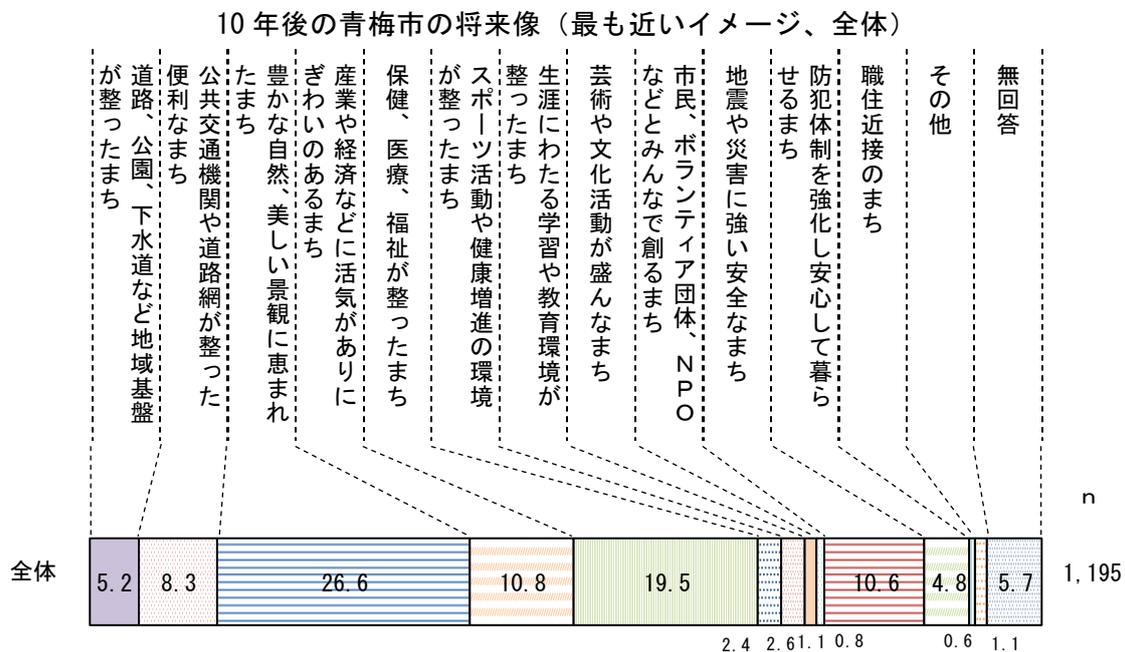
(1) 10年後の青梅市の将来像

問5 10年後の青梅市の将来像について、どのような市になればよいと思いますか。次の中から、あなたが考える「最も近いイメージ」、「2番目に近いイメージ」、「3番目に近いイメージ」を下の枠の中からそれぞれ選び、回答欄に番号を書き入れてください。

- 「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」、「保健、医療、福祉が整ったまち」、「地震や災害に強い安全なまち」が将来イメージの上位に挙げられている。

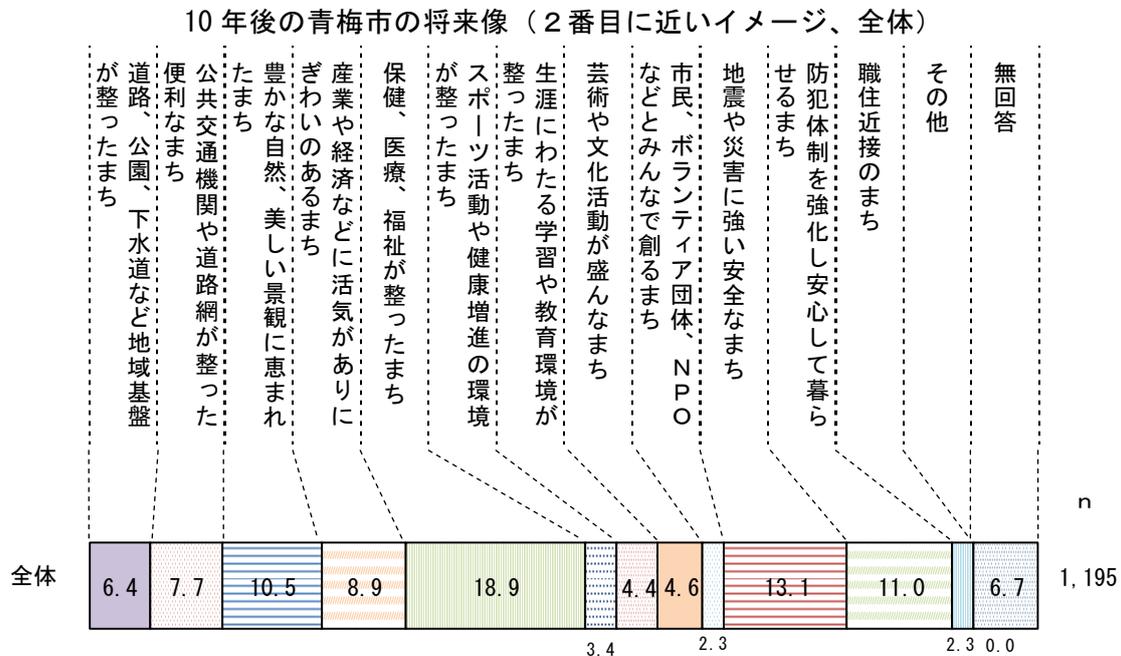
[最も近いイメージ]

青梅市の将来像について、「最も近いイメージ」をたずねたところ、「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」が26.6%で最も多く、次いで「保健、医療、福祉が整ったまち」が19.5%、「産業や経済などに活気がありにぎわいのあるまち」が10.8%、「地震や災害に強い安全なまち」が10.6%などの順となっている。



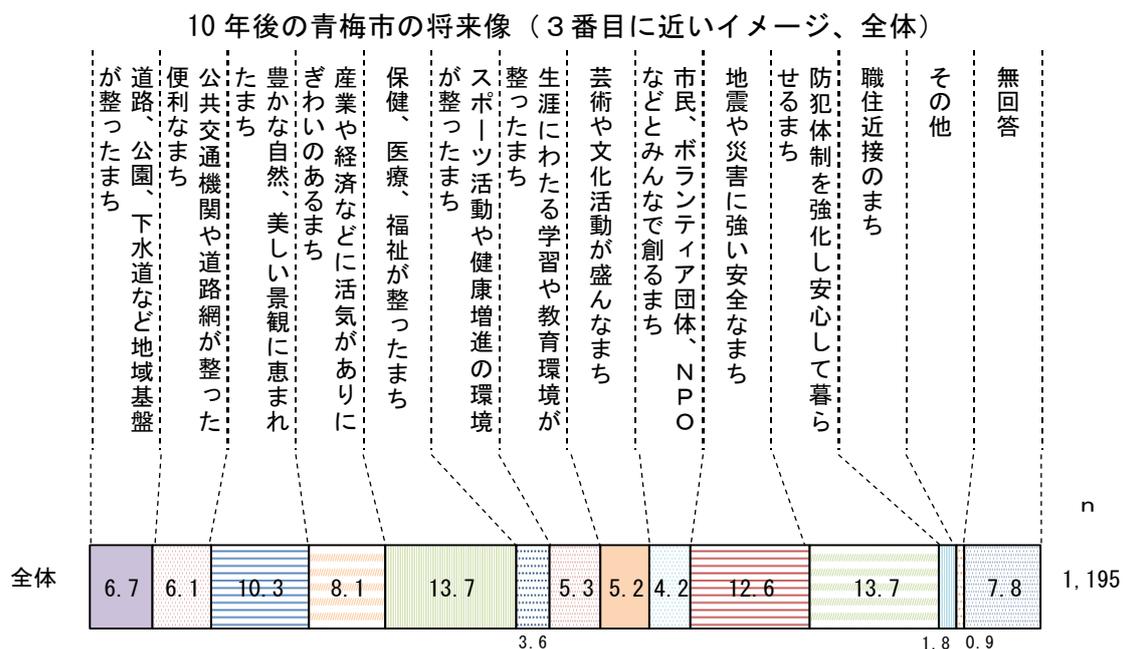
[2番目に近いイメージ]

青梅市の将来像について、「2番目に近いイメージ」をたずねたところ、「保健、医療、福祉が整ったまち」が18.9%で最も多く、次いで「地震や災害に強い安全なまち」が13.1%、「防犯体制を強化し安心して暮らせるまち」が11.0%、「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」が10.5%などの順となっている。



[3番目に近いイメージ]

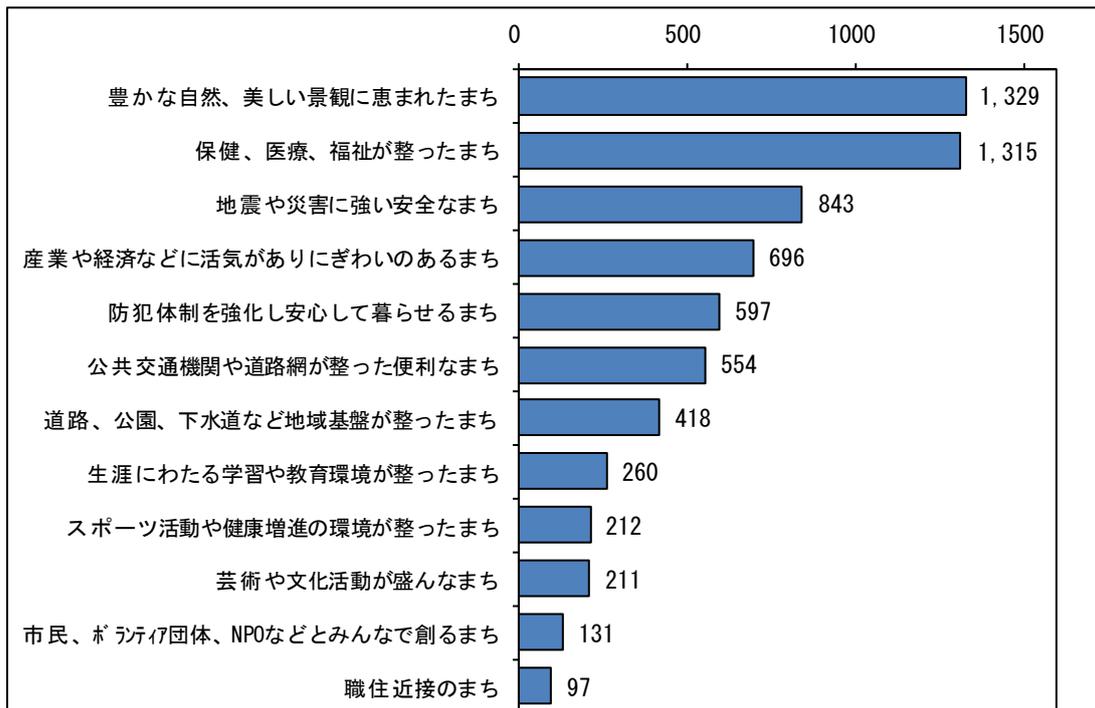
青梅市の将来像について、「3番目に近いイメージ」をたずねたところ、「保健、医療、福祉が整ったまち」および「防犯体制を強化し安心して暮らせるまち」がともに13.7%で最も多く、次いで「地震や災害に強い安全なまち」が12.6%、「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」が10.3%などの順となっている。



[ポイントによる順位]

青梅市の将来像について、「最も近いイメージ」は3点、「2番目に近いイメージ」は2点、「3番目に近いイメージ」は1点と配点し、回答者数を掛けて加重点を算出してみた。その結果をみると「豊かな自然、美しい景観に恵まれたまち」(1,329点)が第1位に挙げられ、次いで「保健、医療、福祉が整ったまち」(1,315点)、「地震や災害に強い安全なまち」(843点)、「産業や経済などに活気がありにぎわいのあるまち」(696点)、「防犯体制を強化し安心して暮らせるまち」(597点)、「公共交通機関や道路網が整った便利なまち」(554点)などの順となっている。

10年後の青梅市の将来像（ポイント、全体）



(2) 重点的に取り組むべき施策

問6 あなたは、青梅市が今後5年間で重点的に取り組んでいくべき施策は何だと思いますか。【複数回答】



- 「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」が第1位。次いで「地域医療・救急医療体制の充実を図る」、「自然と調和した美しいまちづくりに努める」、「道路などを整備し、安全な交通環境をつくる」、「鉄道・バス交通の充実に向けた取組を強化する」が続く。

[全体]

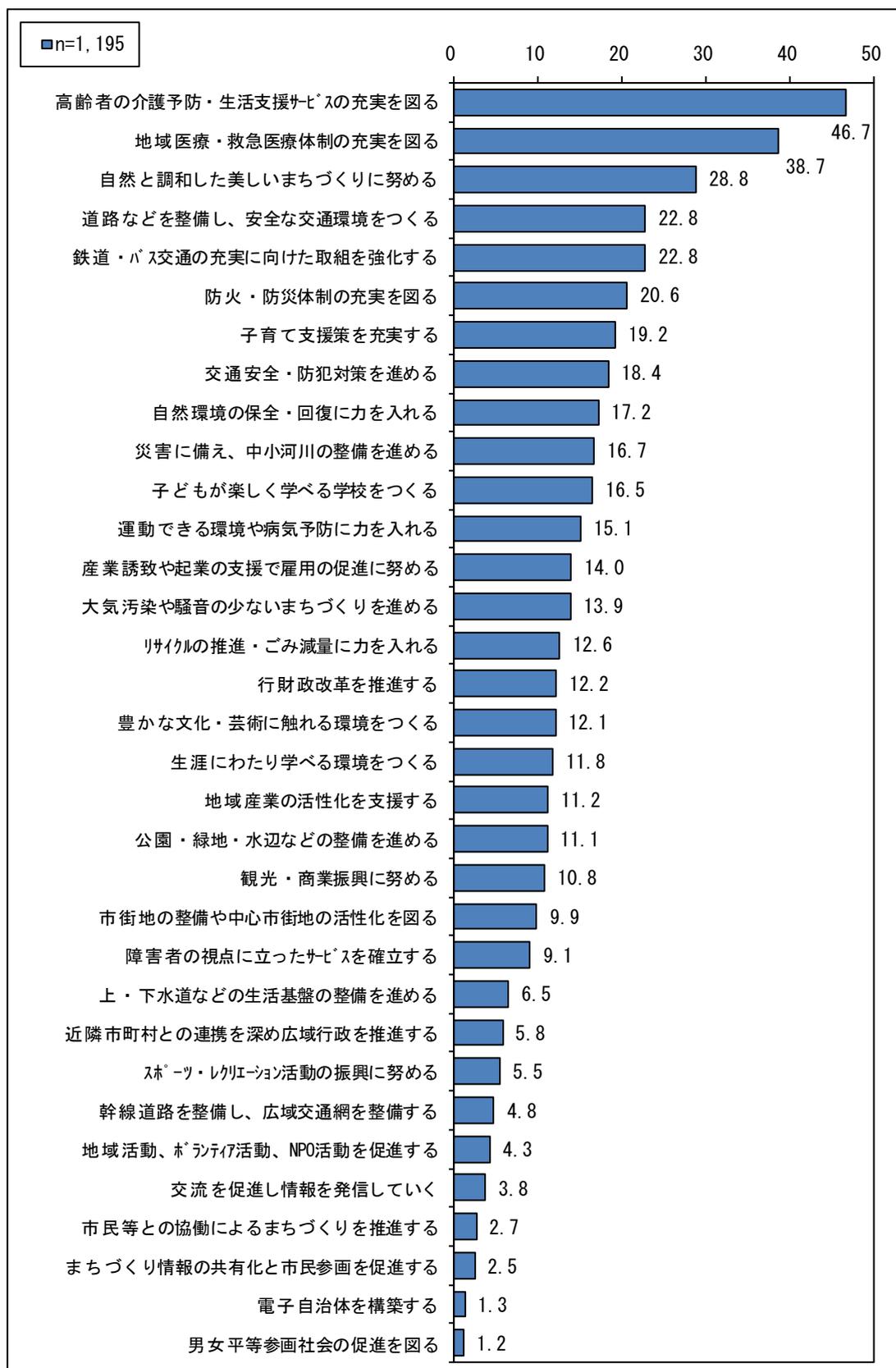
重点的に取り組むべき施策をたずねたところ、「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」が46.7%で第1位に挙げられ、次いで「地域医療・救急医療体制の充実を図る」が38.7%、「自然と調和した美しいまちづくりに努める」が28.8%、「道路などを整備し、安全な交通環境をつくる」および「鉄道・バス交通の充実に向けた取組を強化する」がともに22.8%などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」が44.0%・49.4%で第1位となっている。

年齢別でみると、20～29歳・30～39歳で「子育て支援策を充実する」が33.7%・47.0%、40～49歳で「地域医療・救急医療体制の充実を図る」が39.6%、50～59歳・60～69歳・70歳以上で「高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る」が52.7%・58.7%・60.6%で、それぞれ第1位となっている。

重点的に取り組むべき施策（全体）



重点的に取り組むべき施策（全体、性別、年齢別）

（上位5位）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る 46.7	地域医療・救急医療体制の充実を図る 38.7	自然と調和した美しいまちづくりに努める 28.8	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる／鉄道・バス交通の充実に向けた取組を強化する 22.8	
性別	男性	高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る 44.0	地域医療・救急医療体制の充実を図る 36.5	自然と調和した美しいまちづくりに努める 32.6	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 21.9	自然環境の保全・回復に力を入れる 21.0
	女性	高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る 49.4	地域医療・救急医療体制の充実を図る 40.9	自然と調和した美しいまちづくりに努める 26.1	鉄道・バス交通の充実に向けた取組を強化する 25.1	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 23.8
年齢	20～29歳	子育て支援策を充実する 33.7	自然と調和した美しいまちづくりに努める 31.7	子どもが楽しく学べる学校をつくる／鉄道・バス交通の充実に向けた取組を強化する 26.7		交通安全・防犯対策を進める 24.8
	30～39歳	子育て支援策を充実する 47.0	高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る 35.7	地域医療・救急医療体制の充実を図る 35.1	自然と調和した美しいまちづくりに努める 30.4	交通安全・防犯対策を進める／子どもが楽しく学べる学校をつくる 28.0
	40～49歳	地域医療・救急医療体制の充実を図る 39.6	高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る 35.4	鉄道・バス交通の充実に向けた取組を強化する 29.2	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 26.4	自然と調和した美しいまちづくりに努める 25.9
	50～59歳	高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る 52.7	地域医療・救急医療体制の充実を図る 48.8	自然と調和した美しいまちづくりに努める 31.2	鉄道・バス交通の充実に向けた取組を強化する 23.9	防火・防災体制の充実を図る 21.0
	60～69歳	高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る 58.4	地域医療・救急医療体制の充実を図る 43.4	自然と調和した美しいまちづくりに努める 25.8	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 25.1	防火・防災体制の充実を図る 22.6
	70歳以上	高齢者の介護予防・生活支援サービスの充実を図る 60.6	地域医療・救急医療体制の充実を図る 34.3	自然と調和した美しいまちづくりに努める 32.3	道路などを整備し、安全な交通環境をつくる 24.7	災害に備え、中小河川の整備を進める／防火・防災体制の充実を図る 21.2

(3) 理想的な生活

問7 10年後のあなたの理想的な生活はどのような生活でしょうか。次の中から、どのような活動を増やしたい(始めたい)か、減らしたい(したくない)か、それぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。



● 「のんびり時間を過ごす生活」、「自然の中で散策したり遊ぶ生活」を増やしたい人が多い。

[「増やしたい(始めたい)」が最も多い活動]

理想的な生活でどのような活動を増やしたいかたずねたところ、「増やしたい(始めたい)」と回答した率が最も多い項目は19項目中3項目となっている。

- ・「のんびり時間を過ごす生活」55.9%
- ・「自然の中で散策したり遊ぶ生活」49.0%
- ・「お金をかけない遊びを楽しむ生活」43.9%

[「現状で良い」が最も多い活動]

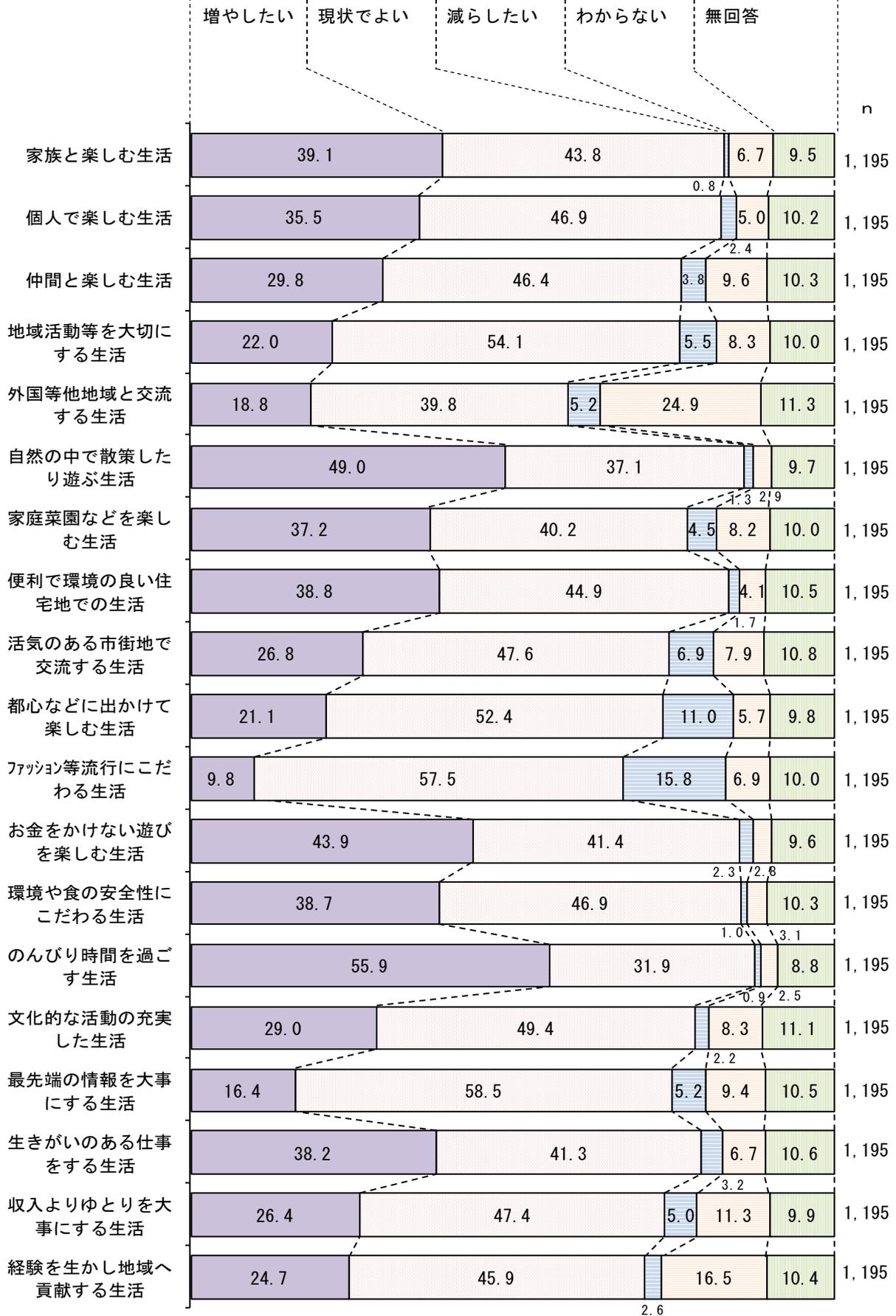
「現状で良い」と回答した率が最も多い項目は19項目16項目となっている。

- ・「最先端の情報を大事にする生活」58.5%
- ・「ファッション等流行にこだわる生活」57.5%
- ・「地域活動等を大切にする生活」54.1%
- ・「都心などに出かけて楽しむ生活」52.4%
- ・「文化的な活動の充実した生活」49.4%
- ・「活気のある市街地で交流する生活」47.6%
- ・「収入よりゆとりを大事にする生活」47.4%
- ・「個人で楽しむ生活」、「環境や食の安全性にこだわる生活」46.9%
- ・「仲間と楽しむ生活」46.4%
- ・「経験を生かし地域へ貢献する生活」45.9%
- ・「便利で環境の良い住宅地での生活」44.9%
- ・「家族と楽しむ生活」43.8%
- ・「生きがいのある仕事をする生活」41.3%
- ・「家庭菜園などを楽しむ生活」40.2%
- ・「外国等他地域と交流する生活」39.8%

[「減らしたい(したくない)」が比較的多い項目]

「減らしたい(したくない)」と回答した率が比較的多い項目は、「ファッション等流行にこだわる生活」が15.8%、「都心などに出かけて楽しむ生活」が11.0%などとなっている。

理想的な生活（全体）



4 住宅について

(1) 住宅対策で力を入れてほしいこと

問8 今後の住宅施策のうち、あなたはどれに一番力を入れてほしいと思いますか。

● 「耐震化への対応」が最も多く、次いで「環境配慮への対応」、「バリアフリーへの対応」の順。

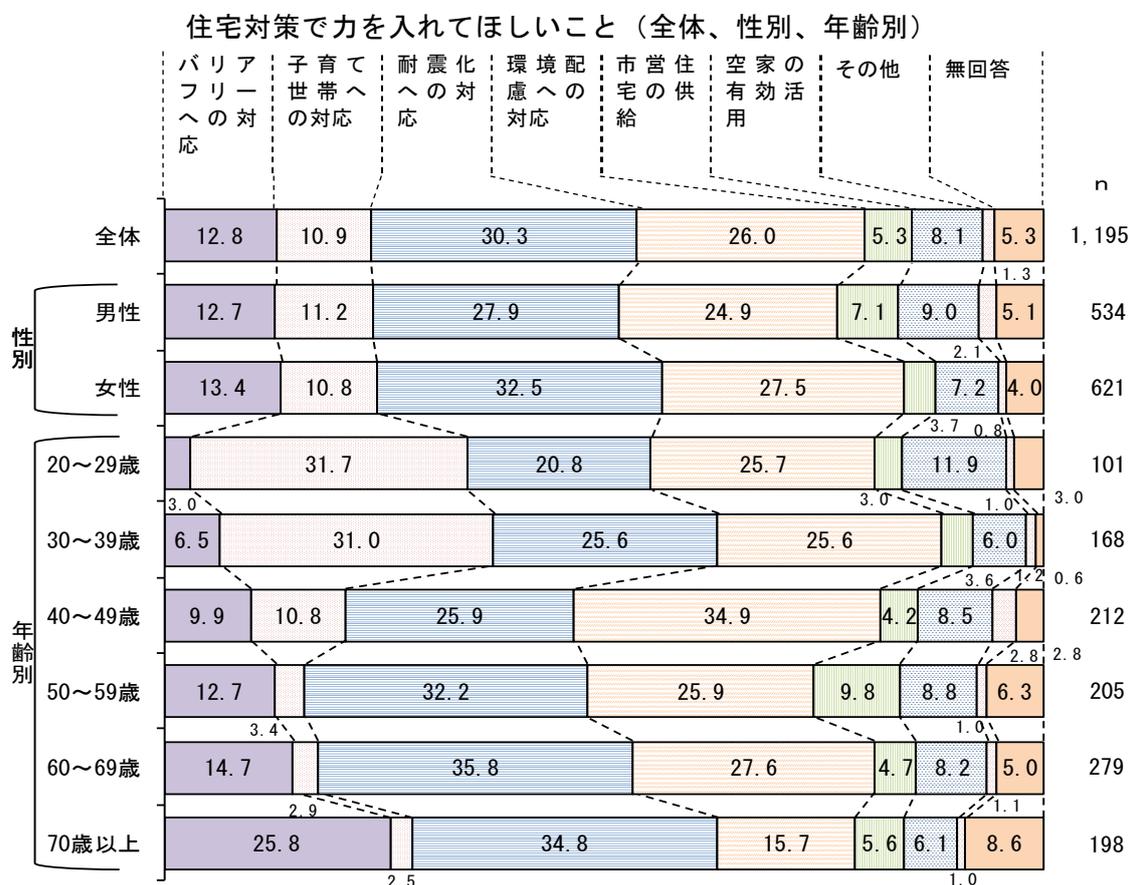
[全体]

住宅対策については、「耐震化への対応」が30.3%で最も多く、次いで「環境配慮への対応」が26.0%、「バリアフリーへの対応」が12.8%、「子育て世帯への対応」が10.9%などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「耐震化への対応」が27.9%・32.5%で最も多く、次いで「環境配慮への対応」が24.9%・27.5%となっている。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「バリアフリーへの対応」と回答する割合が高くなり、70歳以上では25.8%となっている。一方、年齢が若いほど「子育て世帯への対応」の割合が高く20～29歳では31.7%、30～39歳では31.0%となっている。



5 ごみ減量について

(1) ごみの減量推進に有効なこと

問9 ごみの減量を推進するには、何が有効だと思いますか。【複数回答】

- 「資源物は自治会等の資源回収に出す」が第1位。次いで「小中学生を対象とした環境教育に力を入れる」、「広報おうめ等で市民に啓発する」が続く。

[全体]

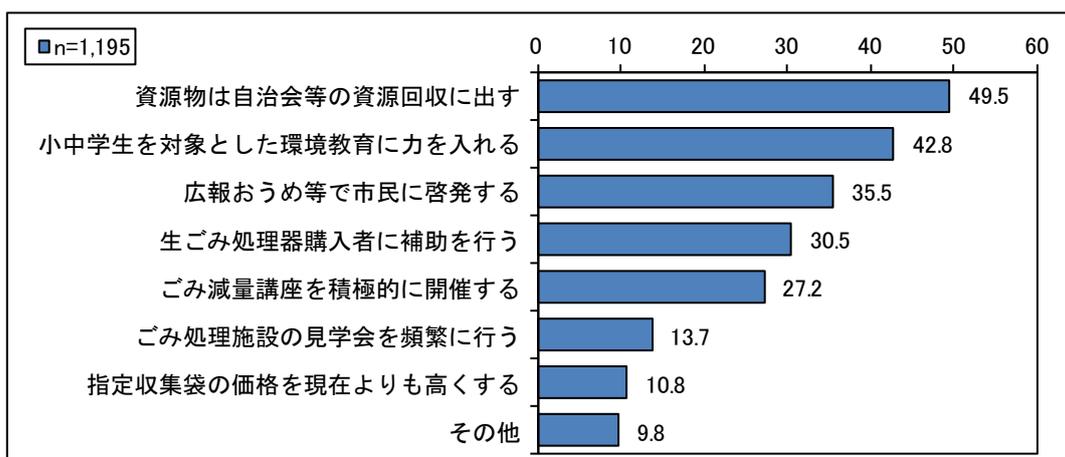
ごみの減量推進に有効なことについては、「資源物は自治会等の資源回収に出す」が49.5%で第1位に挙げられ、次いで「小中学生を対象とした環境教育に力を入れる」が42.8%、「広報おうめ等で市民に啓発する」が35.5%、「生ごみ処理器購入者に補助を行う」が30.5%、「ごみ減量講座を積極的に開催する」が27.2%などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「資源物は自治会等の資源回収に出す」が48.3%・50.7%で第1位、「小中学生を対象とした環境教育に力を入れる」が41.4%・44.9%で第2位となっている。

年齢別でみると20～29歳・50～59歳・60～69歳・70歳以上で「資源物は自治会等の資源回収に出す」が48.5%・44.4%・56.6%・60.6%、30～39歳・40～49歳で「小中学生を対象とした環境教育に力を入れる」が50.0%・48.6%で、それぞれ第1位となっている。

ごみの減量推進に有効なこと（全体）



(2) ごみを減らすための工夫

問 10 あなたは、ごみを減らすために（リサイクルするために）どのような工夫をしていますか。【複数回答】



- 「資源として出せるものを分別する」が第1位。次いで「マイバッグを活用している」、「不要品はリサイクル店に持ち込む」が続く。

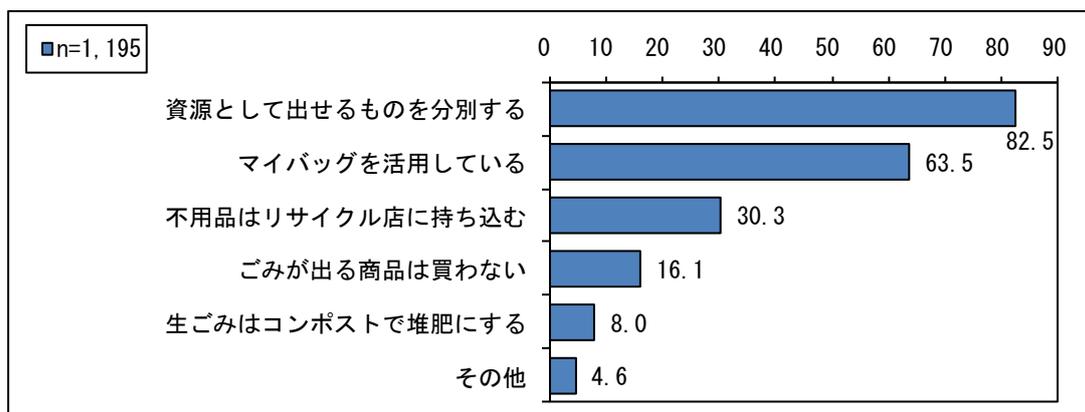
[全体]

ごみを減らすための工夫をたずねたところ、「資源として出せるものを分別する」が82.5%で第1位に挙げられ、次いで「マイバッグを活用している」が63.5%、「不要品はリサイクル店に持ち込む」が30.3%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別で見ると、全体と同様にすべての層で「資源として出せるものを分別する」が7割を超えて第1位であり、ごみの分別に対する意識は高い。また、「マイバッグを活用している」もすべての層で半数を超えている。

ごみを減らすための工夫（全体）



6 防災・防犯対策について

(1) 脅威を感じる自然災害

問 11 過去に各地で起こった大震災や台風・大雨による水害等の教訓から、自然災害による被害を軽減するために、より一層の地域防災対策の強化が求められています。そこで、市では、災害に強いまちづくりを進めていくために、市民の皆様への防災に対する意識や実態についてお聴きします。あなたの家庭では、どのような災害に脅威を感じていますか。【複数回答】

● 「地震」が第1位。次いで「火災」、「台風」、「集中豪雨」が続く。

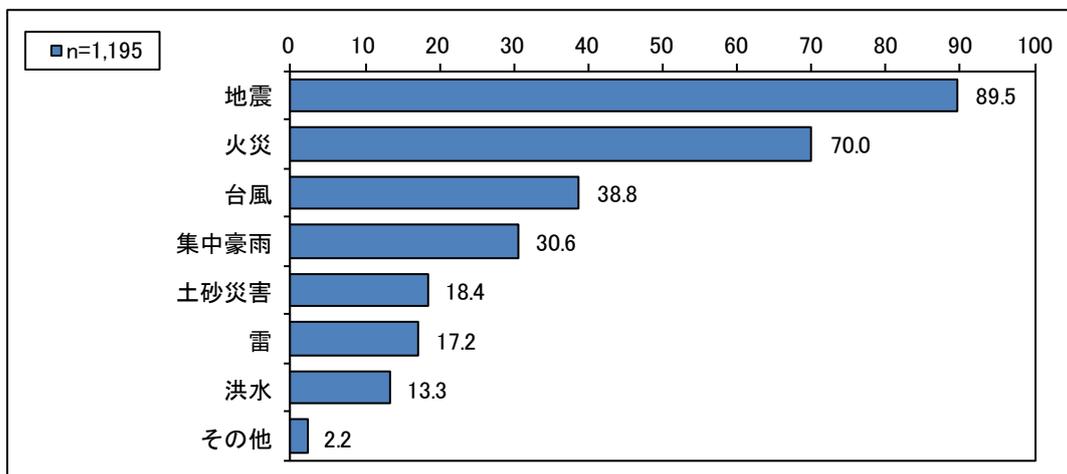
[全体]

脅威を感じる自然災害についてたずねたところ「地震」が89.5%で第1位に挙げられ、次いで「火災」が70.0%、「台風」が38.8%、「集中豪雨」が30.6%、「土砂災害」が18.4%、「雷」が17.2%、「洪水」が13.3%の順となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「地震」が8割を超えて第1位となっている。また、「火災」もすべての層で6割を超えている。

脅威を感じる自然災害（全体）



(2) 自然災害に対する備え

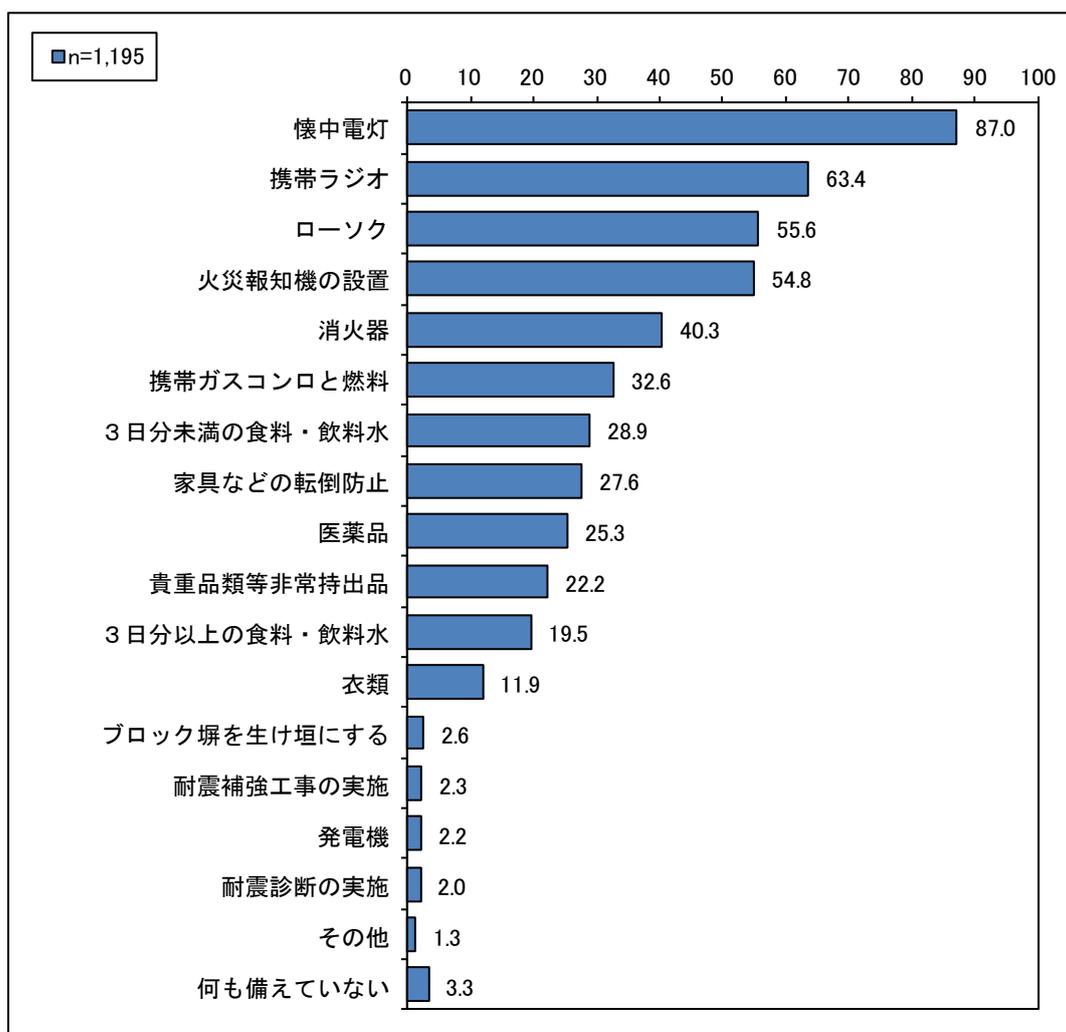
問 12 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。【複数回答】

● 「懐中電灯」が第1位。次いで「携帯ラジオ」、「ローソク」、「火災報知機の設置」が続く。

[全体]

災害に対する備えについてたずねたところ、「懐中電灯」が87.0%で第1位に挙げられ、次いで「携帯ラジオ」が63.4%、「ローソク」が55.6%、「火災報知機の設置」が54.8%、「消火器」が40.3%、「携帯ガスコンロと燃料」が32.6%などの順となっている。なお、「何も備えていない」は3.3%となっている。

自然災害に対する備え（全体）



[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「懐中電灯」が第1位に挙げられ、次いで「携帯ラジオ」の順となっている。

年齢別でみると、すべての年齢層で「懐中電灯」が第1位に挙げられている。また、20～29歳・30～39歳で「火災報知機の設置」、40～49歳・50～59歳・60～69歳・70歳代以上で「携帯ラジオ」が第2位となっている。

自然災害に対する備え（全体、性別、年齢別）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		懐中電灯	携帯ラジオ	ローソク	火災報知機の設置	消火器
		87.0	63.4	55.6	54.8	40.3
性別	男性	懐中電灯	携帯ラジオ	ローソク	火災報知機の設置	消火器
		86.5	62.5	52.8	51.5	38.0
	女性	懐中電灯	携帯ラジオ	火災報知機の設置	ローソク	消火器
		87.8	65.1	58.1	58.0	42.0
年齢	20～29歳	懐中電灯	火災報知機の設置	ローソク	携帯ラジオ	消火器／医薬品
		79.2	46.5	40.6	35.6	19.8
	30～39歳	懐中電灯	火災報知機の設置	携帯ラジオ	ローソク	3日分未満の食料・飲料水
		82.7	52.4	45.8	45.2	38.1
	40～49歳	懐中電灯	携帯ラジオ	火災報知機の設置	ローソク	消火器
		87.7	60.4	59.9	52.8	41.0
	50～59歳	懐中電灯	携帯ラジオ	ローソク	火災報知機の設置	消火器
		88.8	68.8	59.5	50.7	41.5
	60～69歳	懐中電灯	携帯ラジオ	ローソク	火災報知機の設置	消火器
		87.8	76.3	64.2	53.0	40.9
	70歳以上	懐中電灯	携帯ラジオ	火災報知機の設置	ローソク	消火器
		92.4	75.8	62.6	59.1	54.5

(3) 何も備えていない理由

問 12-1 何も備えていない理由は何ですか。

- 「経済的に困難」が最も多く、次いで「集合・賃貸住宅なので自分で決められない」、「必要を感じない」の順。

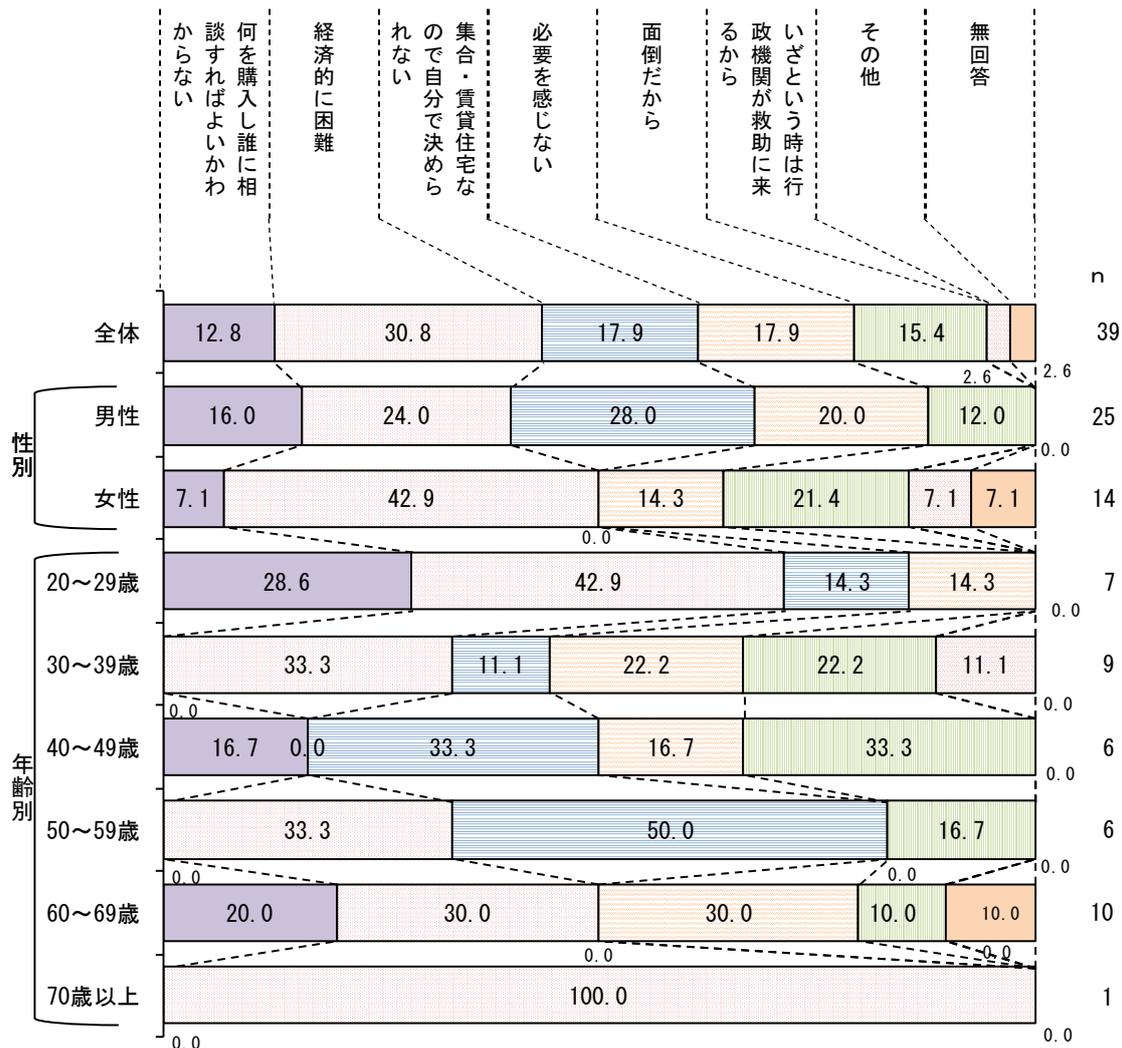
[全体]

問 12 で「何も備えていない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「経済的に困難」が 30.8%で最も多く、次いで「集合・賃貸住宅なので自分で決められない」および「必要を感じない」がともに 17.9%、「面倒だから」が 15.4%、「何を購入し誰に相談すればよいかわからない」が 12.8%の順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性で「集合・賃貸住宅なので自分で決められない」が 28.0%、「経済的に困難」が 24.0%、女性で「経済的に困難」が 42.9%で上位に挙げられている。

何も備えていない理由（「何も備えていない」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



(4) 防災対策で市に期待または充実すべきと思うこと

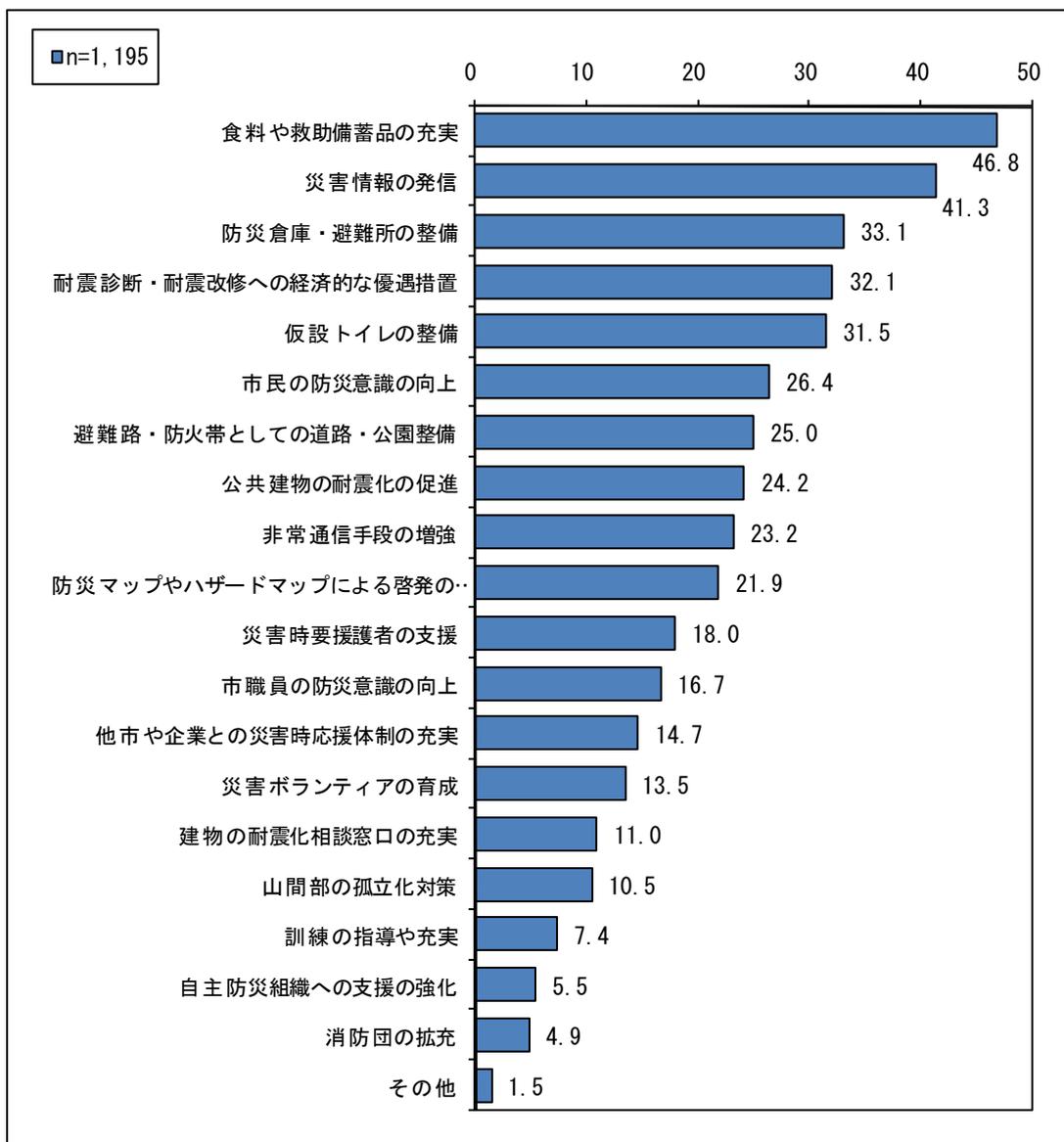
問 13 防災対策で市に期待するまたは充実すべきだと思うものは何ですか。【複数回答】

● 「食料や救助備蓄品の充実」が第1位。次いで「災害情報の発信」、「防災倉庫・避難所の整備」が続く。

[全体]

市に対して期待する防災対策をたずねたところ、「食料や救助備蓄品の充実」が46.8%で第1位に挙げられ、次いで「災害情報の発信」が41.3%、「防災倉庫・避難所の整備」が33.1%、「耐震診断・耐震改修への経済的な優遇措置」が32.1%、「仮設トイレの整備」が31.5%などの順となっている。

防災対策で市に期待または充実すべきと思うこと（全体）



(5) 青梅市消防団活動で知っていること

問 14 青梅市消防団は、平成23年2月1日現在で666名の団員がいますが、あなたは青梅市消防団について、どの程度知っていますか。【複数回答】

● 「消火活動」が第1位。次いで「火災予防活動」、「出初式」が続く。

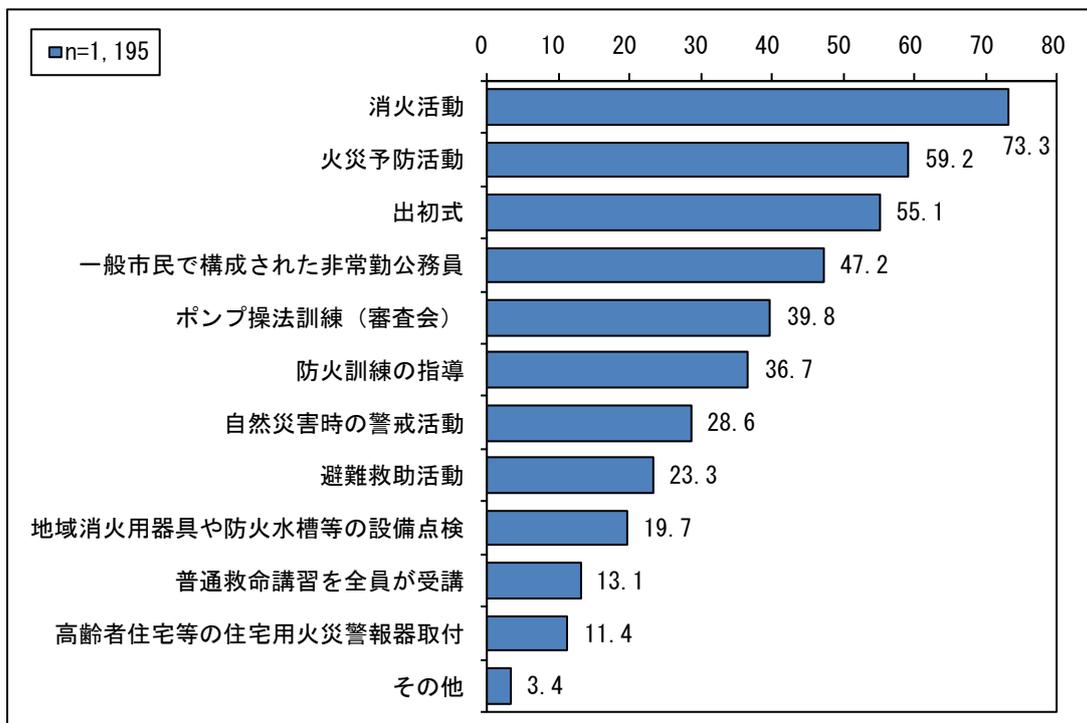
[全体]

青梅市消防団活動で知っていることをたずねたところ、「消火活動」が73.3%で第1位に挙げられ、次いで「火災予防活動」が59.2%、「出初式」が55.1%、「一般市民で構成された非常勤公務員」が47.2%、「ポンプ操法訓練（審査会）」が39.8%、「防火訓練の指導」が36.7%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別で見ると、全体と同様にすべての層で「消火活動」が6割を超えて第1位となっている。また、「火災予防活動」、「出初式」、「一般市民で構成された非常勤公務員」が上位に挙げられている。

青梅市消防団活動で知っていること（全体）



(6) 防災行政無線のチャイム放送の時間

問 15 防災行政無線の定時放送として、午後5時にチャイム放送をしています
が、放送時間についてお聴きします。

● 「今のままで良い」が82.3%で8割を超える。

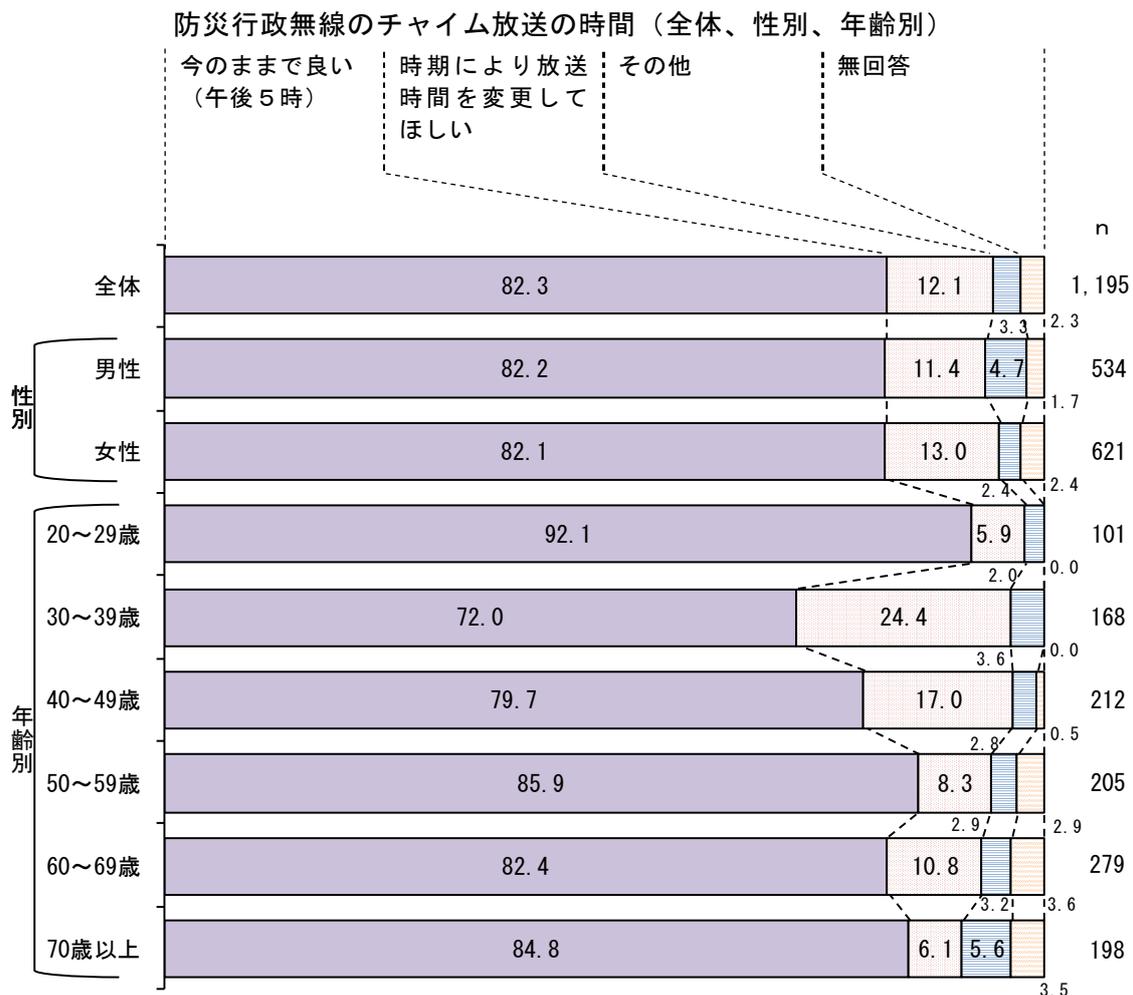
[全体]

防災行政無線のチャイム放送時間についてたずねたところ「今のままで良い」が82.3%で最も多く、次いで「時期により放送時間を変更してほしい」が12.1%となっており、8割を超える人が今のままで良いと回答している。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「今のままで良い」が82.2%・82.1%で8割を超えて最も多くなっている。

年齢別でみると、すべての年齢層で「今のままで良い」が7割を超えて最も多くなっているが、30～39歳では「時期により放送時間を変更してほしい」が24.4%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



(7) チャイム放送の希望放送時間

問 15-1 放送時間は何時が適当だと思えますか。【問 15 で「2. 時期によって放送時間を変更してほしい」と回答された方のみ】



● 4月から9月の放送時間は、「午後5時」が最も多く、次いで「午後6時」。
10月から3月の放送時間は、「午後4時」が最も多く、次いで「午後5時」。

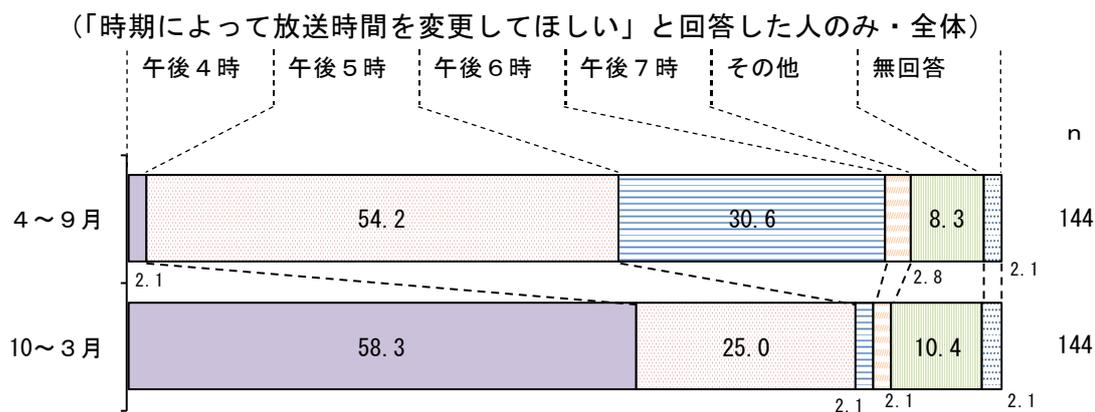
[4月から9月の放送時間]

「時期によって放送時間を変更してほしい」と回答した人に、4月から9月の放送時間をたずねたところ、「午後5時」が54.2%で最も多く、次いで「午後6時」が30.6%となっている。

[10月から3月の放送時間]

同様に、10月から3月の放送時間をたずねたところ、「午後4時」が58.3%で最も多く、次いで「午後5時」が25.0%となっている。

チャイム放送の希望放送時間



(8) チャイム放送の音色

問 16 防災行政無線の定時放送として、午後5時にチャイム放送をしています
が、定時放送の音色についてお聞きします。

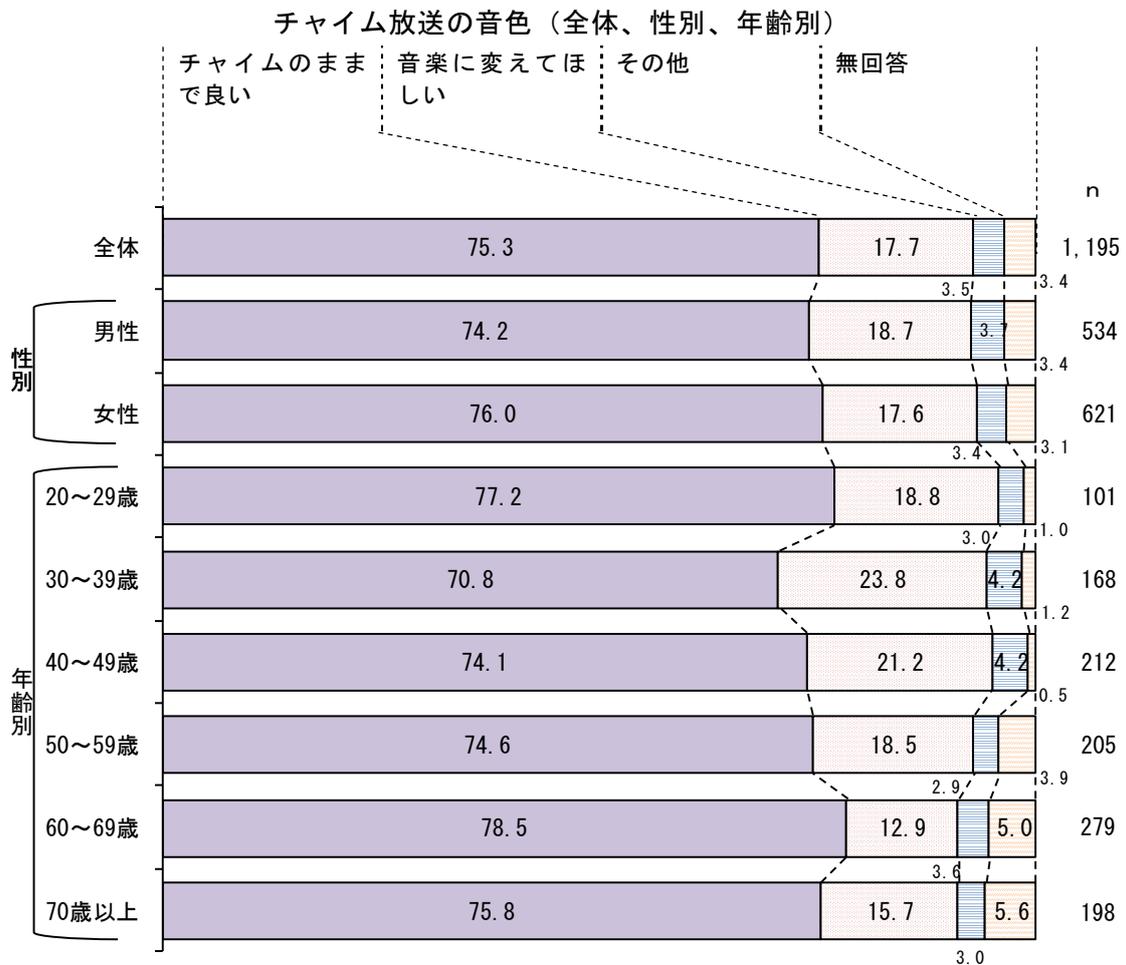
● 「チャイムのままで良い」が75.3%で7割を超える。

[全体]

防災行政無線のチャイム放送の音色についてたずねたところ「チャイムのままで良い」が75.3%で最も多く、次いで「音楽に変えてほしい」が17.7%となっており、7割を超える人が現状のチャイムのままで良いと回答している。

[属性別]

性別・年齢別で見ると、全体と同様にすべての層で「今のままで良い」が7割を超えて最も多くなっている。



(9) 火災発生時の防災行政無線

問 17 現在、防災行政無線では、火災発生時、市内全地域に向けてお知らせを
していますが、この放送についてお聴きします。

● 「現状のままで良い」が71.1%で7割を超える。

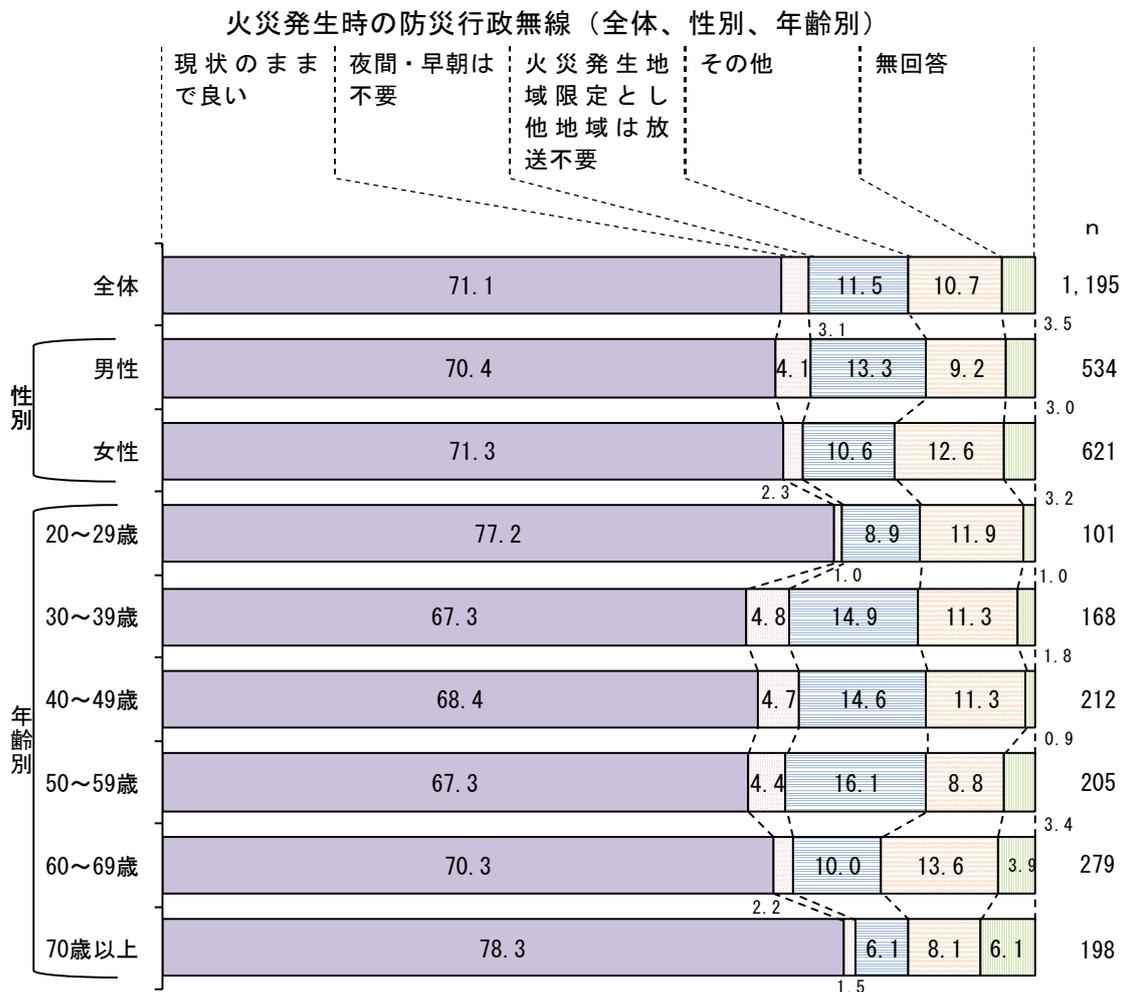
[全体]

火災発生時の防災行政無線についてたずねたところ、「チャイムのままで良い」が71.1%で最も多く、次いで「火災発生地域限定とし他地域は放送不要」が11.5%となっており、7割を超える人が現状のままで良いと回答している。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「今のままで良い」が70.4%・71.3%で7割を超えて最も多くなっている。

年齢別でみると、すべての年齢層で「今のままで良い」が6割を超えて最も多くなっているが、30～39歳・40～49歳・50～59歳では「火災発生地域限定とし他地域は放送不要」が14.9%・14.6%・16.1%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



(10) 防犯上不安に感じること

問 18 防犯上あなたが不安に感じることは何ですか。

● 「高齢者を狙った詐欺事件の増加」が最も多く、次いで「通学途中に襲われる事件」、「非行の低年齢化」の順。

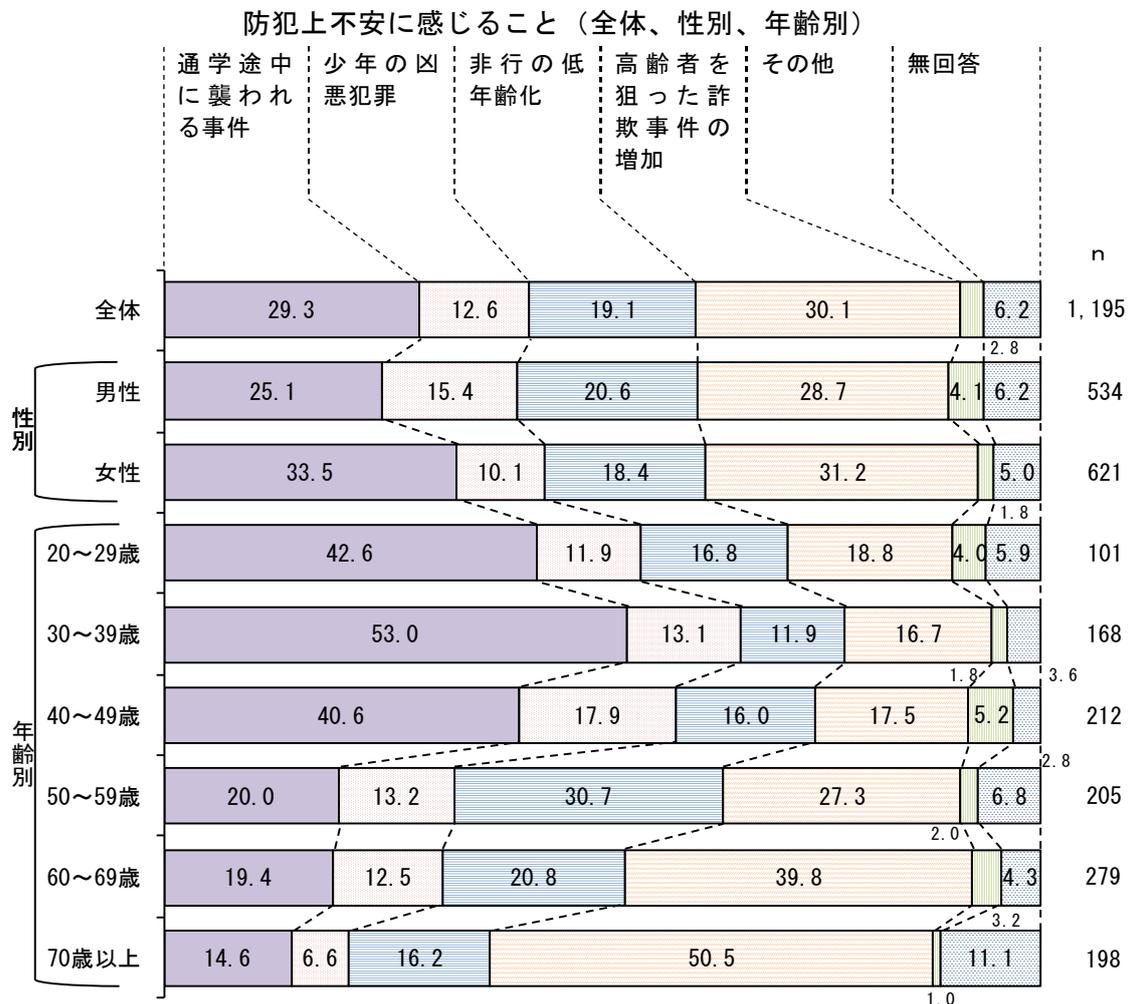
[全体]

防犯上不安に感じることをたずねたところ、「高齢者を狙った詐欺事件の増加」が30.1%で最も多く、次いで「通学途中に襲われる事件」が29.3%、「非行の低年齢化」が19.1%、「少年の凶悪犯罪」が12.6%の順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性で「高齢者を狙った詐欺事件の増加」が28.7%、女性で「通学途中に襲われる事件」が33.5%で最も多くなっている。

年齢別でみると、20～29歳・30～39歳・40～49歳で「通学途中に襲われる事件」が42.6%・53.0%・40.6%で4割を超えて最も多くなっている。また、30歳代から年齢が上がるにつれて「高齢者を狙った詐欺事件の増加」と回答する割合が高くなり、70歳以上では50.5%で半数を超えている。



(11) 安全・安心なまちづくりで力を入れるべき施策

問 19 防犯対策や交通安全対策として、行政が最も力を入れるべきと思う施策は何ですか。【複数回答】



● 「警察官による防犯パトロールの強化」が第1位。次いで「街路灯・防犯灯の設置」、「高齢者の交通安全対策」が続く。

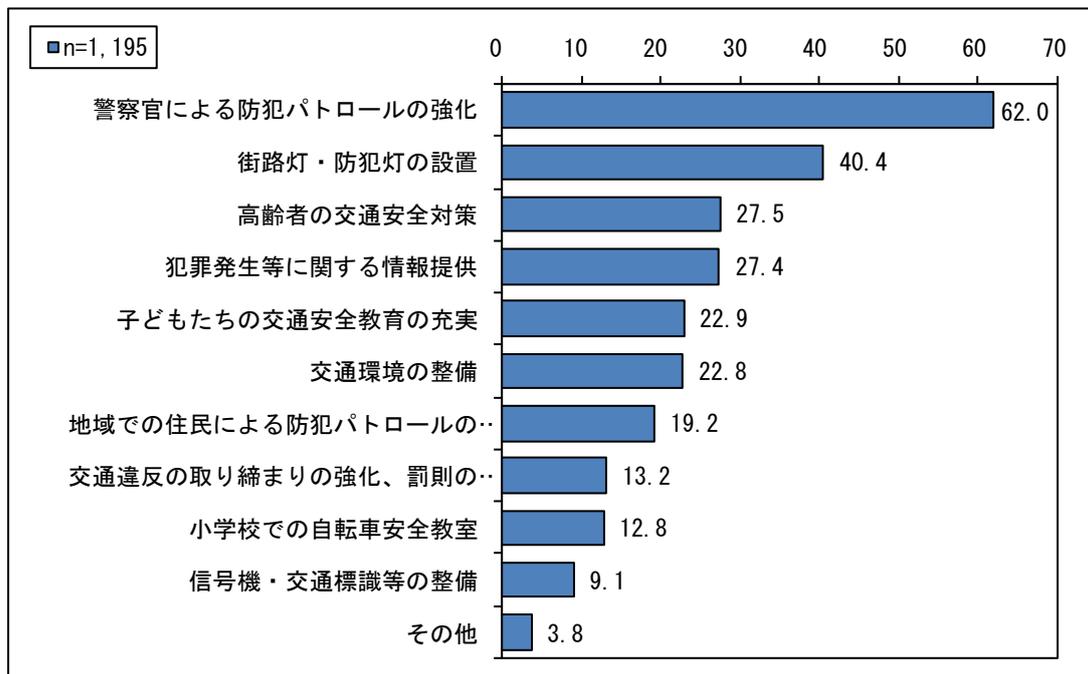
[全体]

安全・安心なまちづくりで力を入れるべき施策をたずねたところ、「警察官による防犯パトロールの強化」が62.0%で第1位に挙げられ、次いで「街路灯・防犯灯の設置」が40.4%、「高齢者の交通安全対策」が27.5%、「犯罪発生等に関する情報提供」が27.4%、「子どもたちの交通安全教育の充実」が22.9%、「交通環境の整備」が22.8%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「警察官による防犯パトロールの強化」が第1位、次いで「街路灯・防犯灯の設置」が第2位となっている。

安全・安心なまちづくりで力を入れるべき施策（全体）



(12) 防犯・交通安全活動への協力

問 20 安全で安心して暮らせるまちにするためには、市民の皆さんの協力が必要です。あなたは防犯活動・交通安全活動に協力していますか。

● 「協力している・協力したい」は 44.9%。一方「協力していない」は 53.6%。

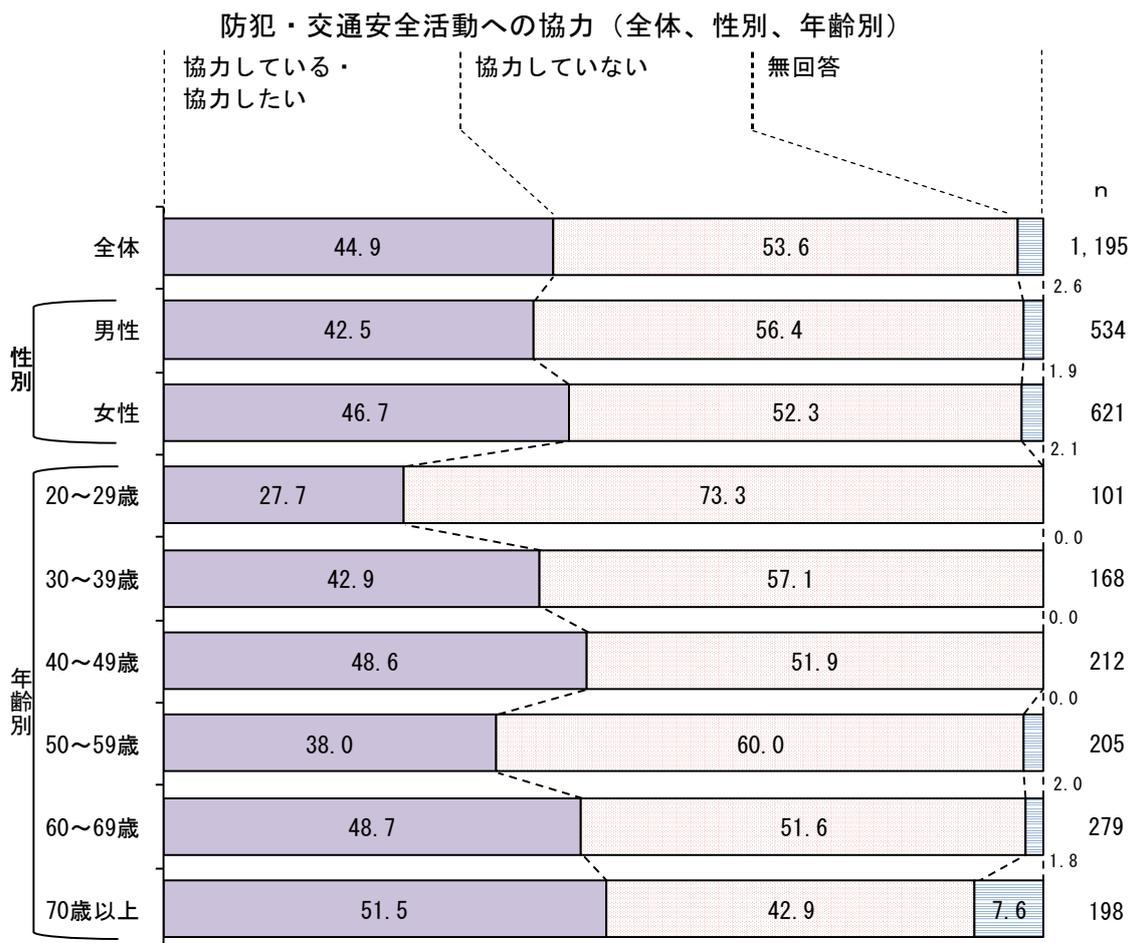
[全体]

防犯・交通安全活動への協力についてたずねたところ、「協力している・協力したい」が 44.9%、「協力していない」が 53.6%となっている。

[属性別]

性別でみると、「協力している・協力したい」が男性 42.5%・女性 46.7%となっており、女性がやや多くなっている。

年齢別でみると、20～29歳で「協力していない」が 73.3%で7割を超える一方、70歳以上では「協力している・協力したい」が 51.5%で半数を超えている。



(13) 協力しているまたはしたい防犯・交通安全活動

問 20-1 あなたが協力している、または、協力したいと思う防犯活動・交通安全活動は何ですか。【問 20 で「1. 協力している（協力したい）」と回答された方のみ／複数回答】

● 「自治会や隣組による活動」が他を大きく引き離して第 1 位。

[全体]

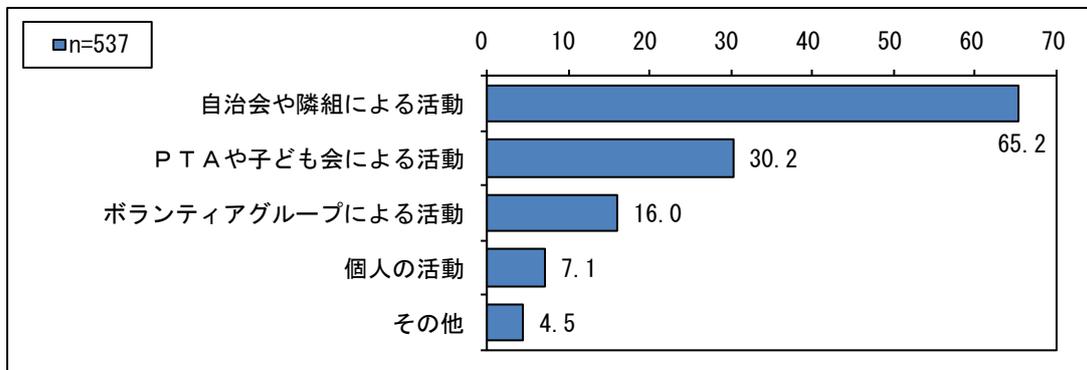
「協力している・協力したい」と回答した人に、その防犯・交通安全活動をたずねたところ、「自治会や隣組による活動」が 65.2% で他を大きく引き離して第 1 位に挙げられ、次いで「PTA や子ども会による活動」が 30.2%、「ボランティアグループによる活動」が 16.0%、「個人の活動」が 7.1% の順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「自治会や隣組による活動」が 70.9%・59.7% で第 1 位、「PTA や子ども会による活動」が 20.7%・38.3% で第 2 位となっている。

年齢別で見ると、20～29 歳・50～59 歳・60～69 歳・70 歳以上で「自治会や隣組による活動」が 50.0%・75.6%・81.6%・72.5%、30～39 歳・40～49 歳で「PTA や子ども会による活動」が 62.5%・63.1% で、それぞれ第 1 位となっている。

協力しているまたはしたい防犯・交通安全活動（「協力している」と回答した人のみ・全体）



(14) 協力していない理由

問 20-2 あなたが協力していない理由は何ですか。【問 20 で「2. 協力していない」と回答された方のみ／複数回答】

- 「協力するきっかけがない」、「仕事や家事が多忙で時間がない」、「活動場所・活動内容がわからない」が3大理由。

[全体]

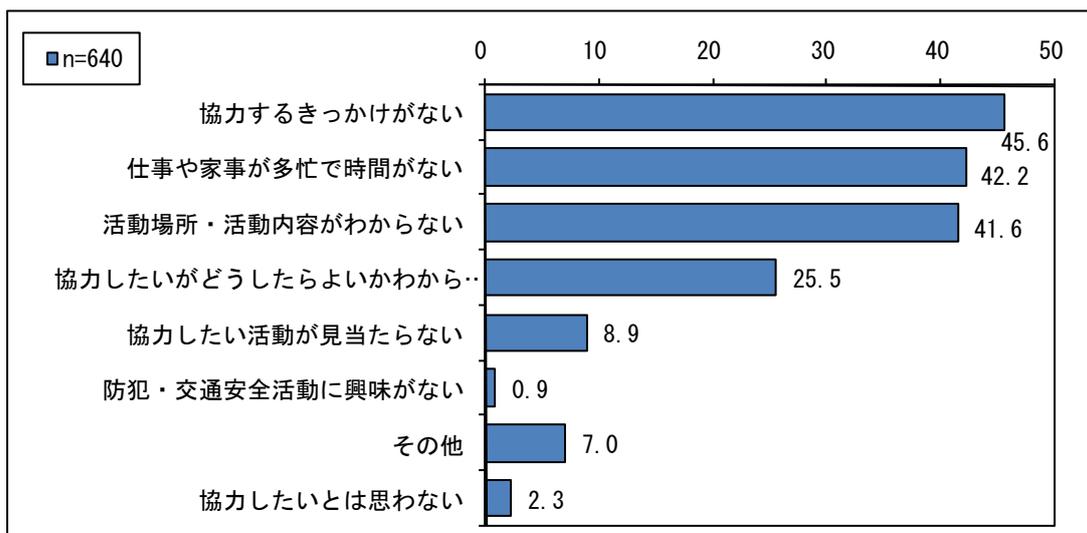
「協力していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ「協力するきっかけがない」が 45.6%で第1位に挙げられ、次いで「仕事や家事が多忙で時間がない」が 42.2%、「活動場所・活動内容がわからない」が 41.6%と続き、これらが他を大きく引き離して3大理由となっている。以下「協力したいがどうしたらよいかわからない」が 25.5%、「協力したい活動が見当たらない」が 8.9%、「防犯・交通安全活動に興味がない」が 0.9%の順となっている。なお、「協力したいとは思わない」は 2.3%となっている。

[属性別]

性別でみると、男性で「協力するきっかけがない」が 50.2%、女性で「活動場所・活動内容がわからない」が 42.2%で第1位となっている。

年齢別でみると、20～29歳・30～39歳・40～49歳で「仕事や家事が多忙で時間がない」が 60.8%・53.1%・51.8%、50～59歳・70歳以上で「協力するきっかけがない」が 44.7%・42.4%、60～69歳で「活動場所・活動内容がわからない」が 44.4%で、それぞれ第1位となっている。

協力していない理由（「協力していない」と回答した人のみ・全体）



7 生涯学習について

(1) 開催してほしい教室や講演会

問 21 市では生涯学習推進のため、いろいろな教室や講演会を開催していますが、あなたはどのようなものを行ってほしいと思いますか。【複数回答】

- 「健康管理に関するもの」が第1位。次いで「芸術や趣味に関するもの」、「スポーツに関するもの」が続く。

[全体]

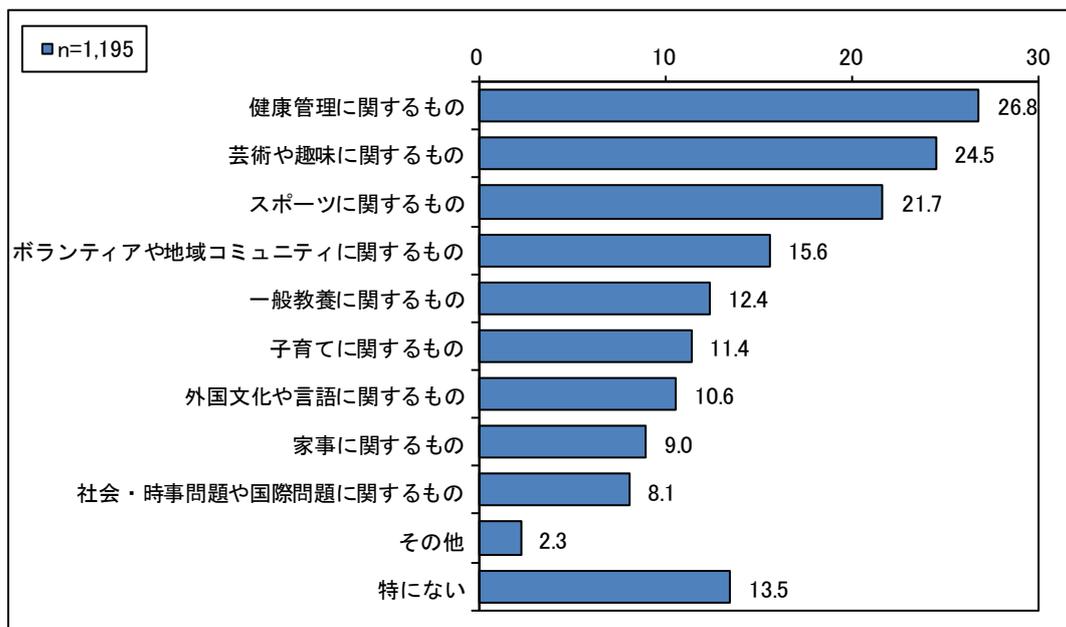
生涯学習推進における教室や講演会などの要望をたずねたところ、「健康管理に関するもの」が26.8%で第1位に挙げられ、次いで「芸術や趣味に関するもの」が24.5%、「スポーツに関するもの」が21.7%、「ボランティアや地域コミュニティに関するもの」が15.6%などの順となっている。なお、「特にない」は13.5%となっている。

[属性別]

性別でみると、男性で「スポーツに関するもの」が25.3%、女性で「健康管理に関するもの」が29.6%で第1位となっている。

年齢別でみると、20～29歳で「子育てに関するもの」が30.7%、30～39歳・40～49歳で「スポーツに関するもの」が32.7%・30.2%、50～59歳で「芸術や趣味に関するもの」が27.8%、60～69歳・70歳以上で「健康管理に関するもの」が33.3%・28.8%で、それぞれ第1位となっている。

開催してほしい教室や講演会（全体）



8 青梅市の施設利用について

(1) 市立図書館の利用について

問 22 あなたは、過去1年間に青梅市立図書館（中央図書館、分館）を利用したことがありますか。

● 「利用したことがある」が49.5%。一方「利用したことがない」が48.8%。

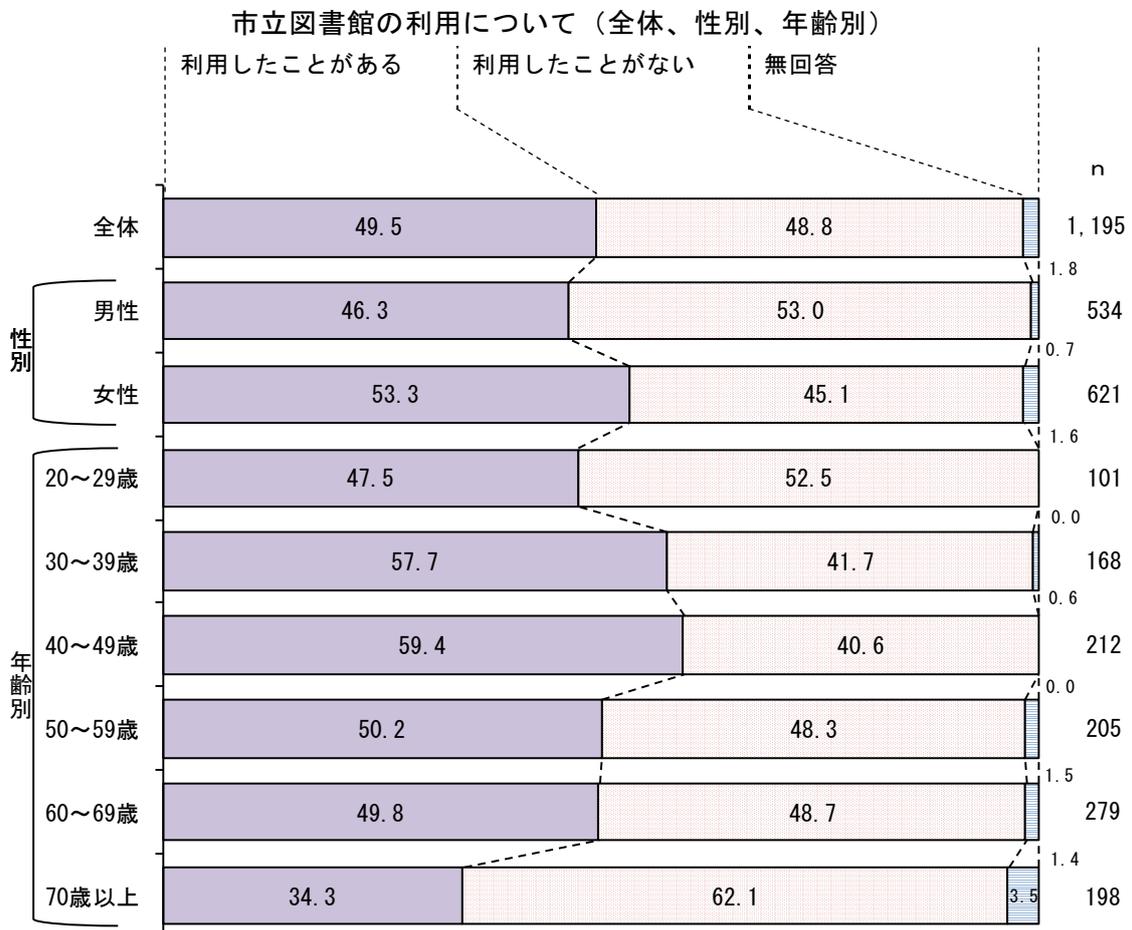
[全体]

市立図書館の利用の有無をたずねたところ、「利用したことがある」が49.5%、「利用したことがない」が48.8%となっている。

[属性別]

性別でみると、「利用したことがある」が男性46.3%・女性53.3%となっており、女性が多くなっている。

年齢別でみると、30～39歳・40～49歳で「利用したことがある」が57.7%・59.4%で他の世代に比べて高い傾向がみられる。一方、40歳代から年齢が上がるにつれて「利用したことがない」と回答する割合が高くなり、70歳以上では62.1%で6割を超えている。



(2) 市立図書館の利用目的

問 22-1 市立図書館を利用する主な目的は何ですか。【問 22 で「1. 利用したことがある」と回答された方へ／複数回答】

● 「趣味や娯楽のため」、「知識や教養を得るため」が2大目的。

[全体]

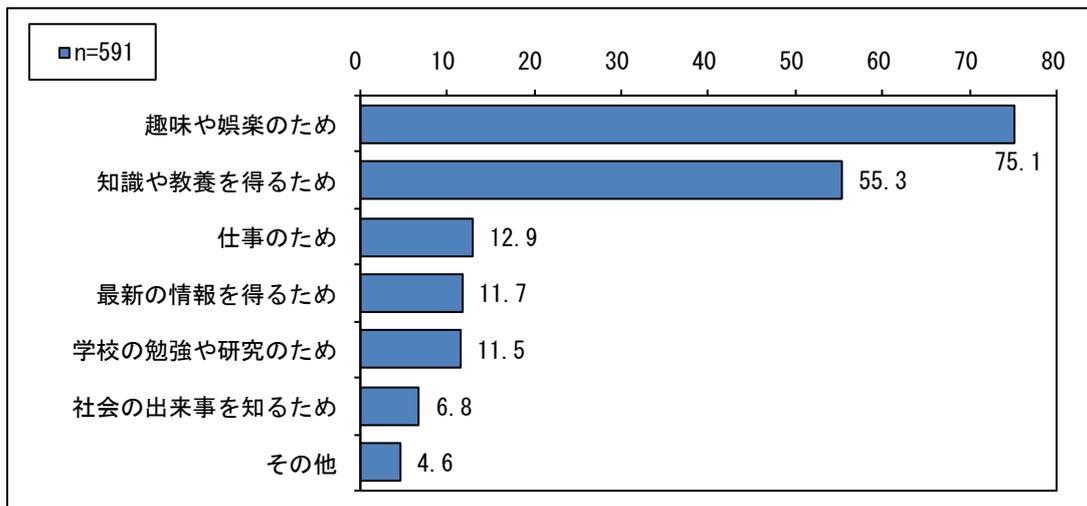
図書館を「利用したことがある」と回答した人に、その利用目的についてたずねたところ、「趣味や娯楽のため」が75.1%で第1位に挙げられ、次いで「知識や教養を得るため」が55.3%と続き、これらが他を大きく引き離して図書館利用の2大目的となっている。以下「仕事のため」が12.9%、「最新の情報を得るため」が11.7%、「学校の勉強や研究のため」が11.5%、「社会の出来事を知るため」が6.8%の順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「趣味や娯楽のため」が76.1%・74.9%で7割を超えて第1位、「知識や教養を得るため」が60.3%・51.1%で第2位となっている。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「趣味や娯楽のため」が第1位、「知識や教養を得るため」が第2位となっている。また、20～29歳では「学校の勉強や研究のため」が39.6%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。

市立図書館の利用目的（「利用したことがある」と回答した人のみ・全体）



(3) 利用したことがない理由

問 22-2 利用したことがない理由は何ですか。【問 22 で「2. 利用したことがない」と回答された方のみ／複数回答】

● 「必要な資料は購入しているから」、「時間に余裕がないから」が2大理由。

[全体]

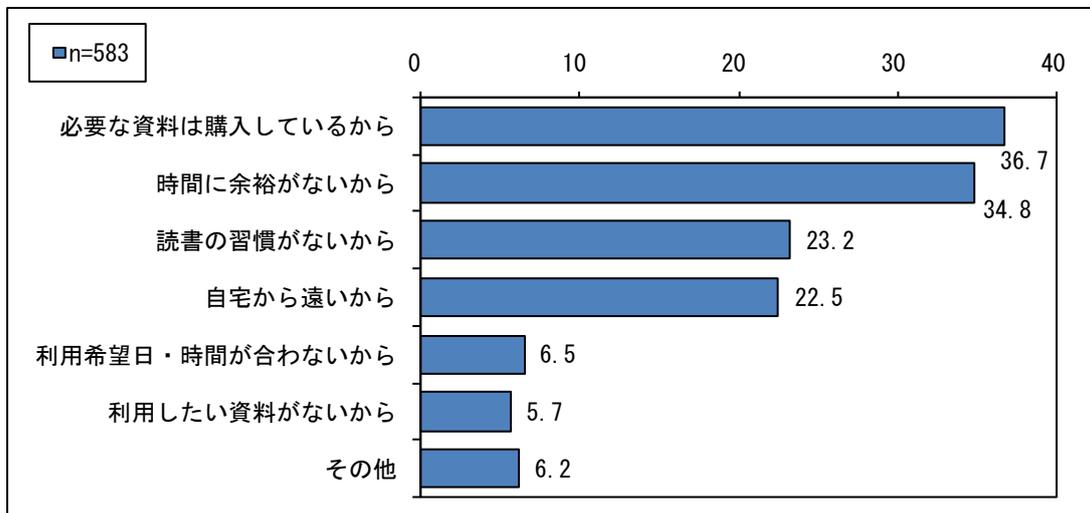
図書館を「利用したことがない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「必要な資料は購入しているから」が 36.7% で第 1 位に挙げられ、次いで「時間に余裕がないから」が 34.8% で続き、これらが多く 2 大理由となっている。以下「読書の習慣がないから」が 23.2%、「自宅から遠いから」が 22.5% などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性で「必要な資料は購入しているから」が 39.2%、女性で「時間に余裕がないから」が 36.8% で第 1 位となっている。

年齢別でみると、20～29 歳・60～69 歳で「必要な資料は購入しているから」が 39.6%・42.6%、30～39 歳・40～49 歳・50～59 歳で「時間に余裕がないから」が 42.9%・40.7%・45.5%、70 歳以上で「読書の習慣がないから」が 32.5% で、それぞれ第 1 位となっている。

利用したことがない理由（「利用したことがない」と回答した人のみ・全体）



(4) 市民センターの利用について

問 23 あなたは、過去1年間に市民センターを利用したことがありますか。

● 「利用したことがある」が51.0%。一方「利用したことがない」が46.8%。

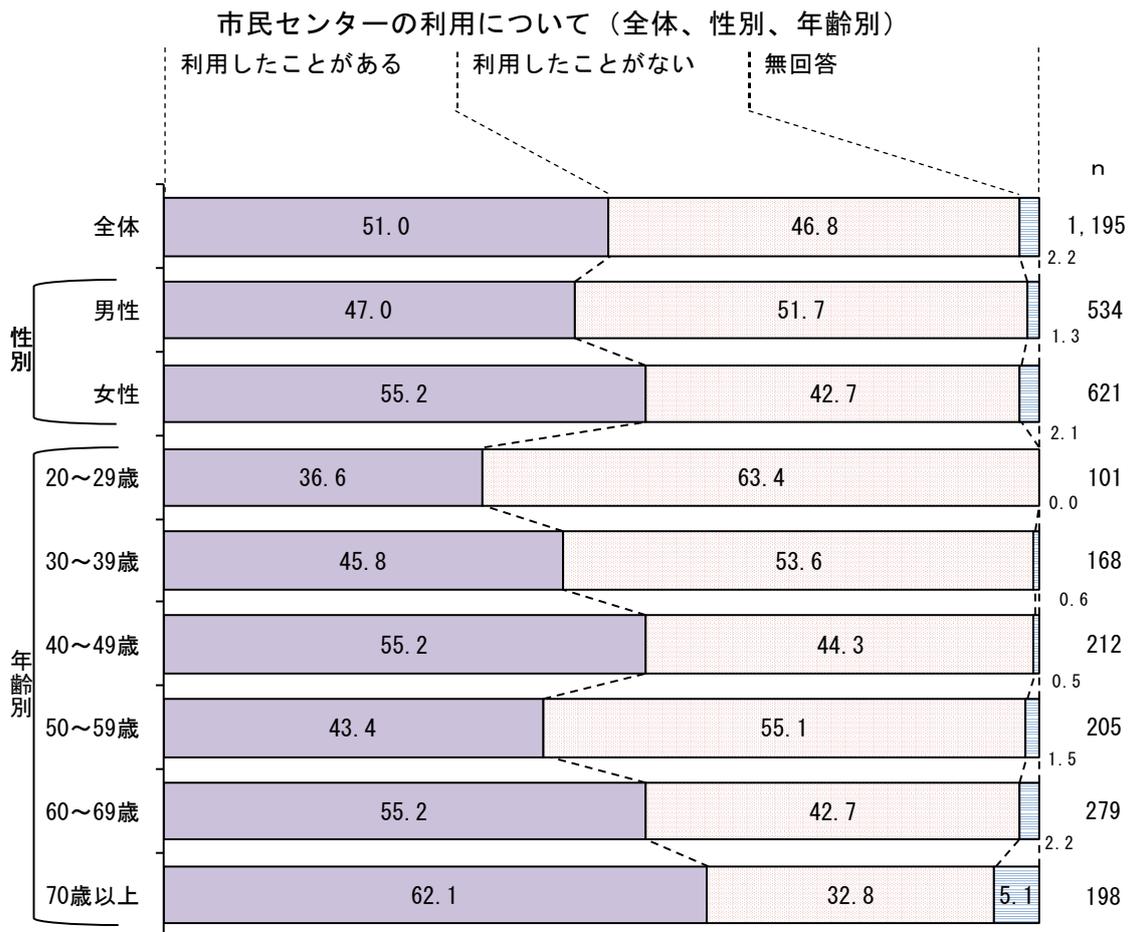
[全体]

市民センターの利用の有無をたずねたところ、「利用したことがある」が51.0%、「利用したことがない」が46.8%となっている。

[属性別]

性別でみると、「利用したことがある」が男性47.0%・女性55.2%となっており、女性が多くなっている。

年齢別でみると、40～49歳・60～69歳・70歳以上で「利用したことがある」が55.2%・55.2%・62.1%で半数を超えている。また、20～29歳では「利用したことがない」が63.4%で6割を超えており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



(5) 市民センターの利用目的

問 23-1 市民センターをどのようなことで利用されましたか。【問 23 で「1. 利用したことがある」と回答された方のみ／複数回答】



● 「趣味やサークルのため」が第1位。次いで「図書館を利用するため」、「窓口での手続きのため」、「地域の行事のため」が続く。

[全体]

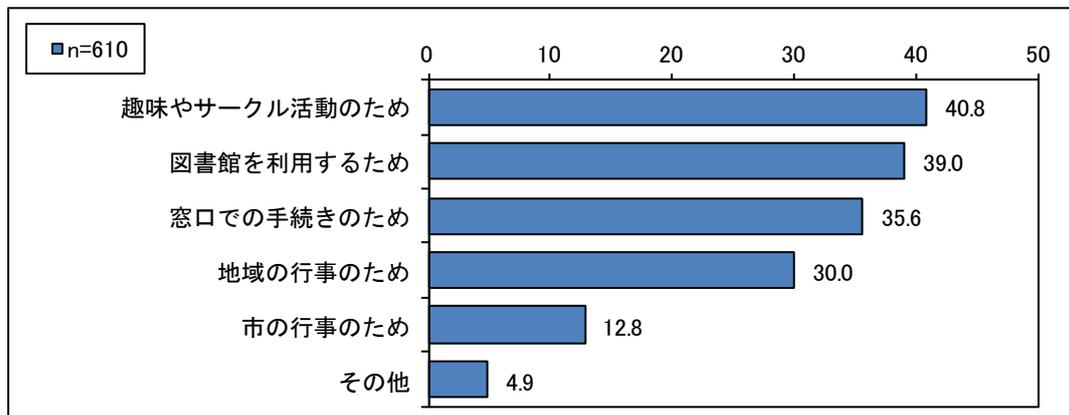
市民センターを「利用したことがある」と回答した人に、その利用目的についてたずねたところ、「趣味やサークル活動のため」が40.8%で第1位に挙げられ、次いで「図書館を利用するため」が39.0%、「窓口での手続きのため」が35.6%、「地域の行事のため」が30.0%、「市の行事のため」が12.0%の順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性で「地域の行事のため」が36.3%、女性で「趣味やサークルのため」が44.9%で第1位となっている。

年齢別でみると、20～29歳・60～69歳で「趣味やサークル活動のため」が48.6%・47.4%、30～39歳で「趣味やサークル活動のため」、「図書館を利用するため」がともに44.2%、40～49歳・50～59歳で「図書館を利用するため」が47.9%・43.8%、70歳以上で「窓口での手続きのため」が45.5%で、それぞれ第1位となっている。

市民センターの利用目的（「利用したことがある」と回答した人のみ・全体）



(6) 利用したことがない理由

問 23-2 利用したことがない理由は何ですか。【問 23 で「2. 利用したことがない」と回答された方のみ／複数回答】



- 「何ができるか知らないから」が他を大きく引き離して第1位。

[全体]

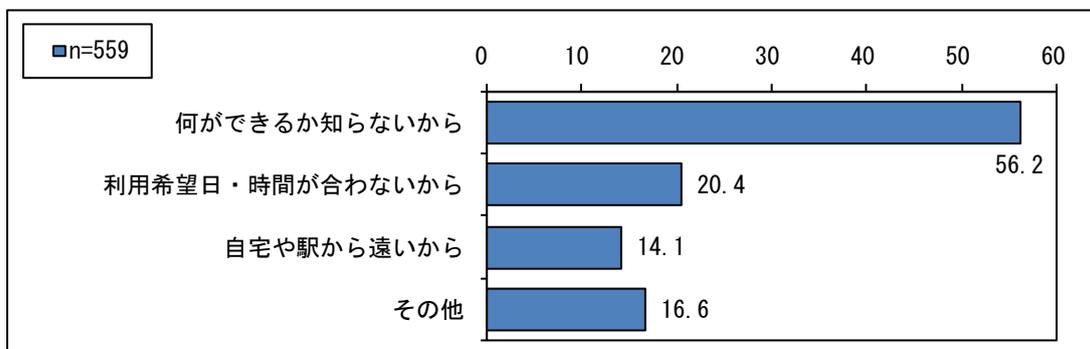
市民センターを「利用したことがない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「何ができるか知らないから」が56.2%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「利用希望日・時間が合わないから」が20.4%、「自宅や駅から遠いから」が14.1%の順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「何ができるか知らないから」が62.3%・51.3%で第1位、「利用希望日・時間が合わないから」が19.9%・20.8%で第2位となっている。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「何ができるか知らないから」が第1位となっている。また、70歳以上では「自宅や駅から遠いから」が24.6%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。

利用したことがない理由（「利用したことがない」と回答した人のみ・全体）



9 男女平等について

(1) 男女平等参画社会に向け市が力を入れるべき施策

問 24 男女平等参画社会の実現に向けて、市が特に力を入れるべきと思う施策はどのようなことですか。【複数回答】

- 「女性の職業教育や再就職訓練の充実」が第1位。次いで「ワーク・ライフ・バランスの推進」、「学校での男女平等教育の推進」、「市政などへの女性の参画の促進」が続く。

[全体]

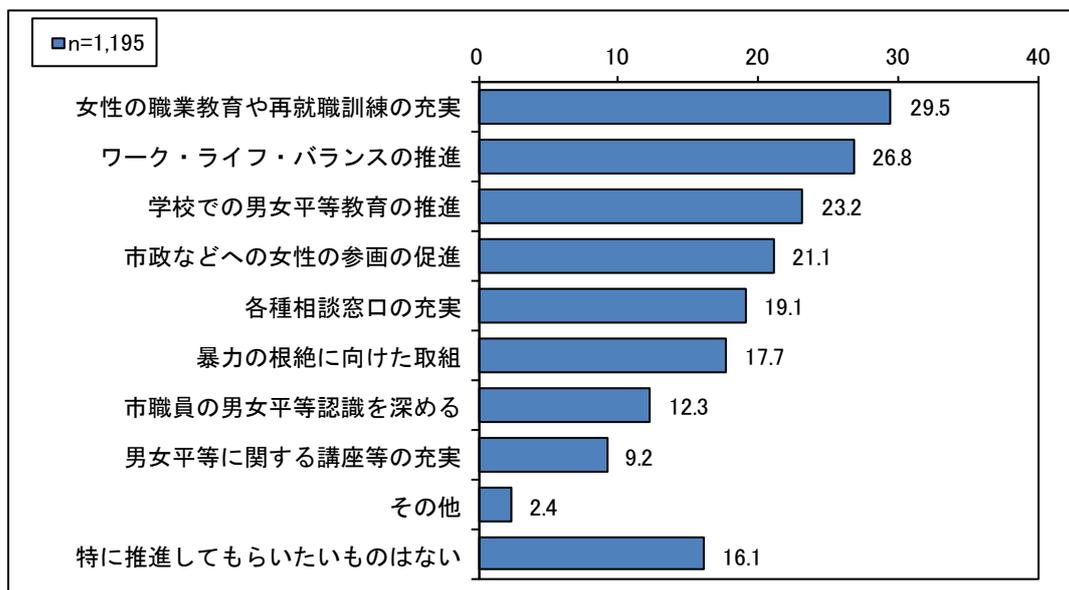
男女平等参画社会に向け市が力を入れるべき施策についてたずねたところ、「女性の職業教育や再就職訓練の充実」が29.5%で第1位に挙げられ、次いで「ワーク・ライフ・バランスの推進」が26.8%、「学校での男女平等教育の推進」が23.2%、「市政などへの女性の参画の促進」が21.1%などの順となっている。なお、「特に推進してもらいたいものはない」は16.1%となっている。

[属性別]

性別でみると、男性で「学校での男女平等教育の推進」、「ワーク・ライフ・バランスの推進」がともに26.0%、女性で「女性の職業教育や再就職訓練の充実」が36.2%で第1位となっている。

年齢別でみると、20～29歳・40～49歳で「ワーク・ライフ・バランスの推進」が47.5%・35.4%、30～39歳・50～59歳・60～69歳で「女性の職業教育や再就職訓練の充実」が43.5%・33.7%・26.5%、70歳以上で「学校での男女平等教育の推進」が22.7%で、それぞれ第1位となっている。

男女平等参画社会に向け市が力を入れるべき施策（全体）



10 健康について

(1) 健康診断の受診について

問 25 あなたは、この1年間に健康診断を受けたことがありますか。

● 「受けたことがある」が79.9%。一方「受けたことはない」は19.3%。

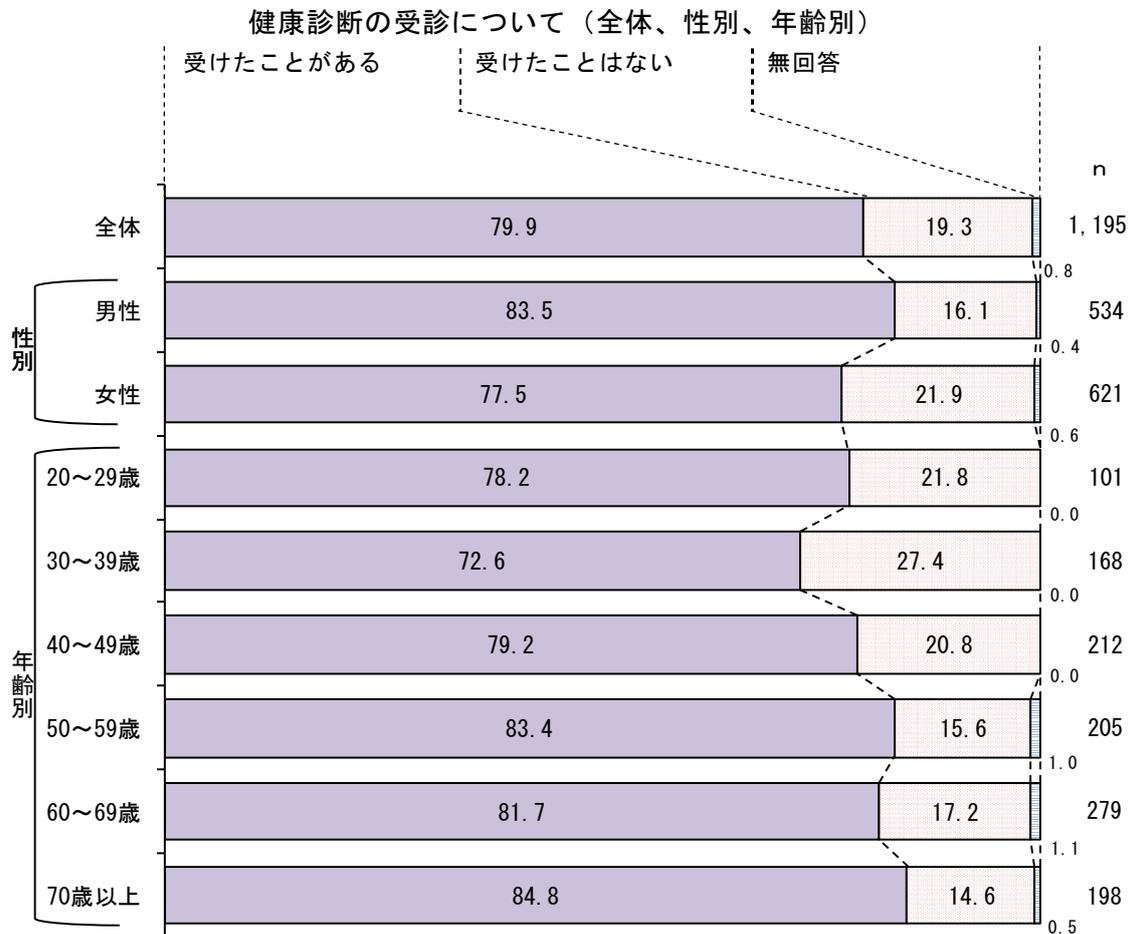
[全体]

健康診断の受診についてたずねたところ「受けたことがある」が79.9%、「受けたことがない」が19.3%となっている。

[属性別]

性別で見ると、「受けたことがある」が男性83.5%・女性77.5%となっており、男性が多くなっている。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「受けたことがある」が7割を超えているが、30～39歳では「受けたことはない」が27.4%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



(2) 健康診断の受診場所

問 25-1 その健康診断はどちらでお受けになりましたか。【問 25 で「1. 受けたことがある」と回答された方のみ／複数回答】



● 「学校や勤め先で行う健康診断」第1位。次いで「市で行う健康診断」、「個人的に病院で受けた」が続く。

[全体]

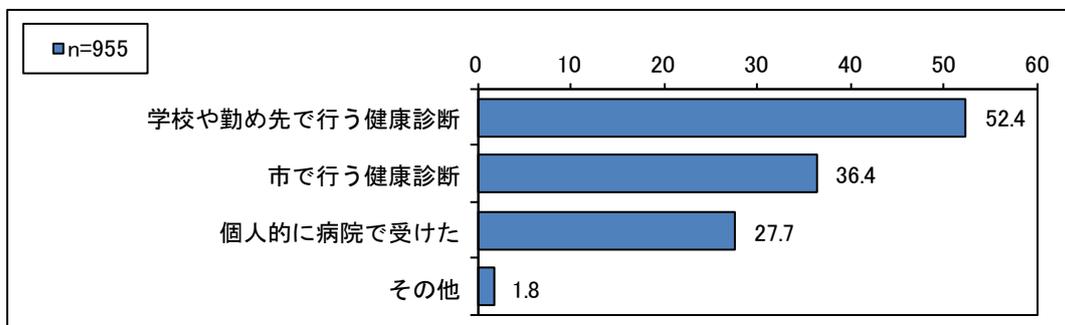
健康診断を「受けたことがある」と回答した人に、受診場所をたずねたところ、「学校や勤め先で行う健康診断」が 52.4%で第1位に挙げられ、次いで「市で行う健康診断」が 36.4%、「個人的に病院で受けた」が 27.7%の順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性で「学校や勤め先で行う健康診断」が 62.3%、女性で「市で行う健康診断」が 46.4%、「学校や勤め先で行う健康診断」が 45.1%で上位に挙げられている。

年齢別で見ると、20～29歳・30～39歳・40～49歳・50～59歳で「学校や勤め先で行う健康診断」が 89.9%・83.6%・72.0%・67.8%、60～69歳・70歳以上で「市で行う健康診断」が 53.9%・73.8%で、それぞれ第1位となっている。

健康診断の受診場所（「受けたことがある」と回答した人のみ・全体）



(3) 健康診断の種類

問 25-2 あなたがお受けになった健康診断は、どのようなものでしたか。【問 25 で「1. 受けたことがある」と回答された方のみ／複数回答】



● 「血压測定や血液検査などの基本的な健康診断」が他を大きく引き離して第1位。

[全体]

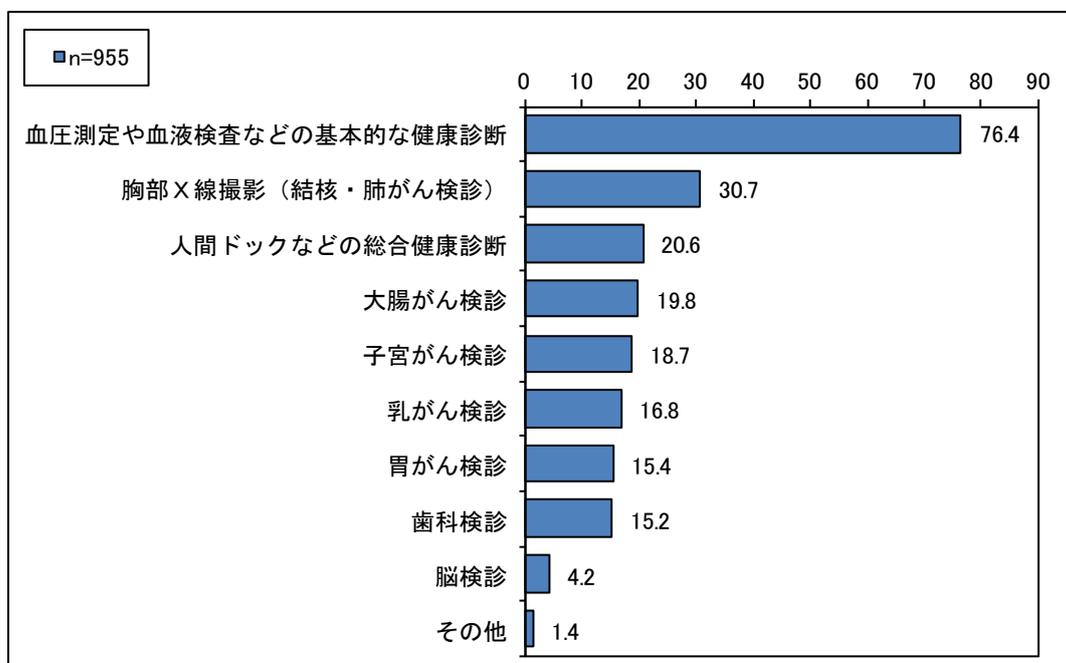
健康診断を「受けたことがある」と回答した人に、その種類をたずねたところ、「血压測定や血液検査などの基本的な健康診断」が76.4%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「胸部X線撮影（結核・肺がん検診）」が30.7%、「人間ドックなどの総合健康診断」が20.6%などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「血液検査などの基本的な健康診断」が78.0%・75.5%で7割を超えて第1位に挙げられている。次いで、男性では「胸部X線撮影（結核・肺がん検診）」が31.8%、女性では「子宮がん検診」が34.7%、「乳がん検診」が30.8%、「胸部X線撮影（結核・肺がん検診）」が30.1%で上位に挙げられている。

年齢別でみると、すべての年齢層で「血压測定や血液検査などの基本的な健康診断」が6割を超えて第1位となっている。

健康診断の種類（「受けたことがある」と回答した人のみ・全体）



(4) 健康診断を受けなかった理由

問 25-3 お受けにならなかった理由は何ですか。【問 25 で「2. 受けたことはない」と回答された方のみ／複数回答】



- 「受ける暇がなかったから」が第1位。次いで「医者にかかっているから」、「料金が高いから」が続く。

[全体]

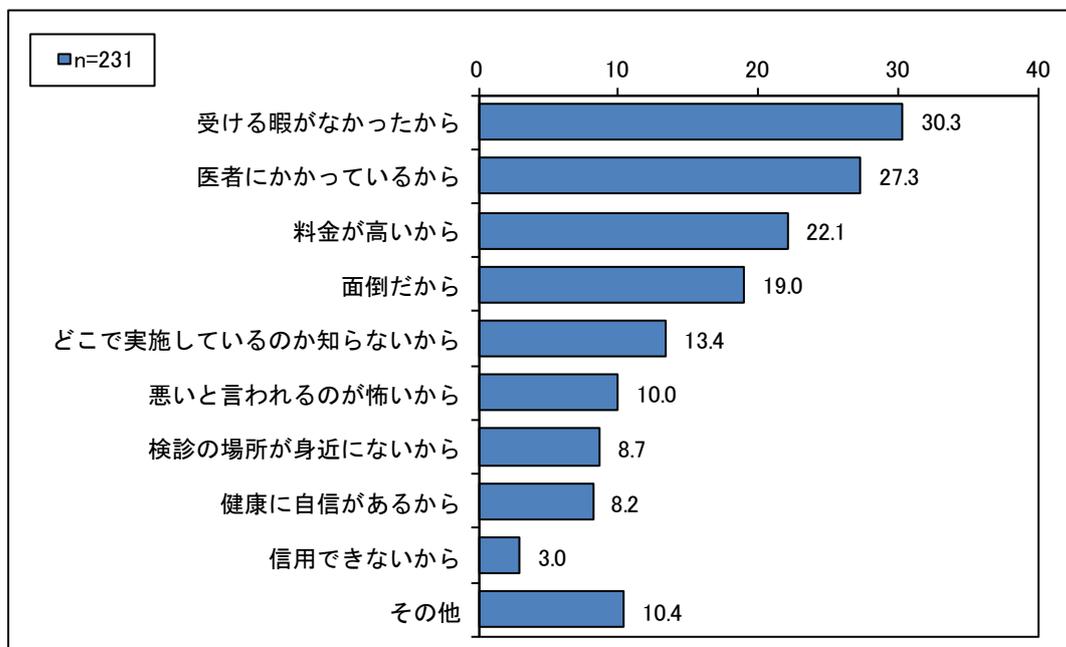
健康診断を「受けたことはない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「受ける暇がなかったから」が30.3%で第1位に挙げられ、次いで「医者にかかっているから」が27.3%、「料金が高いから」が22.1%、「面倒だから」が19.0%などの順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性で「医者にかかっているから」が38.4%、女性で「受ける暇がなかったから」が29.4%で第1位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳で「受ける暇がなかったから」、「料金が高いから」がともに36.4%、30～39歳で「料金が高いから」が39.1%、40～49歳・50～59歳で「受ける暇がなかったから」が40.9%・43.8%、60～69歳・70歳以上で「医者にかかっているから」が39.6%・41.4%で、それぞれ第1位となっている。

健康診断を受けなかった理由（「受けたことはない」と回答した人のみ・全体）



1 1 医療について

(1) 市の救急医療体制について

問 26 あなたは市内の救急医療体制についてどう感じですか。

● 「どちらともいえない」が 47.2%。「満足している」が 25.5%、「満足していない」は 24.8%。

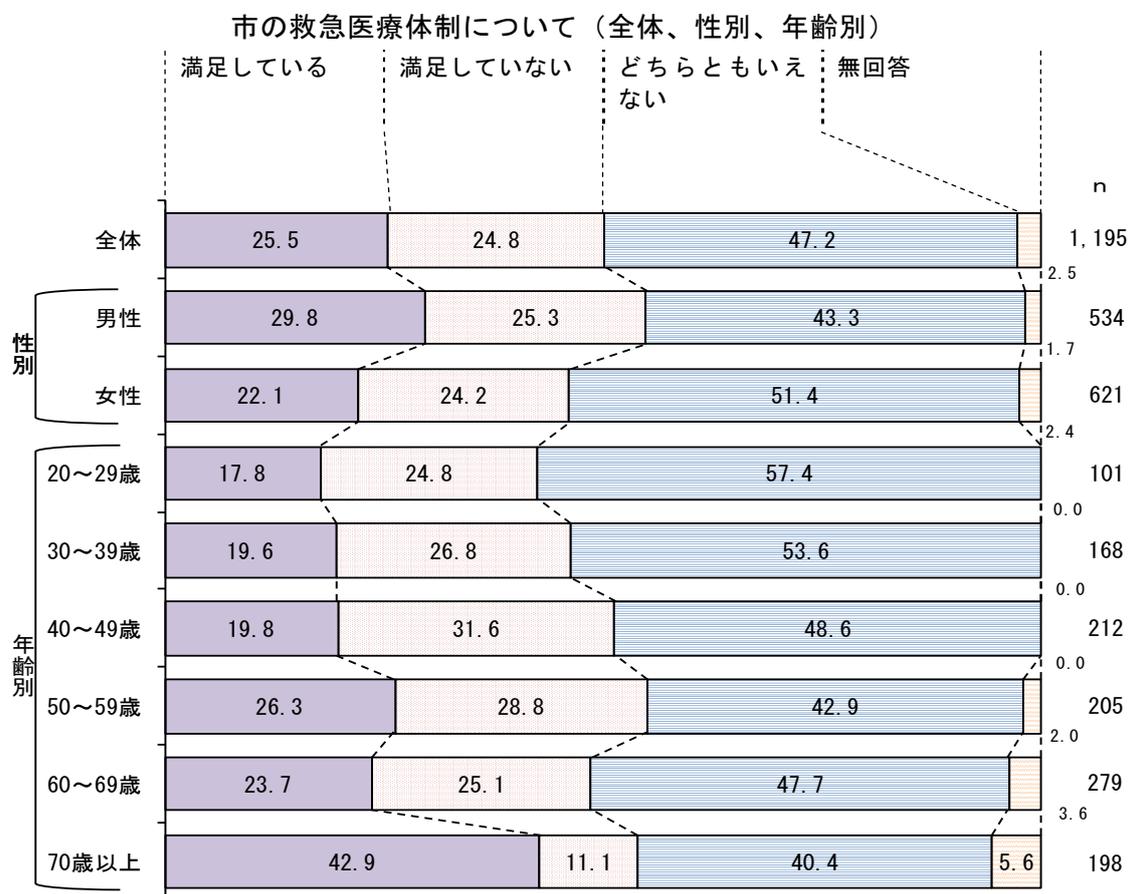
[全体]

市の救急医療体制についてたずねたところ、「どちらともいえない」が 47.2%で最も多く、「満足している」が 25.5%、「満足していない」が 24.8%となっている。

[属性別]

性別でみると、「満足している」が男性 29.8%・女性 22.1%、「満足していない」が男性 25.3%・女性 24.2%で、どちらも男性が多くなっている。一方、女性は「どちらともいえない」が 51.4%で半数を超えている。

年齢別でみると、60歳代以下のすべての年齢層で「どちらともいえない」が4割を超えて最も多くなっているが、70歳以上では「満足している」が 42.9%で4割を超えている。また、40～49歳・50～59歳では「満足していない」が 31.6%・28.8%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



(2) 市の救急医療体制に満足していない理由

問 26-1 満足していない理由をお聞かせください。【問 26 で「2. 満足していない」と回答された方のみ】

● 「救急医療制度の情報が少ない」が最も多く、次いで「希望する医療機関で受診できない」の順。

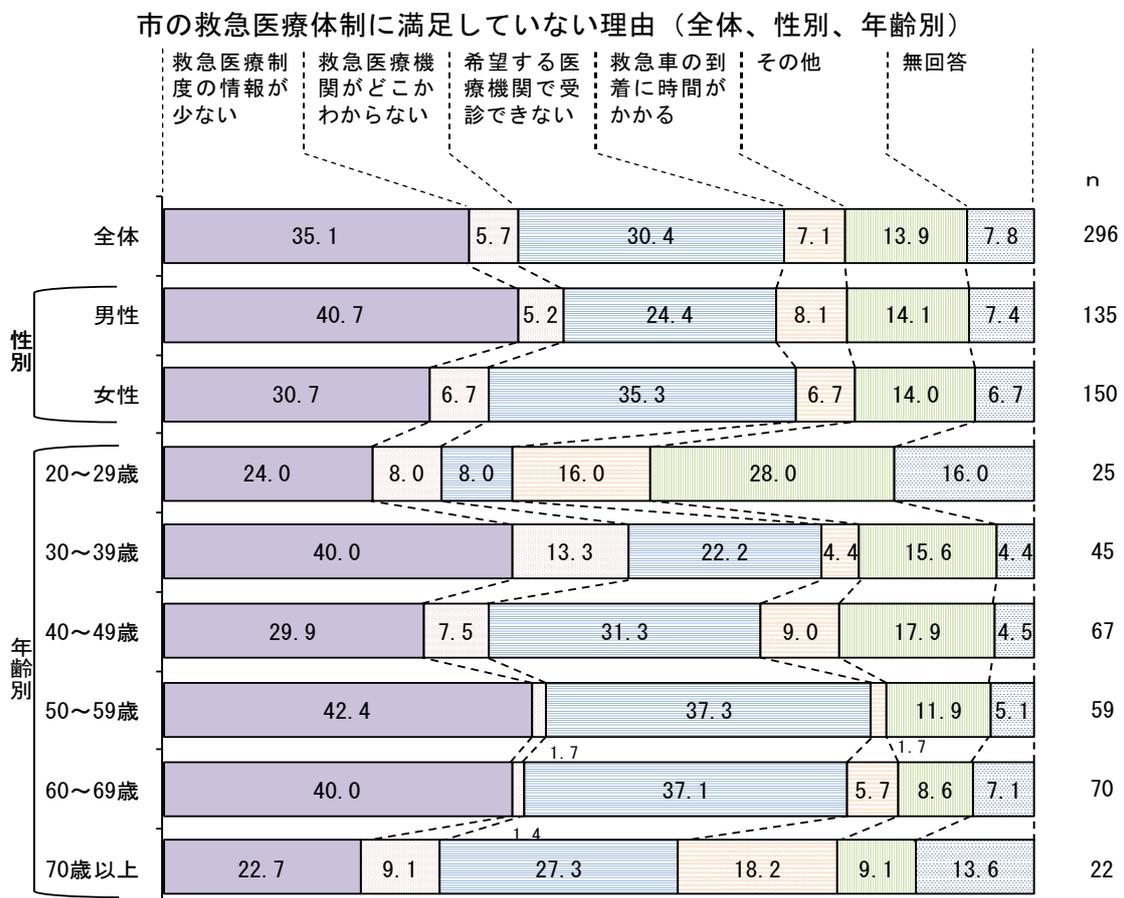
[全体]

市の救急医療体制に「満足していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「救急医療制度の情報が少ない」が 35.1%で最も多く、次いで「希望する医療機関で受診できない」が 30.4%、「救急車の到着に時間がかかる」が 7.1%、「救急医療機関がどこかわからない」が 5.7%の順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性で「救急医療制度の情報が少ない」が 40.7%、女性で「希望する医療機関で受診できない」が 35.3%で最も多くなっている。

年齢別でみると、20～29 歳・30～39 歳・50～59 歳・60～69 歳で「救急医療制度の情報が少ない」が 24.0%・40.0%・42.4%・40.0%、40～49 歳・70 歳以上で「希望する医療機関で受診できない」が 31.3%・27.3%で、それぞれ最も多い回答となっている。また、20～29 歳・70 歳以上では「救急車の到着に時間がかかる」が 16.0%・18.2%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



1 2 子育てについて

(1) 安心して子育てをするために必要な取組み

問 27 安心して子育てをするためには、地域や職場でどのような取組が必要だと思いますか。【複数回答】



● 「子育て後の再就職制度を充実させる」が第1位。次いで「育児休業制度を充実させる」、「子育て中の親子や経験者が集まれる場を増やす」、「学校や保護者と協力し子どもの安全を守る」が続く。

[全体]

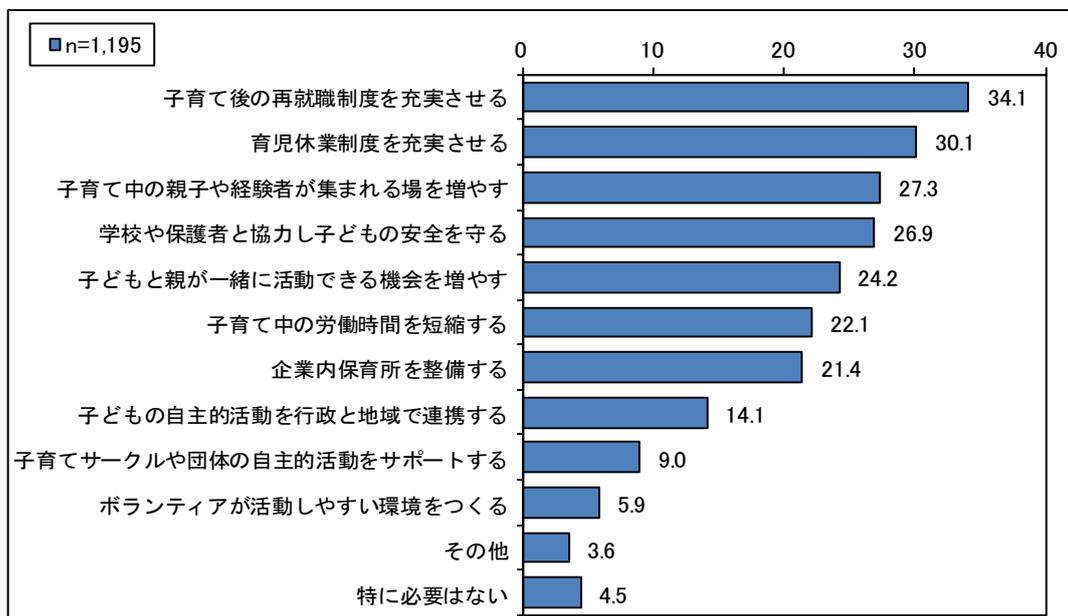
安心して子育てをするために必要な取組みをたずねたところ、「子育て後の再就職制度を充実させる」が34.1%で第1位に挙げられ、次いで「育児休業制度を充実させる」が30.1%、「子育て中の親子や経験者が集まれる場を増やす」が27.3%、「学校や保護者と協力し子どもの安全を守る」が26.9%、「子どもと親と一緒に活動できる機会を増やす」が24.2%などの順となっている。なお、「特に必要はない」は4.5%となっている。

[属性別]

性別でみると、男性で「育児休業制度を充実させる」が31.5%、女性で「子育て後の再就職制度を充実させる」が37.2%で第1位となっている。

年齢別でみると、20～29歳で「育児休業制度を充実させる」が50.5%、30～39歳・40～49歳・50～59歳・60～69歳で「子育て後の再就職制度を充実させる」が42.3%・35.8%・40.0%・31.5%、70歳以上で「学校や保護者と協力し子どもの安全を守る」が25.3%で、それぞれ第1位となっている。

安心して子育てをするために必要な取組み（全体）



(2) 市の子育て支援事業で整備、充実すべきもの

問 28 青梅市が進める子育て支援事業について、特に整備、充実させるべきものはどれだと思いますか。【複数回答】



● 「仕事と子育てが両立できる環境整備」が第1位。次いで「保育園の整備、充実」、「子どもが安心して遊べる居場所づくり」が続く。

[全体]

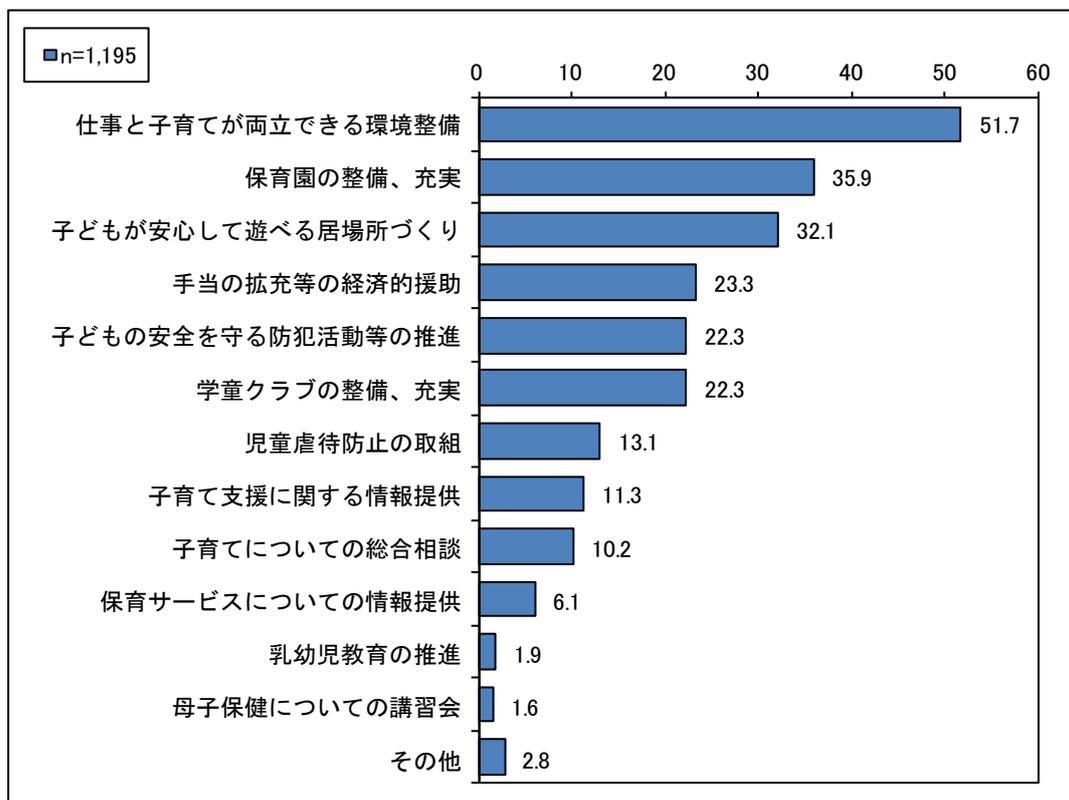
市の子育て支援事業で整備、充実すべきものをたずねたところ「仕事と子育てが両立できる環境整備」が51.7%で第1位に挙げられ、次いで「保育園の整備、充実」が35.9%、「子どもが安心して遊べる居場所づくり」が32.1%などの順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「仕事と子育てが両立できる環境整備」が50.6%・54.1%で半数を超えて第1位に挙げられている。次いで、男性で「保育園の整備、充実」が39.1%、女性で「子どもが安心して遊べる居場所づくり」、「保育園の整備、充実」がともに34.0%で第2位となっている。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「仕事と子育てが両立できる環境整備」が第1位となっている。また、30～39歳では「手当の拡充等の経済的援助」が47.6%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。

市の子育て支援事業で整備、充実すべきもの（全体）



(3) 現在子育てをしているか

問 29 あなたは現在、子育て中ですか。

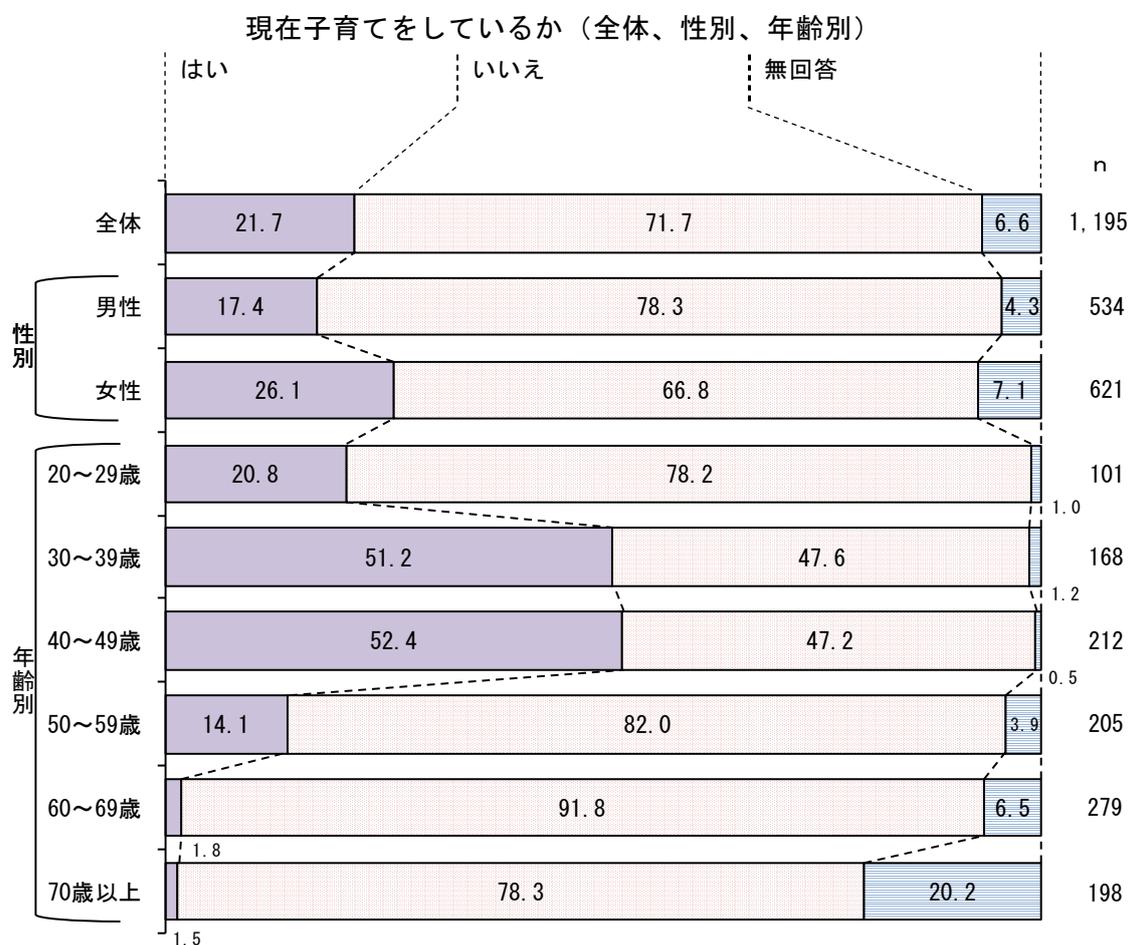
● 「はい」が21.7%で約2割となっている。

[全体]

現在子育てをしているかどうかをたずねたところ、「はい」が21.7%となっている。

[属性別]

年齢別で見ると、30～39歳・40～49歳で「子育て中である」が51.2%・52.4%で半数を超えている。



※ 子どもとは概ね18歳までの未成年を指す

(4) 子育てについて悩んでいること

問 29-1 子育てに関して悩んでいることがありますか。【問 29 で「1. はい」の番号を選択されたのみ／複数回答】

- 悩みの中では「子どものしつけや遊ばせ方」が第1位。一方「悩んでいることは特にない」も多い。

[全体]

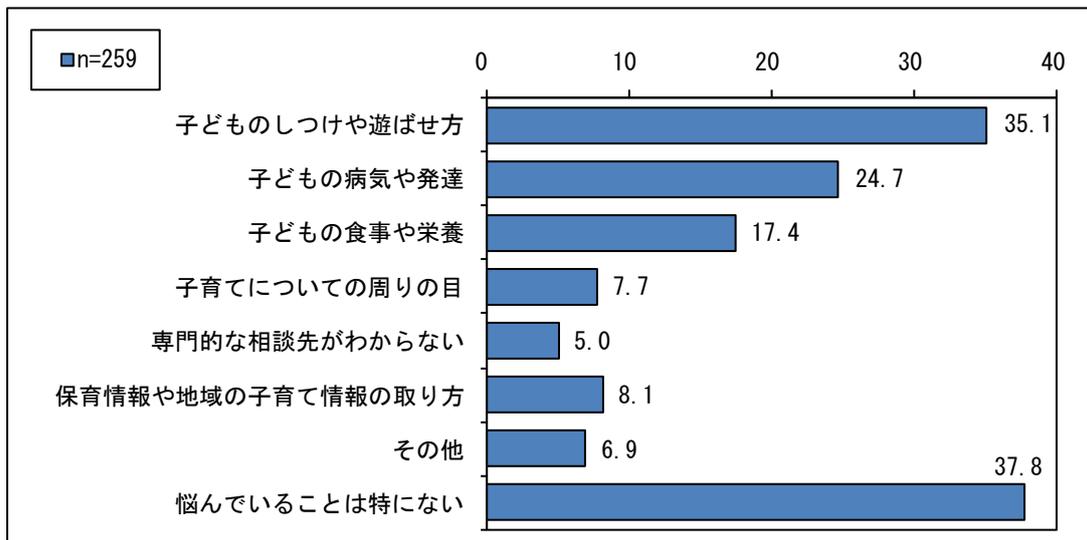
現在子育て中と回答した人に、子育ての悩みについてたずねたところ、「子どものしつけや遊ばせ方」が35.1%で第1位に挙げられ、次いで「子どもの病気や発達」が24.7%、「子どもの食事や栄養」が17.4%などの順となっている。なお、「悩んでいることは特にない」は37.8%で、悩みがあるという回答を上回っている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「子どものしつけや遊ばせ方」が36.6%・33.3%で第1位に挙げられている。また、女性では「悩んでいることは特にない」は41.4%で4割を超え、悩みがあるという回答を上回っている。

年齢別で見ると、20～29歳で「保育情報や地域の子育て情報の取り方」が33.3%、30～39歳・40～49歳で「子どものしつけや遊ばせ方」が51.2%・29.7%で、それぞれ第1位となっている。また、40～49歳では「悩んでいることは特にない」が46.8%で、悩みがあるという回答を上回っている。

子育てについて悩んでいること（全体）



(5) 子育てについての相談者

問 29-2 子育てに関して悩み事やわからないことがあるとき、誰に相談していますか。【問 29-1 で「8. 悩んでいることは特にない」以外の番号を選択された方のみ／複数回答】

● 「配偶者（夫、妻）」が第1位。次いで「父母（子どもの祖父母）」、「知人」が続く。

[全体]

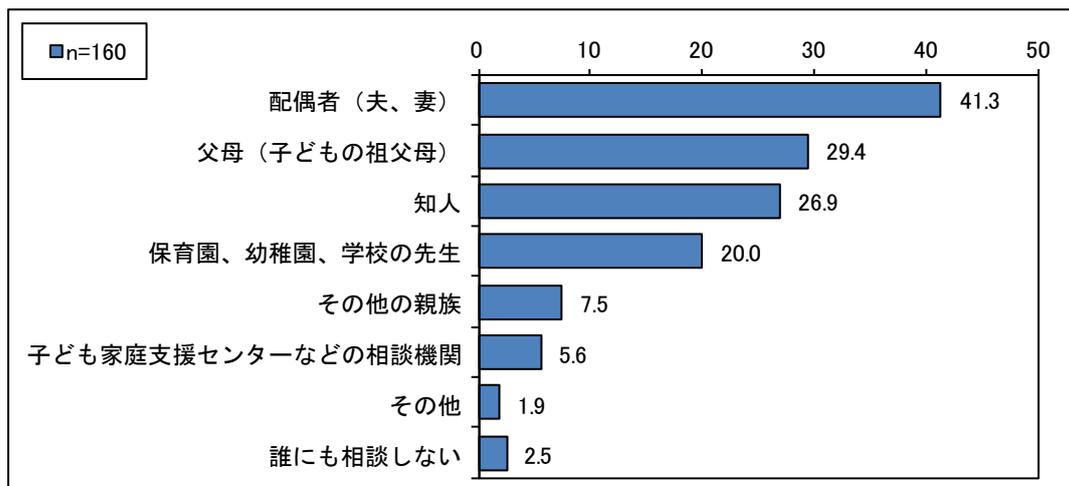
子育てについて「悩んでいることは特にない」以外の回答をした人にその悩みについての相談者をたずねたところ、「配偶者（夫、妻）」が41.3%で第1位に挙げられ、次いで「父母（子どもの祖父母）」が29.4%、「知人」が26.9%、「保育園、幼稚園、学校の先生」が20.0%などの順となっている。なお、「誰にも相談しない」は2.5%となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「配偶者（夫、妻）」が41.9%・40.4%で4割を超えて第1位に挙げられている。次いで、男性で「父母（子どもの祖父母）」が22.6%、女性で「父母（子どもの祖父母）」が34.0%、「知人」が33.0%で上位に挙げられている。

年齢別でみると、20～29歳・30～39歳・40～49歳のすべての年齢層で「配偶者（夫、妻）」が第1位、「父母（子どもの祖父母）」が第2位となっている。また、20～29歳では「知人」、「保育園、幼稚園、学校の先生」がともに40.0%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。

子育てについての相談者（「悩んでいることは特にない」以外を回答した人のみ・全体）



1 3 高齢社会や介護保険制度について

(1) 介護が必要となった場合に受けたい介護

問 30 仮に、あなたが老後に寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。

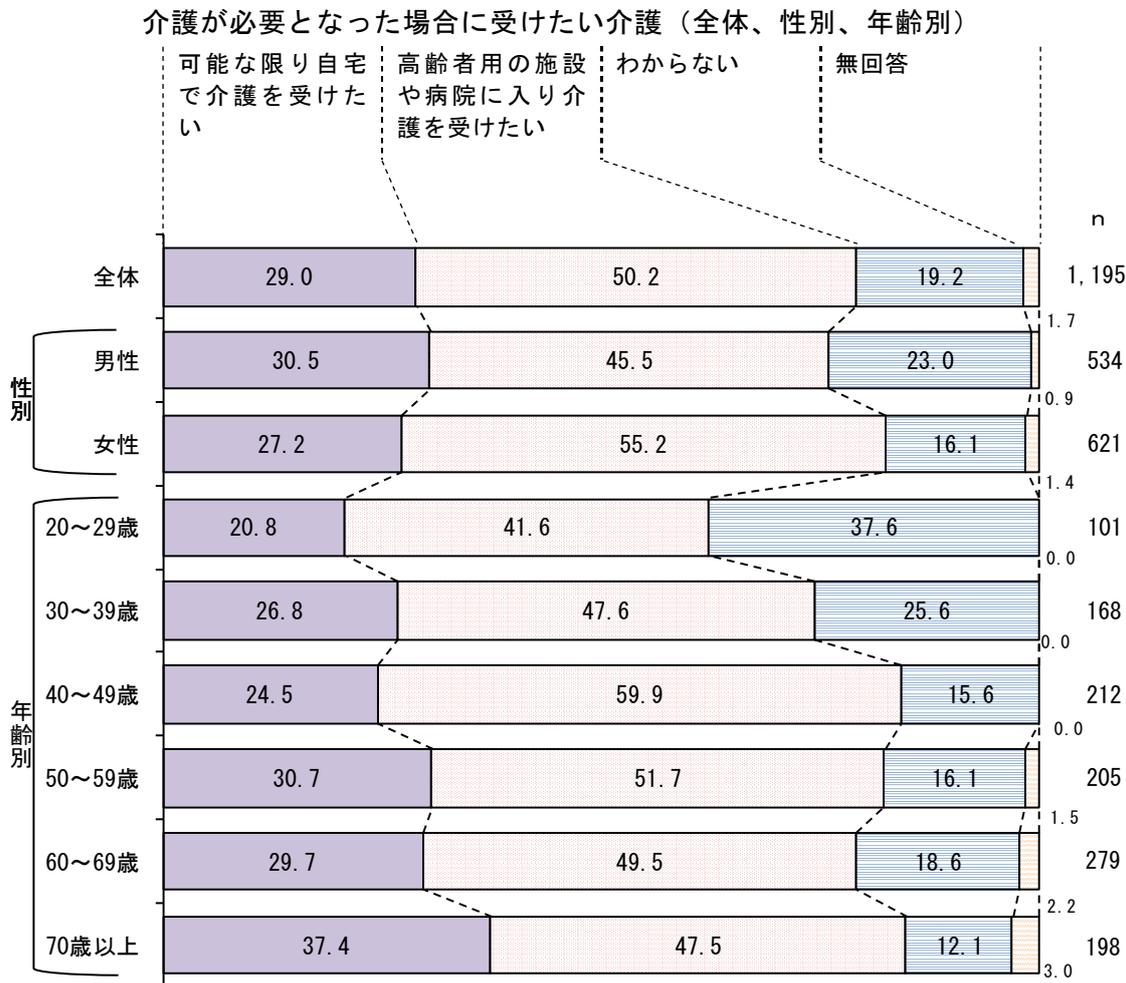
● 「高齢者用の施設や病院に入り介護を受けたい」が50.2%で半数を超える。

[全体]

介護が必要となった場合に受けたい介護についてたずねたところ、「高齢者用の施設や病院に入り介護を受けたい」が50.2%で半数を超えて最も多く、次いで「可能な限り自宅で介護を受けたい」が29.0%、「わからない」が19.2%となっており、居宅介護より施設介護を望む人が多い結果となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「高齢者用の施設や病院に入り介護を受けたい」が最も多くなっている。



(2) 自宅で介護を受けたい理由

問 30-1 自宅で介護を受けたい理由を次の中から選んでください。【問 30 で「1. 可能な限り自宅で介護を受けたい」と回答された方のみ／複数回答】



● 「住みなれた自宅で生活を続けたいから」が他を大きく引き離して第1位。

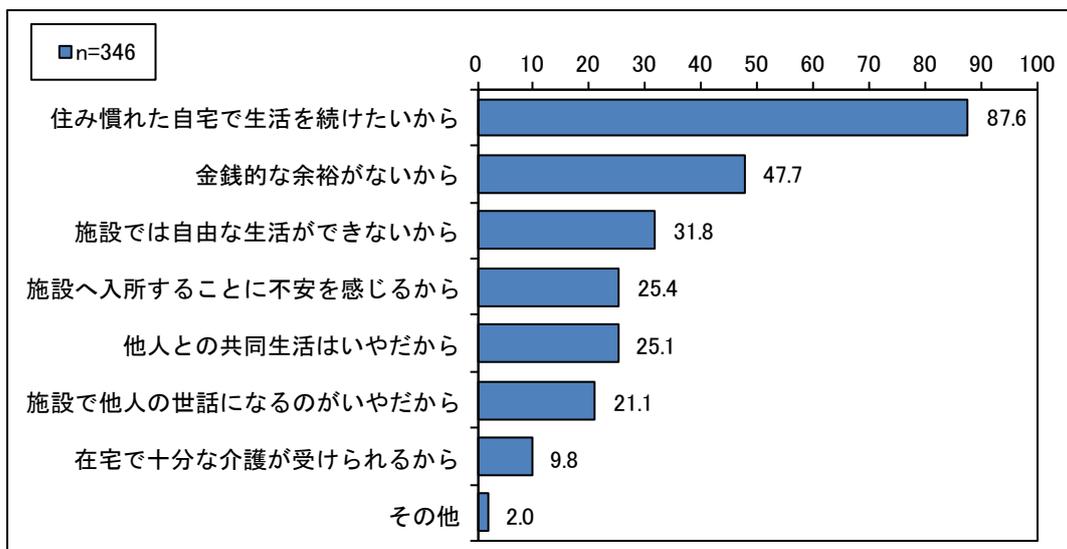
[全体]

「可能な限り自宅で介護を受けたい」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「住みなれた自宅で生活を続けたいから」が87.6%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「金銭的な余裕がないから」が47.7%、「施設で自由な生活ができないから」が31.8%、「施設へ入所することに不安を感じるから」が25.4%、「他人との共同生活はいやだから」が25.1%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「住みなれた自宅で生活を続けたいから」が8割を超えて第1位となっている。

自宅で介護を受けたい理由（「自宅で介護を受けたい」と回答した人のみ・全体）



(3) 施設等で介護を受けたい理由

問 30-2 施設等で介護を受けたい理由を次の中から選んでください。【問 30 で「2. 高齢者のための施設や病院に入所・入院し、介護を受けたい」と回答された方のみ／複数回答】

● 「家族に迷惑をかけたくないから」が他を大きく引き離して第1位。

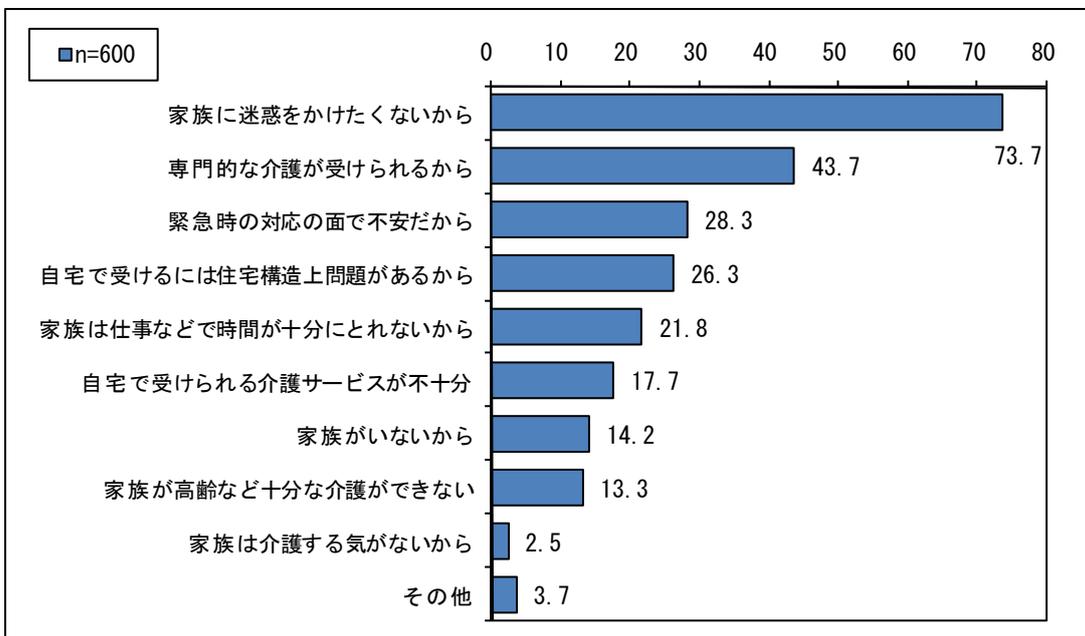
[全体]

「高齢者のための施設や病院に入所・入院し、介護を受けたい」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「家族に迷惑をかけたくないから」が73.7%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「専門的な介護が受けられるから」が43.7%、「緊急時の対応の面で不安だから」が28.3%、「自宅で受けるには住宅構造上問題があるから」が26.3%、「家族は仕事などで時間が十分にとれないから」が21.8%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「家族に迷惑をかけたくないから」が6割を超えて第1位、「専門的な介護が受けられるから」が第2位となっている。

施設等で介護を受けたい理由（「施設で介護を受けたい」と回答した人のみ・全体）



(4) 介護サービス充実のための費用負担について

問31 平成26年には4人に1人が65歳以上という「超高齢社会」が到来します。それに伴い、介護サービスを現状維持していくためには、より一層の費用負担が必要です。その費用負担について考えをお聴かせください。

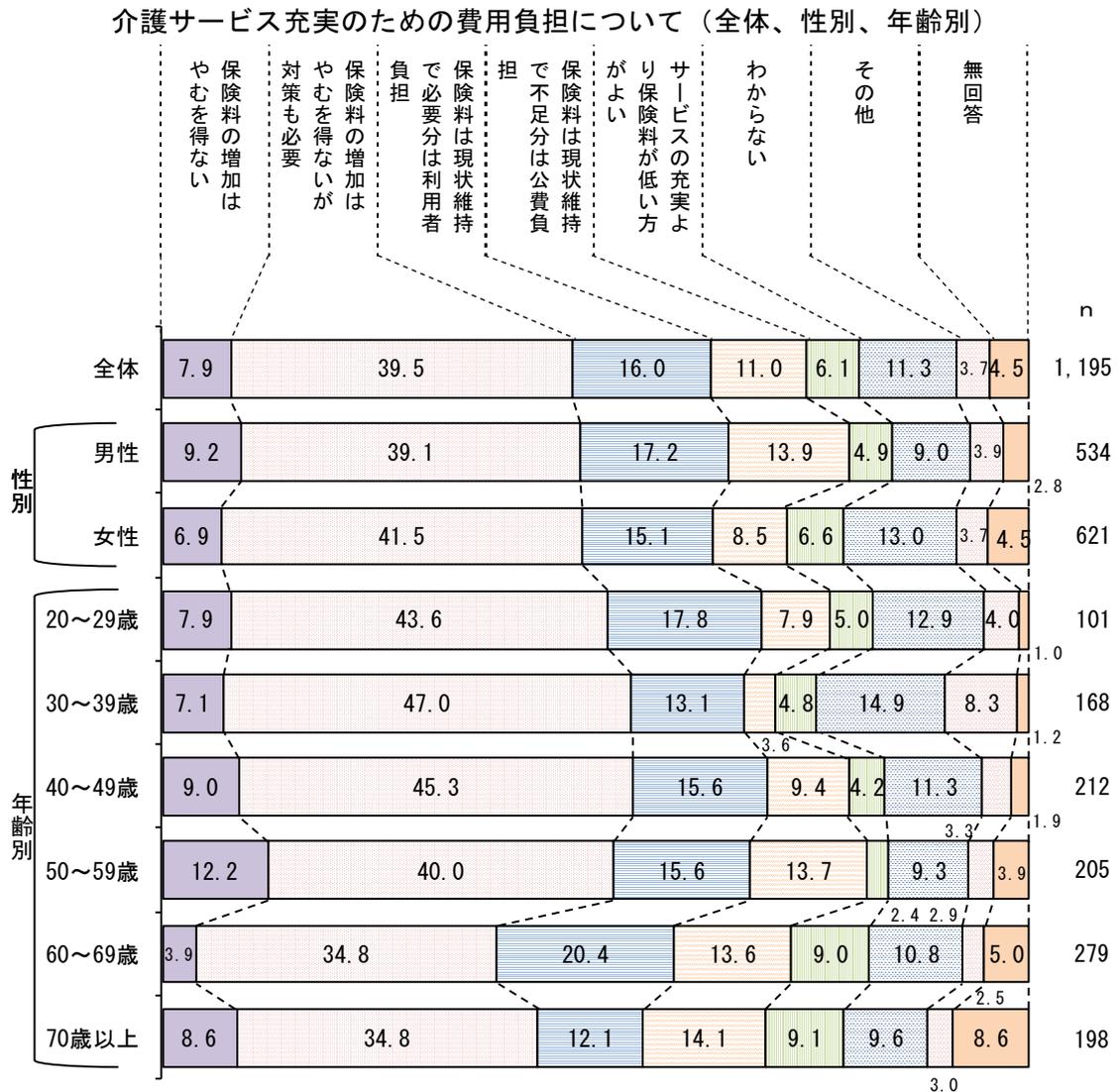
● 「保険料増加はやむを得ないが対策も必要」が39.5%で最も多い。

[全体]

介護サービス充実のための費用負担についてたずねたところ、「保険料増加はやむを得ないが対策も必要」が39.5%で最も多く、次いで「保険料は現状維持で必要分は利用者負担」が16.0%、「保険料は現状維持で不足分は公費負担」が11.0%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別で見ると、全体と同様にすべての層で「保険料増加はやむを得ないが対策も必要」が最も多くなっている。



1 4 買物・商業関連施設について

(1) 買物をする場所

問 32 あなたは、次の買物などを主にどこでしていますか。ア～スの商品ごとに一番よく利用する場所をそれぞれ1つずつ選んで○をつけてください。



- 市内の「大型専門店」、「総合大型店」、市外では「立川」での買物が多い。

[商品別の傾向]

買物動向を商品別にまとめると以下の通りとなっており、「市内：大型専門店」および「市内：総合大型店」での買物が多くなっている。

○ 食料品

「市内：スーパーマーケット」が65.0%で最も多く、次いで「市内：総合大型店」が17.7%、「市内：大型専門店」および「市内：コンビニエンスストア」がともに2.8%などの順となっている。

○ 日用雑貨品

「市内：総合大型店」が52.5%で最も多く、次いで「市内：スーパーマーケット」が17.2%、「市内：大型専門店」が12.6%などの順となっている。

○ 肌着・寝具

「市内：総合大型店」が45.4%で最も多く、次いで「市内：大型専門店」が24.2%、「市内：その他」が7.4%などの順となっている。

○ 洋服・呉服

「市内：大型専門店」が24.3%で最も多く、次いで「市内：総合大型店」が22.2%、「立川」が14.9%などの順となっている。

○ 靴・カバン類

「市内：大型専門店」が25.4%で最も多く、次いで「市内：総合大型店」が18.4%、「立川」が17.5%などの順となっている。

○ 家具

「市内：大型専門店」が42.3%で最も多く、次いで「市内：総合大型店」が21.7%、「市内：その他」が10.0%などの順となっている。

○ 電化製品

「市内：大型専門店」が66.4%で最も多く、次いで「市内：総合大型店」が7.4%、「立川」および「市内：その他」がともに5.6%などの順となっている。

○ カメラ・時計・宝石類

「市内：大型専門店」が44.6%で最も多く、次いで「立川」が12.3%、「市内：総合大型店」および「市内：その他」がともに8.4%などの順となっている。

○ スポーツ・レジャー用品

「市内：大型専門店」が34.9%で最も多く、次いで「市内：総合大型店」が22.5%、「市内：その他」が8.1%などの順となっている。

○ 書籍・文具

「市内：総合大型店」が30.2%で最も多く、次いで「市内：大型専門店」が22.2%、「市内：その他」が9.4%などの順となっている。

○ 贈答品

「市内：総合大型店」が30.0%で最も多く、次いで「立川」が19.2%、「市内：大型専門店」が12.6%などの順となっている。

○ 飲食

「市内：その他」が28.0%で最も多く、次いで「市内：商店街」が16.8%、「市内：大型専門店」が10.1%などの順となっている。

○ 理容・美容

「市内：その他」が40.6%で最も多く、次いで「市内：商店街」が26.3%、「羽村・福生」が7.4%などの順となっている。

[買物先の傾向]

市内での買物が多い商品を比率で見ると以下の通りとなっている。

○ 90%以上（1項目）

「食料品」(91.4%)

○ 80%以上（3項目）

「日用雑貨品」(89.9%)、「電化製品」(83.0%)、「肌着・寝具」(81.7%)

○ 70%以上（4項目）

「家具」(75.8%)、「理容・美容」(75.4%)、「書籍・文具」(72.9%)、「飲食」(72.4%)

○ 60%以上（2項目）

「スポーツ・レジャー用品」(68.4%)、「カメラ・時計・宝石類」(63.9%)

○ 50%以上（3項目）

「贈答品」(59.1%)、「洋服・呉服」(57.5%)、「靴・カバン類」(55.2%)

市外での買物が比較的多い商品は、「靴・カバン類」が38.0%、「洋服・呉服」が36.8%、「贈答品」が33.7%などとなっており、これらの商品は「立川」での購入が高い傾向がみられる。

買物をする場所（全体）

	市内						
	総合大型店	大型専門店	スーパーマーケット	コンビニエンスストア	商店街	その他	市内合計
食料品	②17.7	③ 2.8	①65.0	③ 2.8	0.8	2.3	91.4
日用雑貨品	①52.5	③12.6	②17.2	0.9	1.8	4.9	89.9
肌着・寝具	①45.4	②24.2	1.8	0.1	2.8	③7.4	81.7
洋服・呉服	②22.2	①24.3	0.8	0.0	3.9	6.3	57.5
靴・カバン類	②18.4	①25.4	0.8	0.0	3.2	7.4	55.2
家具	②21.7	①42.3	0.2	0.0	1.6	③10.0	75.8
電化製品	② 7.4	①66.4	0.6	0.0	3.0	③ 5.6	83.0
カラ・時計・宝石類	③ 8.4	①44.6	0.3	0.0	2.2	③ 8.4	63.9
スポーツ・レジャー用品	②22.5	①34.9	0.4	0.2	2.3	③ 8.1	68.4
書籍・文具	①30.2	②22.2	1.0	1.1	9.0	③ 9.4	72.9
贈答品	①30.0	③12.6	2.8	0.6	4.3	8.8	59.1
飲食	8.9	③10.1	6.3	2.3	②16.8	①28.0	72.4
理容・美容	3.0	4.9	0.3	0.3	②26.3	①40.6	75.4

	市外											無回答
	あきる野	日の出	羽村・福生	瑞穂	昭島	立川	武蔵村山	寺	吉祥寺・国分	都心（23区）	飯能・入間	
食料品	0.3	1.3	1.5	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.6	4.9	3.9
日用雑貨品	0.3	0.7	0.6	0.8	0.3	0.8	0.2	0.1	0.3	0.0	4.1	6.0
肌着・寝具	0.6	3.0	0.9	0.4	0.8	4.1	0.8	0.3	1.9	0.5	13.3	5.0
洋服・呉服	1.0	6.4	1.2	0.4	2.3	③14.9	2.0	0.6	6.0	2.0	36.8	5.6
靴・カバン類	0.8	5.8	0.6	0.7	1.4	③17.5	1.7	0.6	7.0	1.9	38.0	6.9
家具	0.1	0.3	0.8	1.9	0.3	4.4	0.8	0.3	2.6	1.6	13.1	11.1
電化製品	0.2	1.1	1.4	0.1	0.2	③ 5.6	0.3	0.2	2.8	0.0	11.9	5.3
カラ・時計・宝石類	0.2	1.5	1.3	0.3	0.8	②12.3	0.6	0.5	7.4	0.3	25.2	11.2
スポーツ・レジャー用品	0.6	3.7	1.8	2.2	1.2	5.3	0.9	0.1	3.4	0.9	20.1	11.5
書籍・文具	0.5	3.4	2.4	0.7	1.1	7.4	0.5	0.3	3.2	0.0	19.5	7.6
贈答品	0.7	4.0	0.6	0.3	1.1	②19.2	0.8	0.3	5.9	0.8	33.7	7.4
飲食	0.7	3.1	3.1	0.5	1.0	6.4	0.3	0.8	2.9	0.3	19.1	8.7
理容・美容	0.7	0.7	③7.4	0.5	0.8	3.3	0.1	0.9	2.9	1.2	18.5	6.4

※表中の丸数字は順位

(2) 商業施設について

問 33 あなたは、市内の商店街にどのような商業関連施設を希望しますか。【複数回答】

● 「映画館」が第1位。次いで「百貨店（デパート）」、「スーパーマーケット」が続く。

[全体]

商店街に希望する商業施設をたずねたところ、「映画館」が22.1%で第1位に挙げられ、次いで「百貨店（デパート）」が18.1%、「スーパーマーケット」が15.0%などの順となっている。

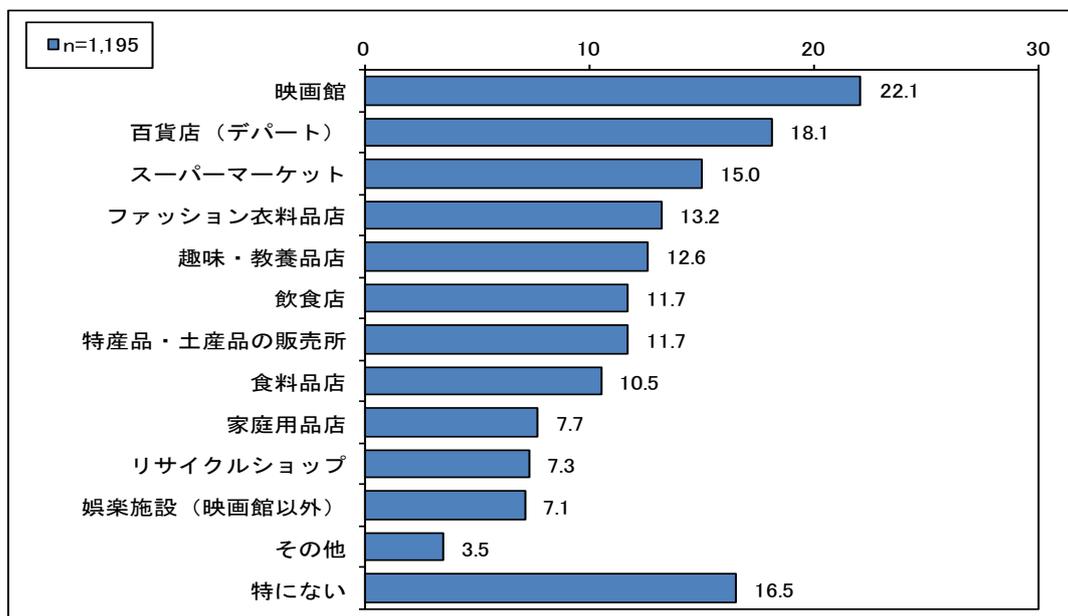
[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「映画館」が22.5%・22.5%で第1位に挙げられ、次いで、「百貨店（デパート）」が18.0%・18.4%で第2位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・40～49歳・50～59歳・60～69歳で「映画館」が31.7%・24.1%・25.4%・20.4%、30～39歳・70歳以上で「百貨店（デパート）」が21.4%・21.7%で、それぞれ第1位となっている。

居住地区で見ると、青梅地区で「飲食店」、「映画館」がともに21.6%、長淵地区で「スーパーマーケット」が17.5%、大門地区・東青梅地区・河辺地区・今井地区で「映画館」が34.1%・22.0%・20.7%・35.1%、梅郷地区で「映画館」、「リサイクルショップ」がともに18.8%、沢井地区で「特産品・土産品の販売所」が22.2%、小曾木地区で「百貨店（デパート）」、「スーパーマーケット」、「趣味・教養品店」、「映画館」、「特産品・土産品の販売所」がともに16.1%、成木地区で「百貨店（デパート）」、「映画館」、「特産品・土産品の販売所」が26.7%、新町地区で「百貨店（デパート）」が25.7%と、それぞれ第1位に挙げられている。

商業施設について（全体）



(3) 商店街施設について

問 33 あなたは、市内の商店街にどのような商業関連施設を希望しますか。【複数回答】

● 「駐車場、自転車置場」が他を引き離して第1位。

[全体]

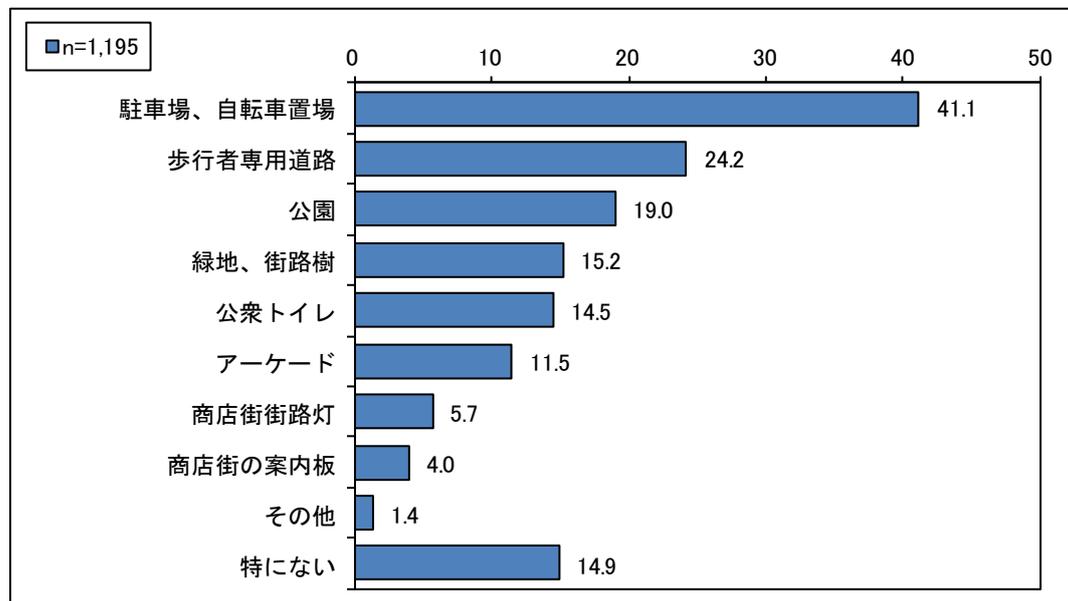
商店街に希望する商店街施設をたずねたところ、「駐車場、自転車置場」が41.1%で他を引き離して第1位に挙げられ、次いで「歩行者専用道路」が24.2%、「公園」が19.0%、「緑地、街路樹」が15.2%などの順となっている。なお、「特にない」は14.9%となっている。

[属性別]

性別・年齢別で見ると、すべての層で「駐車場、自転車置場」が第1位となっている。

居住地別でも、すべての地区で「駐車場、自転車置場」が第1位となっているが、成木地区では「公衆トイレ」が46.7%となっており、他地区に比べて高い傾向がみられる。

商店街施設について（全体）



15 ボランティア・市民活動について

(1) ボランティア・市民活動への参加

問 34 あなたは、現在ボランティアや市民活動に参加されていますか。

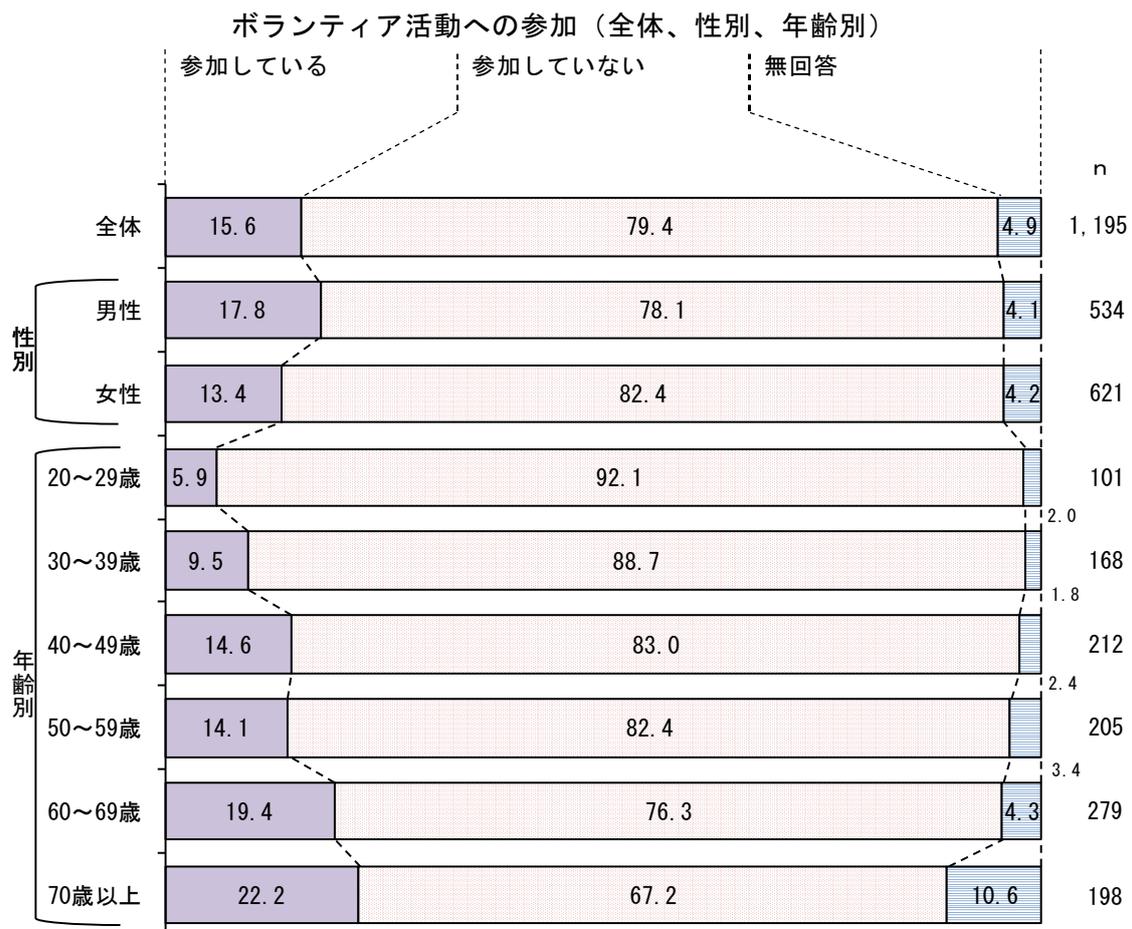
● 「参加している」が 15.6%、一方「参加していない」が 79.4%。

[全体]

ボランティアや市民活動への参加をたずねたところ「参加している」が 15.6%、「参加していない」が 79.4%となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「参加していない」が多くなっている。



(2) 参加しているボランティア活動等

問 34-1 あなたが参加しているボランティアや市民活動はどのようなものですか。【問 34 で「1. 参加している」と回答された方のみ／複数回答】



● 「まちづくり」が第1位。次いで「市や市民団体主催のイベント協力」、「地域安全」が続く。

[全体]

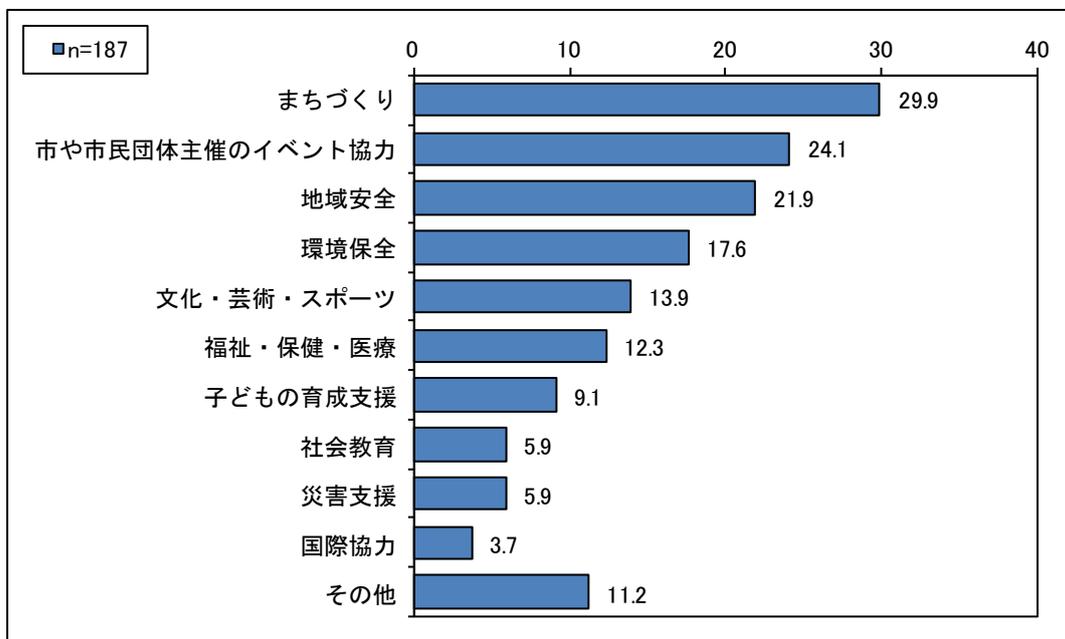
ボランティアや市民活動に「参加している」と回答した人に、その活動内容をたずねたところ、「まちづくり」が29.9%で第1位に挙げられ、次いで「市や市民団体主催のイベント協力」が24.1%、「地域安全」が21.9%、「環境保全」が17.6%などの順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「まちづくり」が34.7%・24.1%で第1位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・50～59歳で「文化・芸術・スポーツ」が66.7%・27.6%、30～39歳・40～49歳で「地域安全」が37.5%・25.8%、60～69歳・70歳以上で「まちづくり」が35.2%・40.9%で、それぞれ第1位となっている。

参加しているボランティア活動（「参加している」と回答した人のみ・全体）



(3) ボランティア活動等に参加しない理由

問 34-2 あなたが参加されていないのはどのような理由からですか。【問 34 で「2. 参加していない」と回答された方のみ】

● 「仕事や家事が多忙で時間がとれない」が 36.5%で最も多い。

[全体]

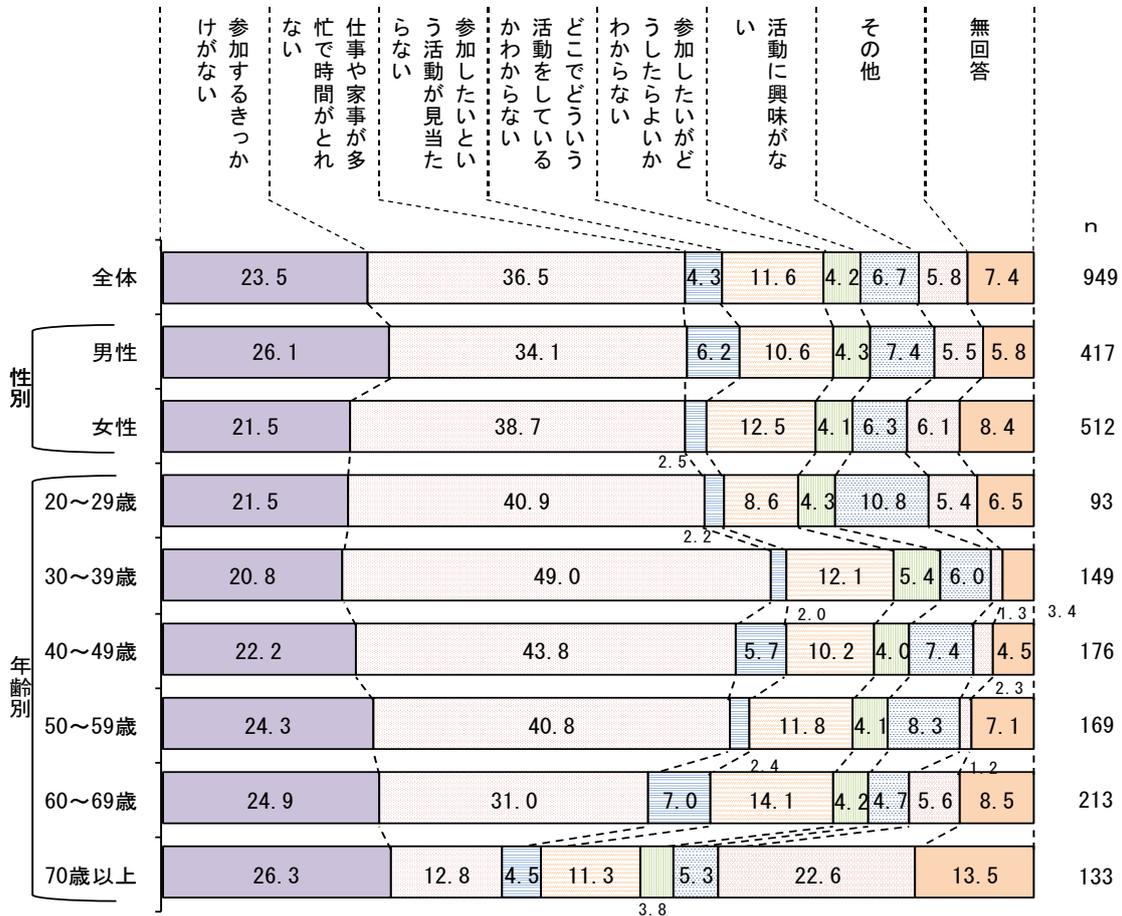
ボランティアや市民活動に「参加していない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「仕事や家事が多忙で時間がとれない」が 36.5%で最も多く、次いで「参加するきっかけがない」が 23.5%、「どこでどういう活動をしているかわからない」が 11.6%などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「仕事や家事が多忙で時間がとれない」が 34.1%・38.7%で最も多くなっている。

年齢別でみると、20～29歳・30～39歳・40～49歳・50～59歳・60～69歳で「仕事や家事が多忙で時間がとれない」が 40.9%・49.0%・43.8%・40.8%・31.0%で最も多くなっているが、70歳以上では「参加するきっかけがない」が 26.3%、「参加したいがどうしたらよいかかわからない」が 22.6%と多くなっている。

ボランティア活動に参加しない理由（「参加していない」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



(4) ボランティア活動等への参加意向

問 34-3 あなたは、ボランティアや市民活動に参加したいと思いますか。【問 34で「2. 参加していない」と回答された方のみ】

● 参加したいと「思う」が44.4%。「思わない」が51.3%。

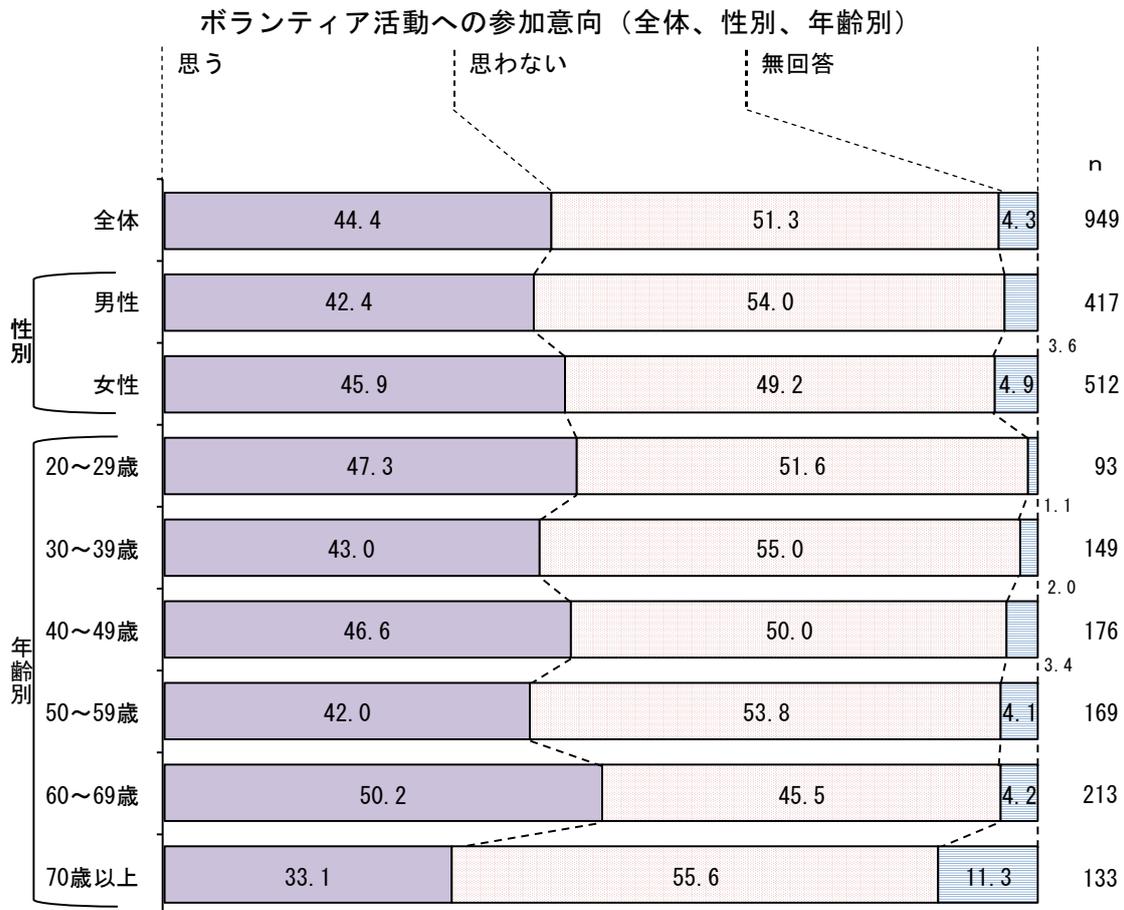
[全体]

ボランティアや市民活動に「参加していない」と回答した人に、ボランティア活動等への参加意向をたずねたところ、参加したいと「思う」が44.4%、「思わない」が51.3%となっている。

[属性別]

性別で見ると、参加したいと「思う」が男性42.4%・女性45.9%となっており、女性がやや多くなっている。

年齢別で見ると、50歳代以下・70歳以上で参加したいと「思わない」が、「思う」を上回っているが、60～69歳では「思う」が50.2%で半数を超えており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



(5) ボランティア活動等への参加方法

問 34-3-① あなたがボランティアや市民活動に参加する場合、どのようなかたちで参加したいと思いますか。【問 34-3 で「1. 思う」と回答された方のみ／複数回答】

● 「市の呼びかけ（行政）による参加」が第1位。次いで「町内会・自治会を通じての参加」、「ボランティア団体を通じての参加」が続く。

[全体]

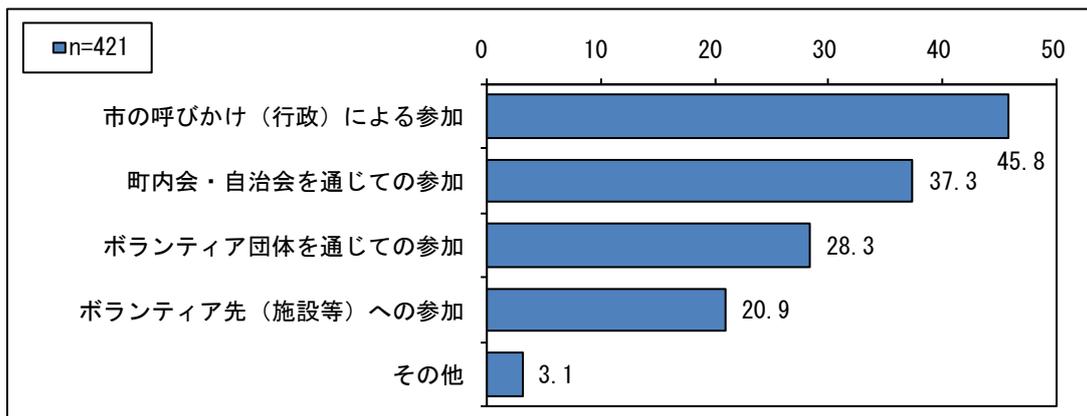
ボランティアや市民活動に参加したいと「思う」と回答した人に、ボランティア活動等への参加方法をたずねたところ、「市の呼びかけ（行政）による参加」が45.8%で第1位に挙げられ、次いで「町内会・自治会を通じての参加」が37.3%、「ボランティア団体を通じての参加」が28.3%、「ボランティア先への参加」が20.9%の順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「市の呼びかけ（行政）による参加」が46.9%・46.0%で第1位、次いで「町内会・自治会を通じての参加」が36.7%・35.7%で第2位となっている。

年齢別でみると、20～29歳で「ボランティア先（施設等）への参加」が38.6%、30～39歳・40～49歳・50～59歳・60～69歳で「市の呼びかけ（行政）による参加」が46.9%・50.0%・46.5%・53.3%、70歳以上で「町内会・自治会を通じての参加」が63.6%で、それぞれ第1位となっている。

ボランティア活動への参加方法（参加したいと「思う」と回答した人のみ・全体）



(6) 青梅ボランティア・市民活動センターについて

問 35 あなたは、青梅ボランティア・市民活動センターを御存じですか。

● 「知らない」が62.4%で6割を超える。

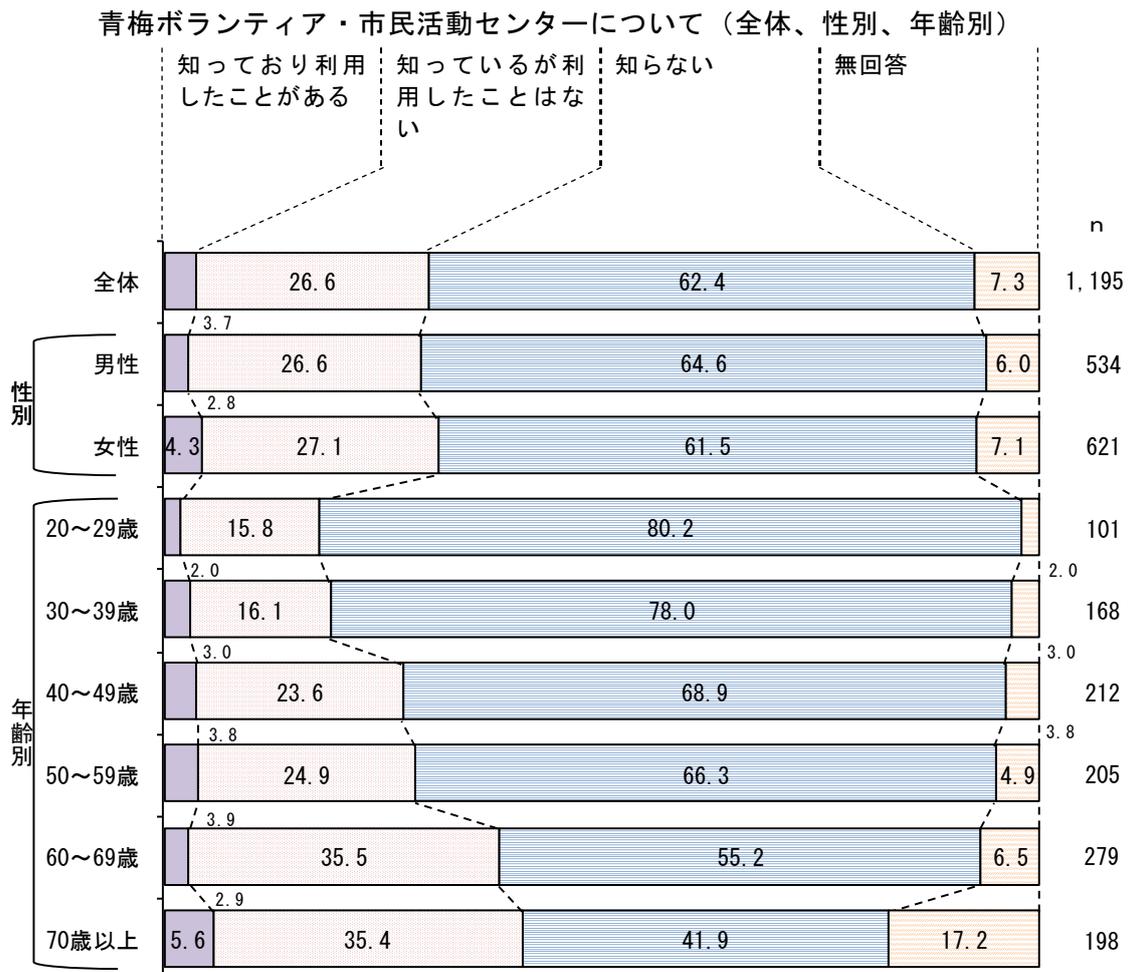
[全体]

青梅ボランティア・市民活動センターについてたずねたところ、「知っており利用したことがある」が3.7%にとどまり、「知っているが利用したことがない」が26.6%となっている。なお、「知らない」は62.4%となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「知らない」が64.6%・61.5%で6割を超えて最も多くなっている。

年齢別でみると、すべての年齢層で「知らない」が最も多くなっているが、年齢が上がるにつれて「知っているが利用したことはない」と回答する割合が高くなり、「知らない」は低くなる傾向がみられる。



(7) 青梅ボランティア・市民活動センターの利用目的

問 35-1 どのようなことで利用されましたか。【問 35 で「1. 知っており、利用したことがある」と回答された方のみ／複数回答】



- 「貸室での打合せや活動のため」が他を引き離して第1位。

[全体]

青梅ボランティア・市民活動センターを「利用したことがある」と回答した人に、その利用目的についてたずねたところ、「貸室での打合せや活動のため」が47.7%で他を引き離して第1位となっており、次いで「チラシ印刷などの作業のため」が27.3%、「市民活動に関する情報の収集と発信のため」が22.7%、「市民活動に関する相談のため」が20.5%の順となっている。

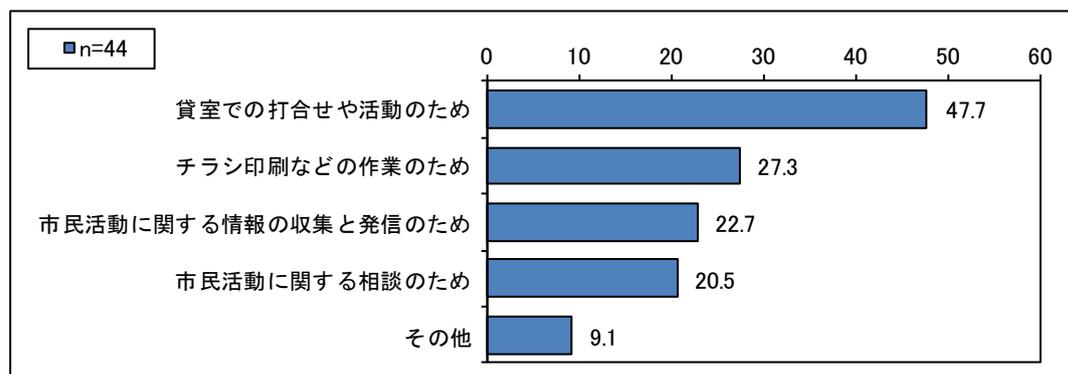
[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「貸室での打合せや活動のため」が53.3%・48.1%で第1位となっている。

年齢別で見ると、すべての年齢層で「貸室での打合せや活動のため」が第1位となっているが、30～39歳では「市民活動に関する情報の収集と発信のため」も40.0%で他の世代に比べて高い傾向がみられる。

青梅ボランティア・市民活動センターの利用目的

(「利用したことがある」と回答した人のみ・全体)



16 自治会等について

(1) 自治会への加入状況

問 36 青梅市内には、一定の地域ごとに、自治会という団体が形成されていますが、あなたはこの自治会に加入していますか。

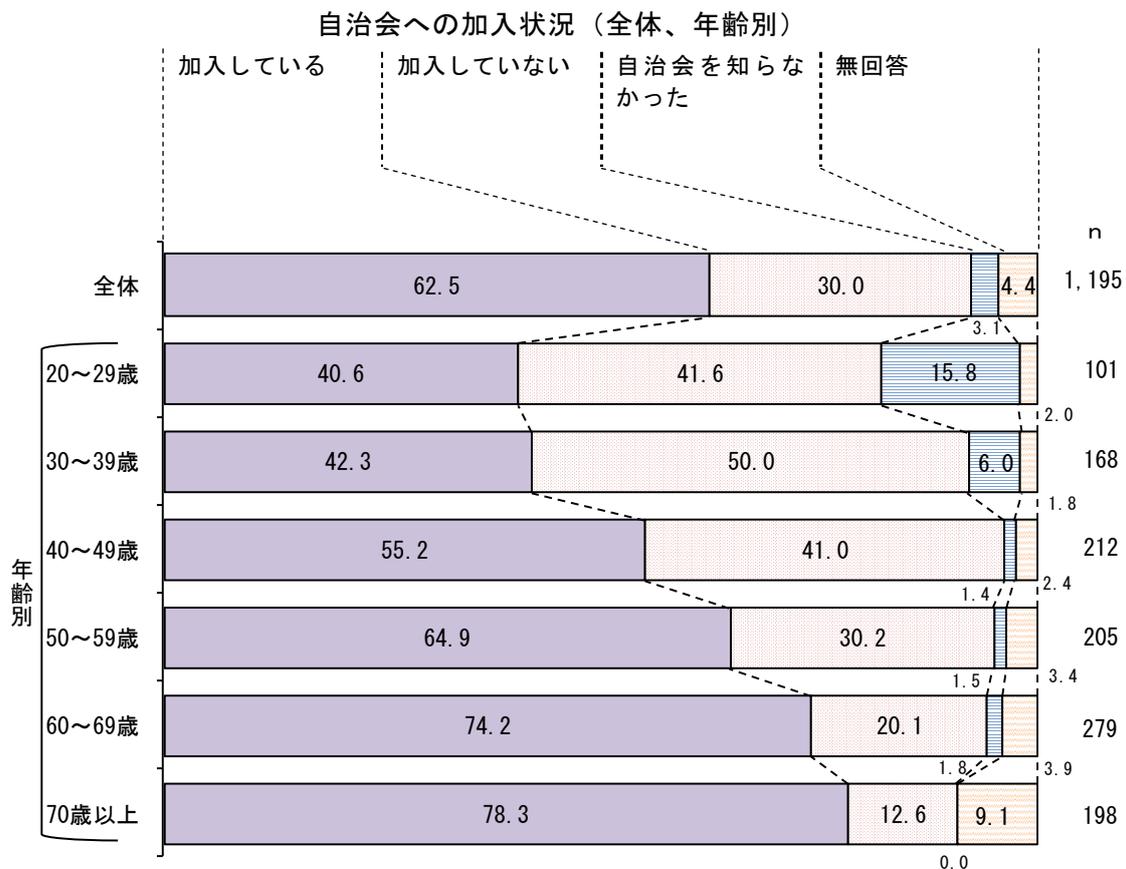
● 「加入している」が 62.5%、「加入していない」が 30.0%。

[全体]

自治会への加入状況は、「加入している」が 62.5%、「加入していない」が 30.0%となっている。

[属性別]

年齢別でみると、年齢があがるにつれて「加入している」と回答する割合が高くなり、「加入していない」が低くなる傾向がみられる。また、20～29歳では「自治会を知らなかった」が 15.8%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。



(2) 参加している自治会の事業

問 36-1 自治会等で実施される地域の各種事業で、参加している事業はどれですか。【問 36 で「1. 加入している」と回答された方のみ／複数回答】



● 「美化運動、ごみ減量運動などの推進事業」が第1位。次いで「お祭りや盆踊り等の親睦事業」、「各種募金活動等」が続く。

[全体]

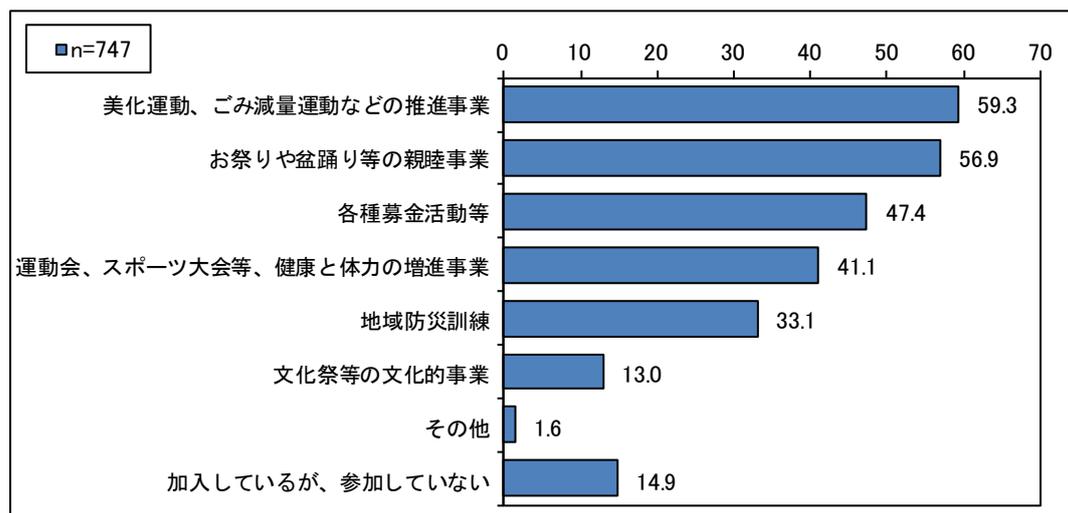
自治会に「加入している」と回答した人に、その事業内容をたずねたところ「美化運動、ごみ減量運動などの推進事業」が 59.3% で第1位に挙げられ、次いで「お祭りや盆踊り等の親睦事業」が 56.9%、「各種募金活動等」が 47.4%、「運動会、スポーツ大会等、健康と体力の増進事業」が 41.1% などの順となっている。なお、「加入しているが特に参加していない」は 14.9% となっている

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「美化運動、ごみ減量運動などの推進事業」が 63.6%・56.5% で半数を超えて第1位となっている。

年齢別でみると、20～29歳・40～49歳・50～59歳・60～69歳・70歳以上で「美化運動、ごみ減量運動などの推進事業」が 48.8%・63.2%・61.7%・63.8%・65.2%、30～39歳で「お祭りや盆踊り等の親睦事業」が 54.9% で、それぞれ第1位となっている。

参加している自治会の事業（自治会に「加入している」と回答した人のみ・全体）



(3) 自治会への加入意向

問 36-2 今後、自治会に加入したいと思いますか。【問 36 で「3. 自治会を知らなかった」と回答された方のみ】

● 「加入したいと思う」は 21.5%。一方「加入したいとは思わない」は 73.0%

[全体]

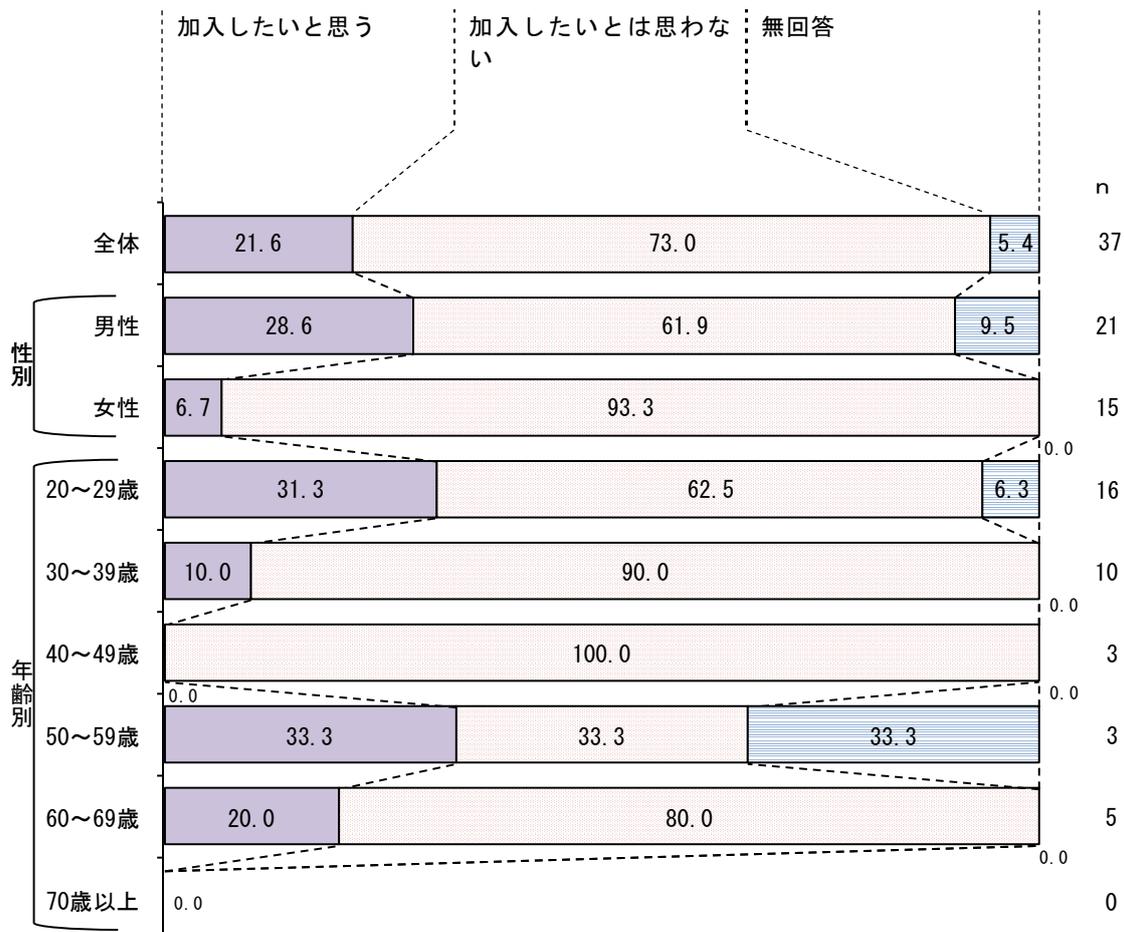
「自治会組織を知らなかった」と回答した人に、自治会への加入意向をたずねたところ、「加入したい」が 21.6%、「加入したいとは思わない」が 73.0%となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「加入したいとは思わない」が最も多くなっているが、「加入したいと思う」は男性 28.6%・女性 6.7%となっており、男性が多くなっている。

年齢別で見ると、20～29歳・50～59歳で「加入したいと思う」が 31.3%・33.3%となっており、他の世代に比べて高い傾向がみられる。

自治会への加入意向（「自治会組織を知らなかった」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



(4) 自治会に未加入の理由

問 36-3 未加入の理由は何ですか。【問 36 で「2. 加入していない」および問 36-2 で「2. 加入したいとは思わない」と回答された方のみ／複数回答】



● 「自治会活動に参加する時間の余裕がない」が他を大きく引き離して第1位。

[全体]

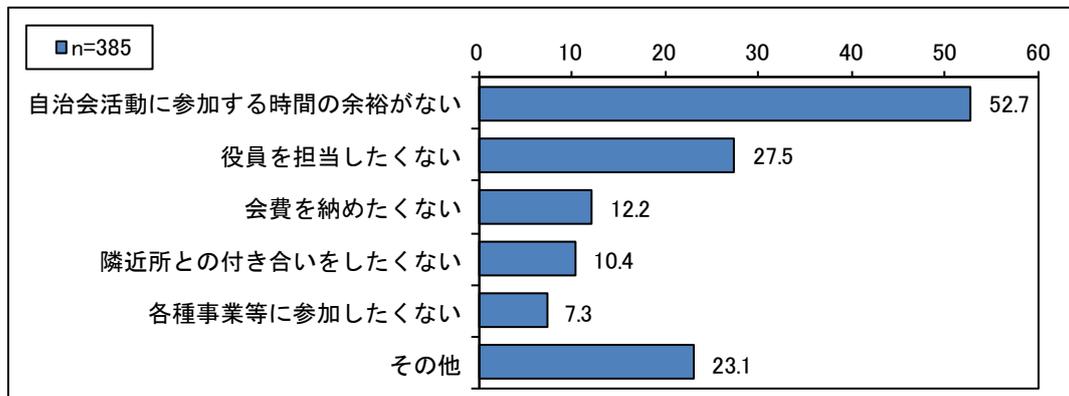
自治会に「加入していない」または「加入したいとは思わない」と回答した人その理由をたずねたところ、「自治会活動に参加する時間の余裕がない」が52.7%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「役員を担当したくない」が27.5%、「会費を納めたくない」が12.2%、「隣近所とのつきあいをしたくない」が10.4%、「各種事業等に参加したくない」が7.3%の順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「自治会活動に参加する時間の余裕がない」が56.4%・50.0%で半数を超えて第1位となっている。

年齢別でみると、すべての年齢層で「自治会活動に参加する時間の余裕がない」が第1位となっているが、60歳以上では「役員を担当したくない」も多く挙げられている。

自治会に未加入の理由（「加入していない」または「加入したいとは思わない」と回答した人のみ・全体）



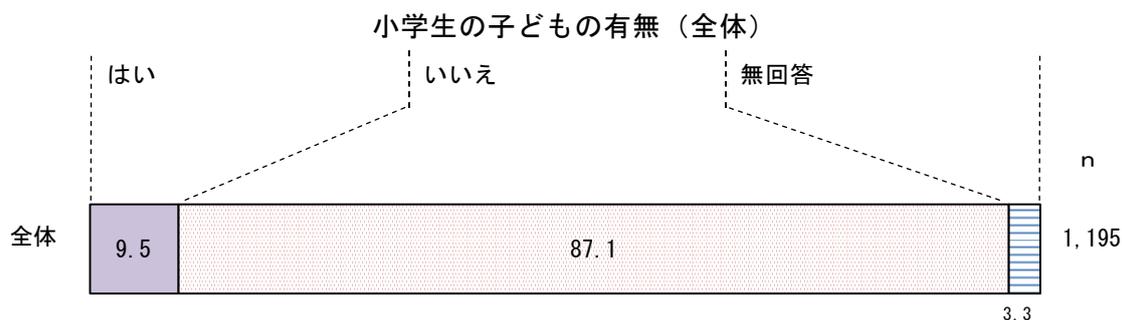
(5) 小学生の子どもの有無

問 37 あなたは現在、小学生のお子さんがいますか。

● 「はい」が9.5%、「いいえ」が87.1%。

[全体]

現在、小学生の子どもの有無についてたずねたところ、「はい」が9.5%、「いいえ」が87.1%となっている。



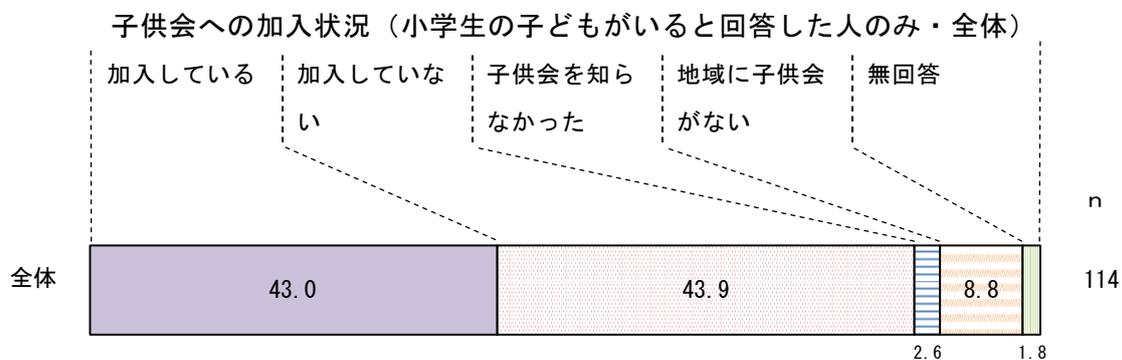
(6) 子供会への加入状況

問 37-1 子供会に加入していますか。【問 37 で「1. はい」の番号を選択された方のみ】

● 「加入している」と「加入していない」がほぼ同数。

[全体]

現在、小学生の子どもがいると回答した人に、子供会への加入状況をたずねたところ、「加入している」が43.0%、「加入していない」が43.9%でほぼ同数となっている。



(7) 参加している子供会の事業

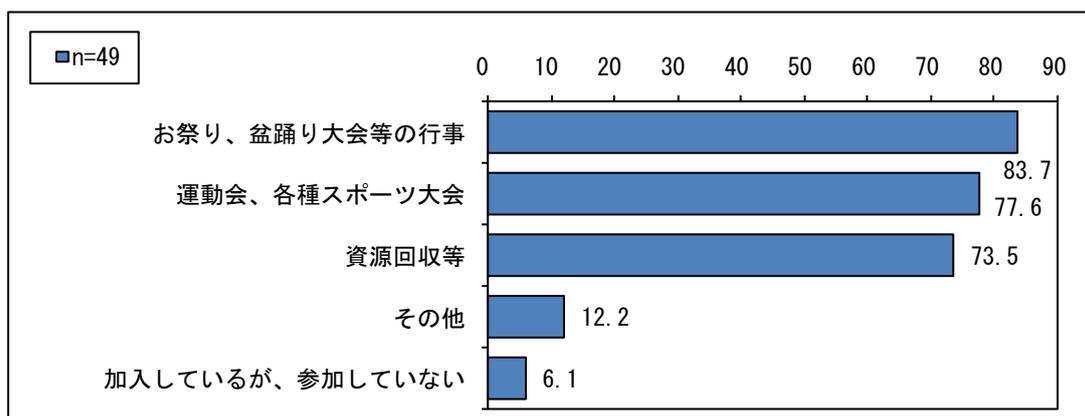
問 37-2 子供会で実施される各種事業で、参加している事業はどれですか。
【問 37-1 で「1. 加入している」と回答された方のみ／複数回答】

● 「お祭り、盆踊り大会等の行事」が第1位。次いで「運動会、各種スポーツ大会」、「資源回収等」が続く。

[全体]

子供会に「加入している」と回答した人に、その参加している事業についてたずねたところ「お祭り、盆踊り大会等の行事」が 83.7% で第1位に挙げられ、次いで「運動会、各種スポーツ大会」が 77.6%、「資源回収等」が 73.5% の順となっている。なお、「加入しているが、参加していない」は 6.1% となっている。

参加している子供会の事業（子供会に「加入している」と回答した人のみ・全体）



(8) 子供会への加入意向

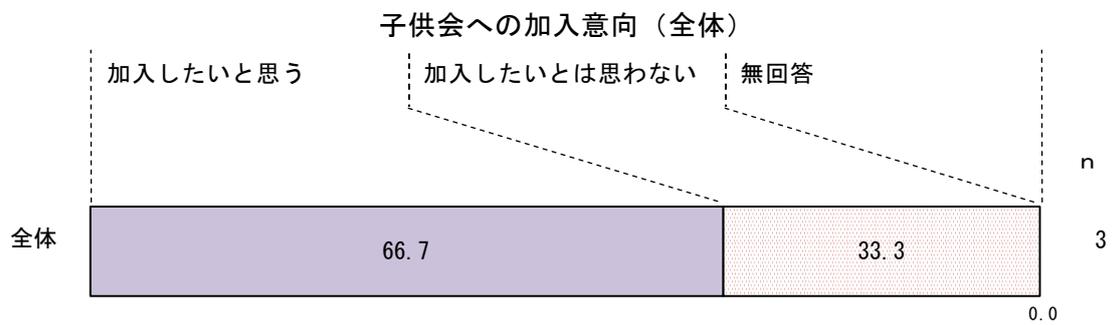
問 37-3 今後、子供会に加入したいと思いますか。【問 37-1 で「3. 子供会を知らなかった」と回答された方のみ】



● 「加入したいと思う」は 66.7%。「加入したいとは思わない」は 33.3%。

[全体]

「子供会を知らなかった」と回答した人に、子供会への加入意向をたずねたところ、「加入したいと思う」が 66.7%、「加入したいとは思わない」が 33.3%となっている。



(9) 子供会へ未加入の理由

問 37-4 未加入の理由は何ですか。【問 37-1 で「2. 加入していない」および問 37-3 で「2. 加入したいとは思わない」と回答された方のみ／複数回答】

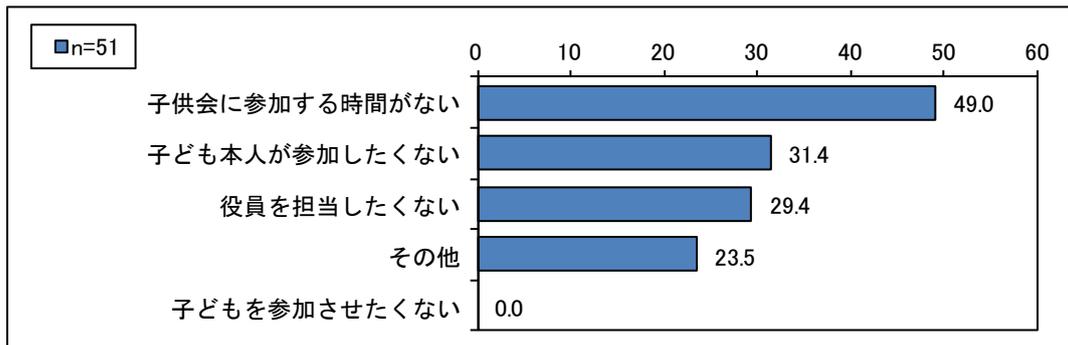


● 「子供会に参加する時間がない」が第1位。次いで「子ども本人が参加したくない」、「役員を担当したくない」が続く。

[全体]

子供会に「加入していない」または「加入したいとは思わない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「子供会に参加する時間がない」が49.0%で第1位に挙げられ、次いで「子ども本人が参加したくない」が31.4%、「役員を担当したくない」が29.4%の順となっている。

子供会に未加入の理由（「加入していない」または「加入したいとは思わない」と回答した人のみ・全体）



(10) 自治会に力を入れてほしい活動

問 38 地域の防犯活動や災害時における活動には自治会が重要な役割を果たしています。今後、自治会に特に力を入れてもらいたい活動は何ですか。【複数回答】



● 「防犯・交通安全活動防災活動」が第1位。次いで「防災活動」が続く。

[全体]

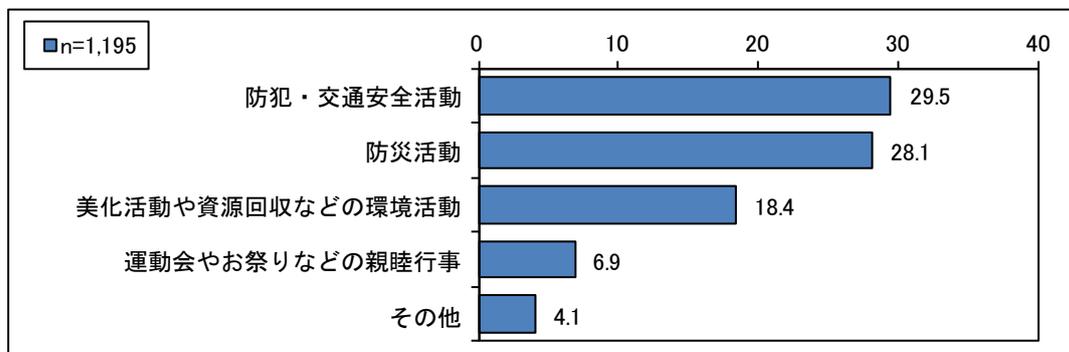
自治会に力を入れてほしい活動についてたずねたところ、「防犯・交通安全活動」が29.5%で第1位に挙げられ、次いで「防災活動」が28.1%、「美化活動や資源回収などの環境活動」が18.4%、「運動会やお祭りなどの親睦行事」が6.9%の順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「防犯・交通安全活動」が28.7%・31.2%で第1位、「防災活動」が27.2%・30.0%で第2位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・30～39歳・40～49歳で「防犯・交通安全活動」が32.7%・48.2%・36.3%、50～59歳・60～69歳で「防災活動」が37.1%・34.4%、70歳以上で「美化活動や資源回収などの環境活動」が26.3%で、それぞれ第1位となっている。

自治会に力を入れてほしい活動（全体）



17 市役所に対する印象について

(1) 市役所の印象

問 39 市役所に対する印象についてお聴きします。ア～ケのそれぞれの項目についてあてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

- 「窓口の対応が親切」、「事務の取扱いが公平」、「手軽に利用できる」、「窓口の表示がわかりやすい」といった印象が上位に挙げられる。

[「そう思う」が占める割合が多い項目]

市役所に対する印象について項目を設定してたずねたところ、「そう思う」と回答した率が最も多い項目は9項目中4項目となっている。

- ・「窓口対応が親切」47.5%
- ・「事務の取扱いが公平」44.3%
- ・「手軽に利用できる」39.1%
- ・「窓口表示がわかりやすい」38.2%

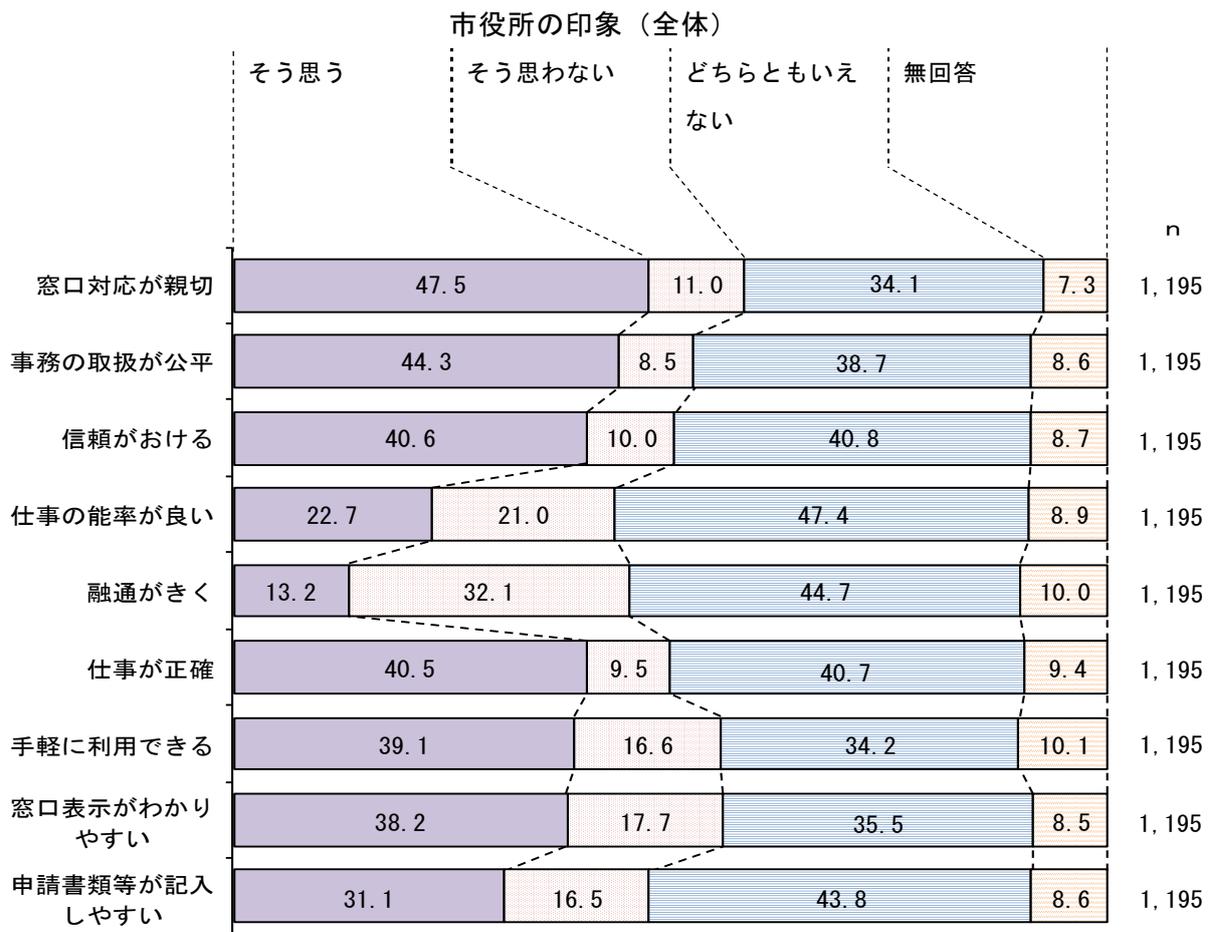
[「どちらともいえない」が占める割合が多い項目]

「どちらともいえない」と回答した率が最も多い項目は9項目中5項目となっている。

- ・「仕事の能率が良い」47.4%
- ・「融通がきく」44.7%
- ・「申請書類等が記入しやすい」43.8%
- ・「信頼がおける」40.8%
- ・「仕事が正確」40.7%

[「そう思わない」が占める割合が比較的多い項目]

「そう思わない」と回答した率が比較的多い項目は、「融通がきく」が32.1%、「仕事の能率がよい」が21.0%などとなっている。



18 市政への参画方法について

(1) 市民の意見等を取り入れるための重点的な取組

問 40 あなたは、市が市民の意見や要望を取り入れていくために、どのような取組を重点的に行うべきだと思いますか。

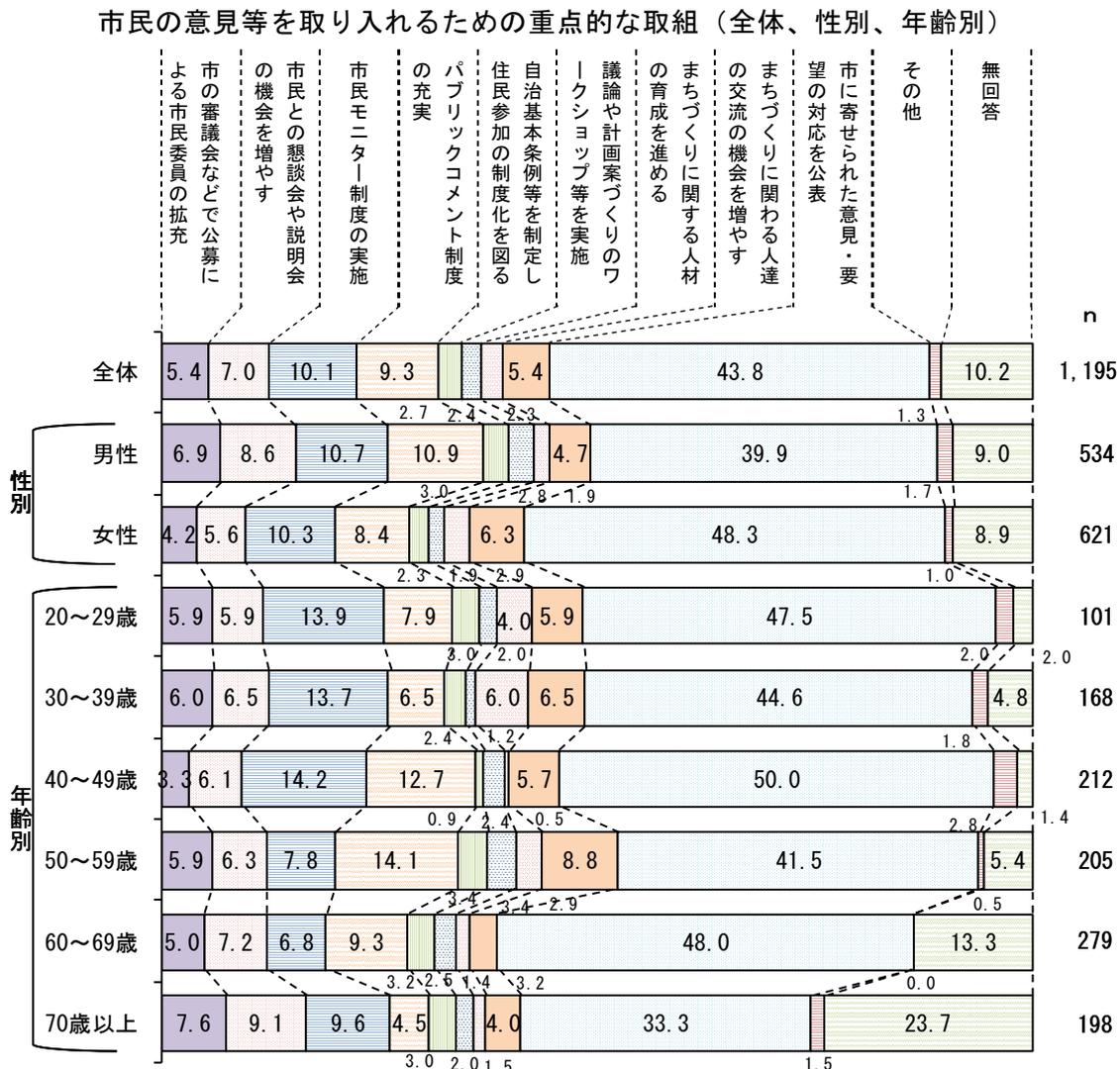
● 「市に寄せられた意見・要望の対応を公表」が43.8%で最も多い。

[全体]

市民の意見等を取り入れるための重点的な取組として、「市に寄せられた意見・要望の対応を公表」が43.8%で最も多く、次いで「市民モニター制度の実施」が10.1%、「パブリックコメント制度の充実」が9.3%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「市に寄せられた意見・要望の対応を公表」が最も多くなっている。



19 情報関連について

(1) 市の情報の入手方法

問 41 あなたは、市からの情報をどのように入手していますか。【複数回答】

- 「市の広報紙『広報おうめ』」が他を大きく離して第1位。

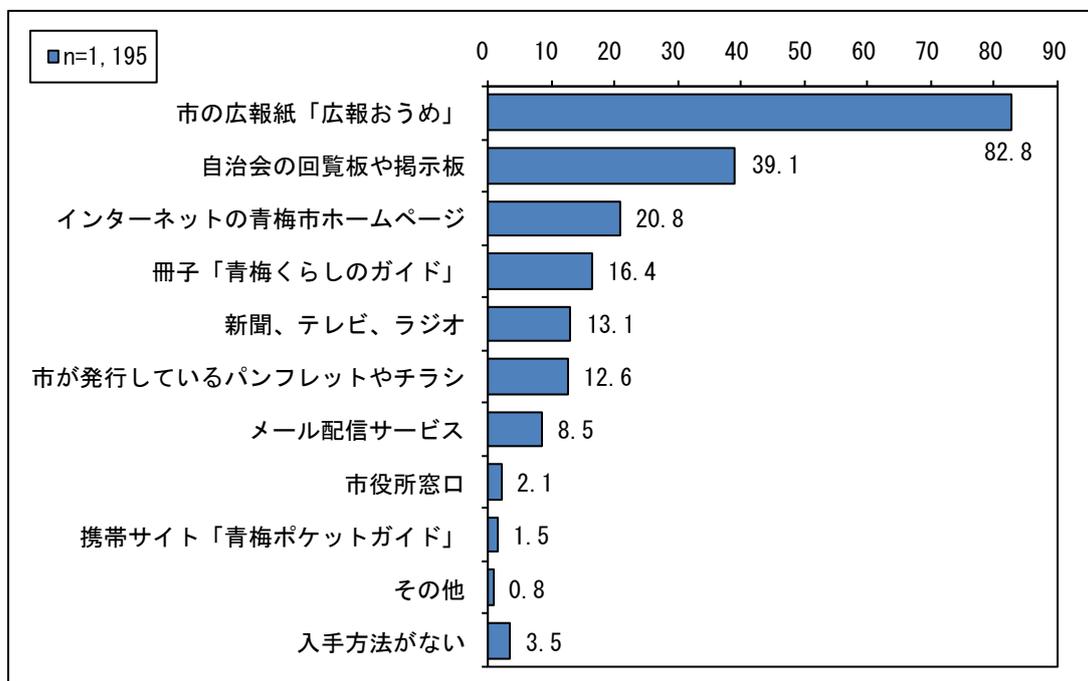
[全体]

市の情報の入手方法をたずねたところ、「市の広報紙『広報おうめ』」が82.8%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「自治会の回覧板や掲示板」が39.1%、「インターネットの青梅市ホームページ」が20.8%などの順となっている。なお、「入手方法がない」は3.5%となっている。

[属性別]

性別・年齢別でみると、全体と同様にすべての層で「市の広報紙『広報おうめ』」が他を大きく引き離して第1位に挙げられており、市の情報の入手方法として広報紙が重要な役割を果たしていることがうかがえる。

市の情報の入手方法（全体）



(2) 市の広報の読みやすさ

問 41-1 「広報おうめ」を読んで、どのように感じますか。【問 41 で「1. 市の広報紙「広報おうめ」を読んでいる」と回答された方のみ】

● 「読みやすいと思う」が 66.7%。一方「読みにくいと思う」は 5.3%。

[全体]

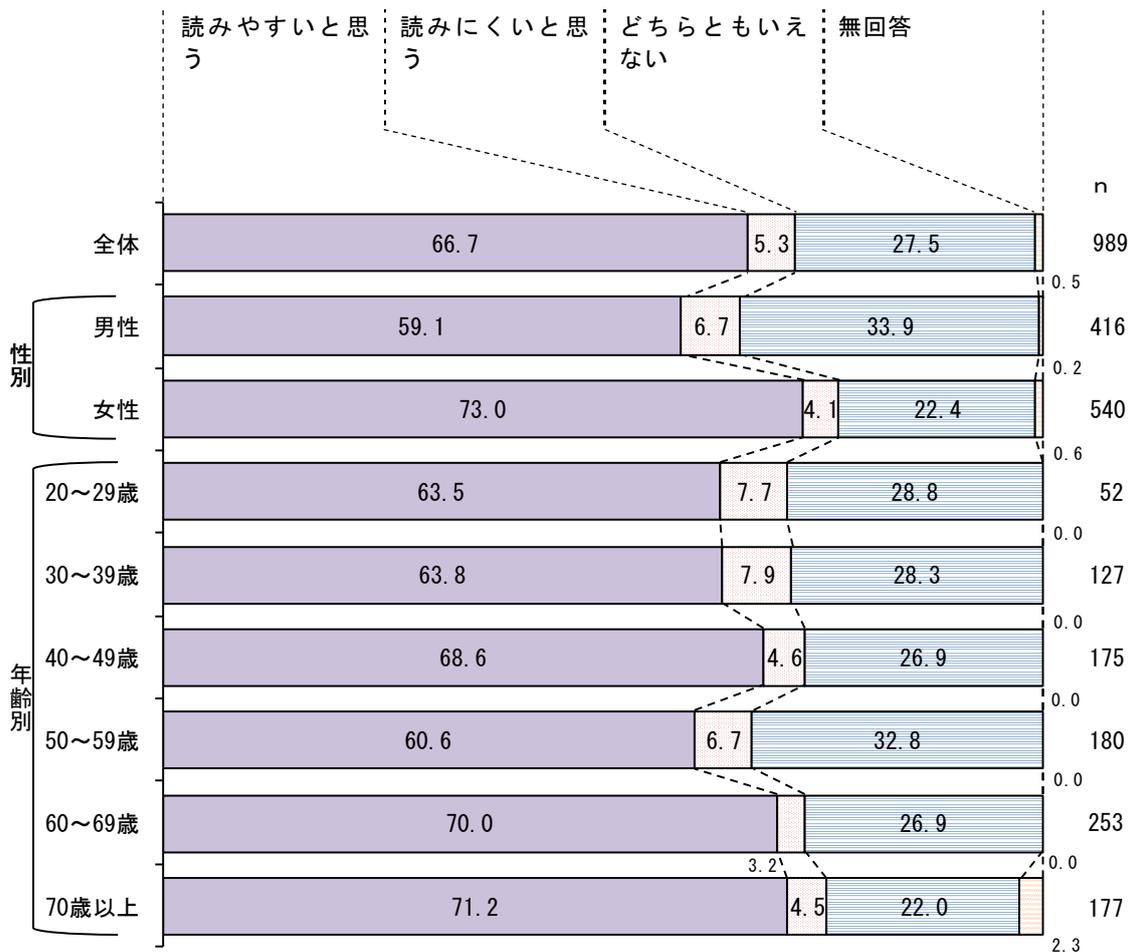
「広報おうめ」を読んでいると回答した人に、その読みやすさをたずねたところ、「読みやすいと思う」が 66.7%、「読みにくいと思う」が 5.3%となっており、広報紙は読みやすいとの一定の評価をされているといえる。

[属性別]

性別でみると、「読みやすいと思う」が男性 59.1%・女性 73.0%となっており、女性が多くなっている。

年齢別で、すべての年齢層で「読みやすいと思う」と回答する人が 6 割を超えている。

市の広報の読みやすさ（「読んでいる」と回答した人のみ・全体・性別・年齢別）



(3) 市の広報の読みにくい理由

問 41-1-① 読みにくいと思われる理由は何ですか。【問 41-1 で「2. 読みにくいと思う」と回答された方／複数回答】



- 「読みたい記事の場所がわかりにくい」が第1位。次いで「文字が小さい」が続く。

[全体]

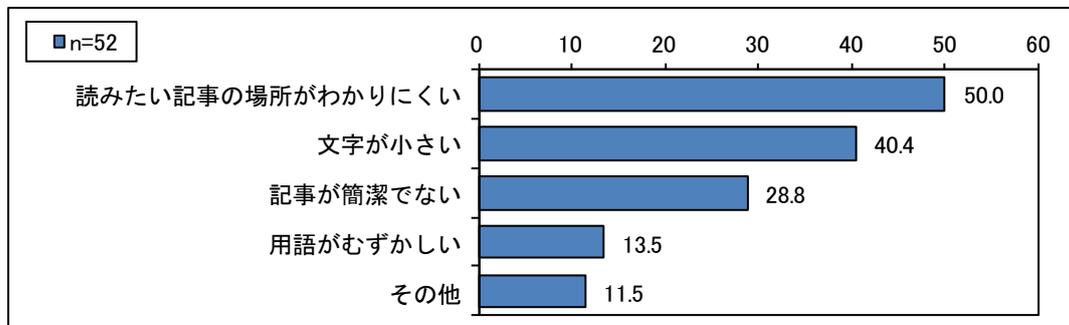
「広報おうめ」を「読みにくいと思う」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「読みたい記事の場所がわかりにくい」が50.0%で第1位に挙げられ、次いで「文字が小さい」が40.4%、「記事が簡潔でない」が28.8%、「用語が難しい」が13.5%の順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「読みたい記事の場所がわかりにくい」が50.0%・45.5%で第1位、「文字が小さい」が42.9%・36.4%で第2位となっている。

年齢別でみると、20～29歳で「文字が小さい」、「読みたい記事の場所がわかりにくい」がともに50.0%、30～39歳・40～49歳・60～69歳で「読みたい記事の場所がわかりにくい」が70.0%・62.5%・50.0%、50～59歳・70歳以上で「文字が小さい」が58.3%・62.5%で、それぞれ第1位となっている。

市の広報の読みにくい理由（「読みにくいと思う」と回答した人のみ・全体）



(4) 市の広報の入手方法

問 41-2 「広報おうめ」をどのように入手していますか。【問 41 で「1. 市の広報紙「広報おうめ」を読んでいる」と回答された方／複数回答】



● 「新聞折り込み」が他を大きく引き離して第1位。

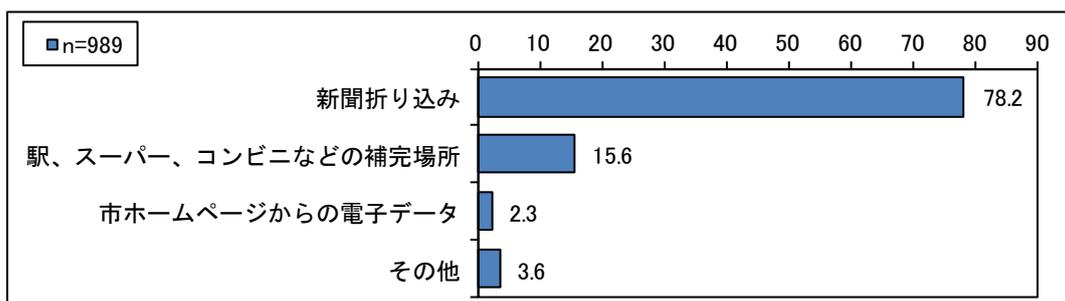
[全体]

「市の広報紙『広報おうめ』を読んでいる」と回答した人に、その入手方法をたずねたところ、「新聞折り込み」が78.2%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「駅、スーパー、コンビニなどの補完場所」が15.6%、「市ホームページからの電子データ」が2.3%の順となっている。

[属性別]

性別・年齢別で見ると、全体と同様にすべての層で「新聞折り込み」が他を大きく引き離して第1位となっている。

市の広報紙の入手方法（「市の広報紙『広報おうめ』を読んでいる」と回答した人のみ・全体）



(5) 市の広報を読む程度

問 41-3 「広報おうめ」をどの程度読んでいますか。【問 41 で「1. 市の広報紙「広報おうめ」を読んでいる」と回答された方のみ】



● 「大体全部読んでいる」が最も多く、次いで「関心のあるところだけ読んでいる」、「ざっと目を通す程度に読んでいる」の順。

[全体]

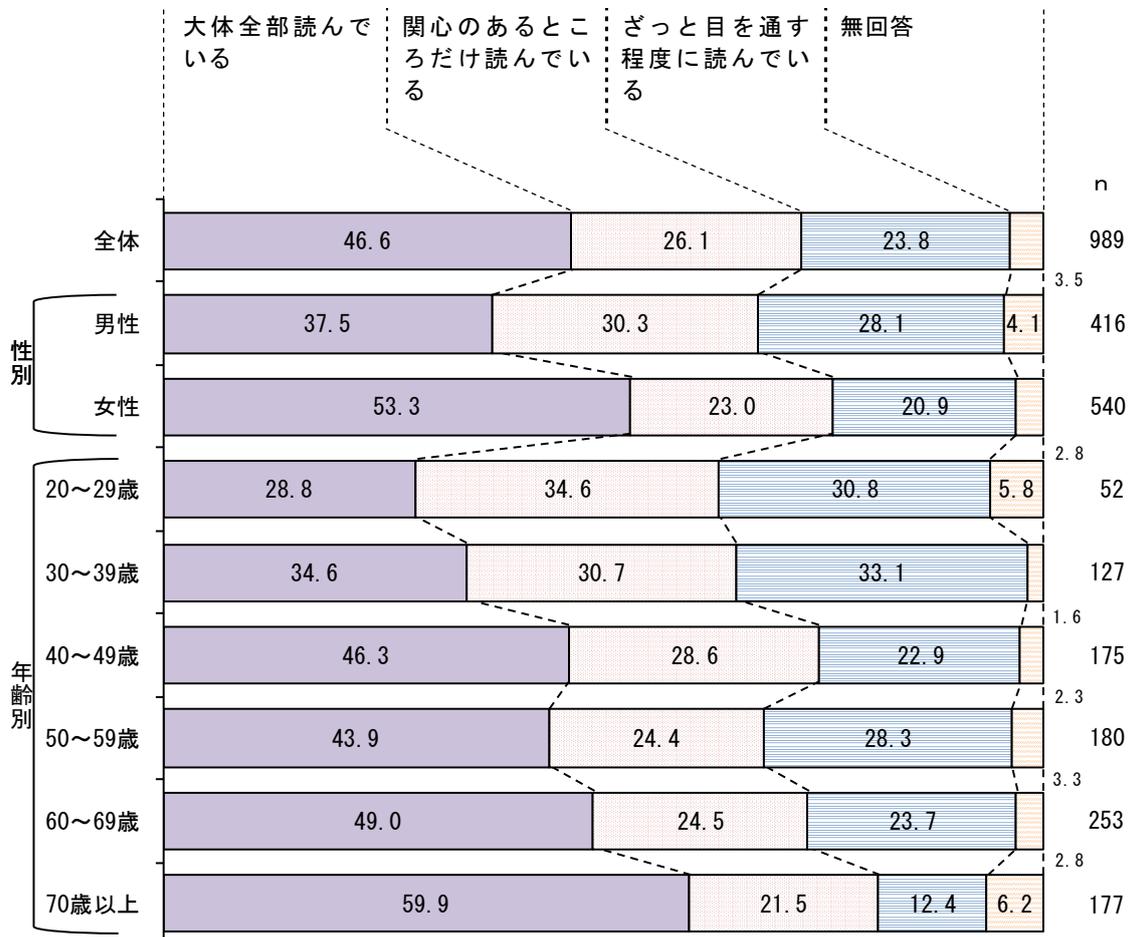
「市の広報紙『広報おうめ』を読んでいる」と回答した人に、その読む程度をたずねたところ、「大体全部読んでいる」が 46.6%で最も多く、次いで「関心のあるところだけ読んでいる」が 26.1%、「ざっと目を通す程度に読んでいる」が 23.8%の順となっている。

[属性別]

性別でみると、「大体全部読んでいる」が男性 37.5%・女性 53.3%となっており、女性が多くなっている。

年齢別でみると、おおむね年齢が上がるにつれて「大体全部読んでいる」と回答する割合が高くなり、「関心のあるところだけ読んでいる」は低くなる傾向がみられる。

市の広報を読む程度（「読んでいる」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



(6) 市のホームページについて

問 41-4 「青梅市ホームページ」を見て、どのように感じますか。【問 41 で「2. インターネットの青梅市ホームページを見ている」と回答された方のみ】

● 「見やすいと思う」が 34.9%、「どちらともいえない」が 48.6%、「見にくいと思う」が 13.3%。

[全体]

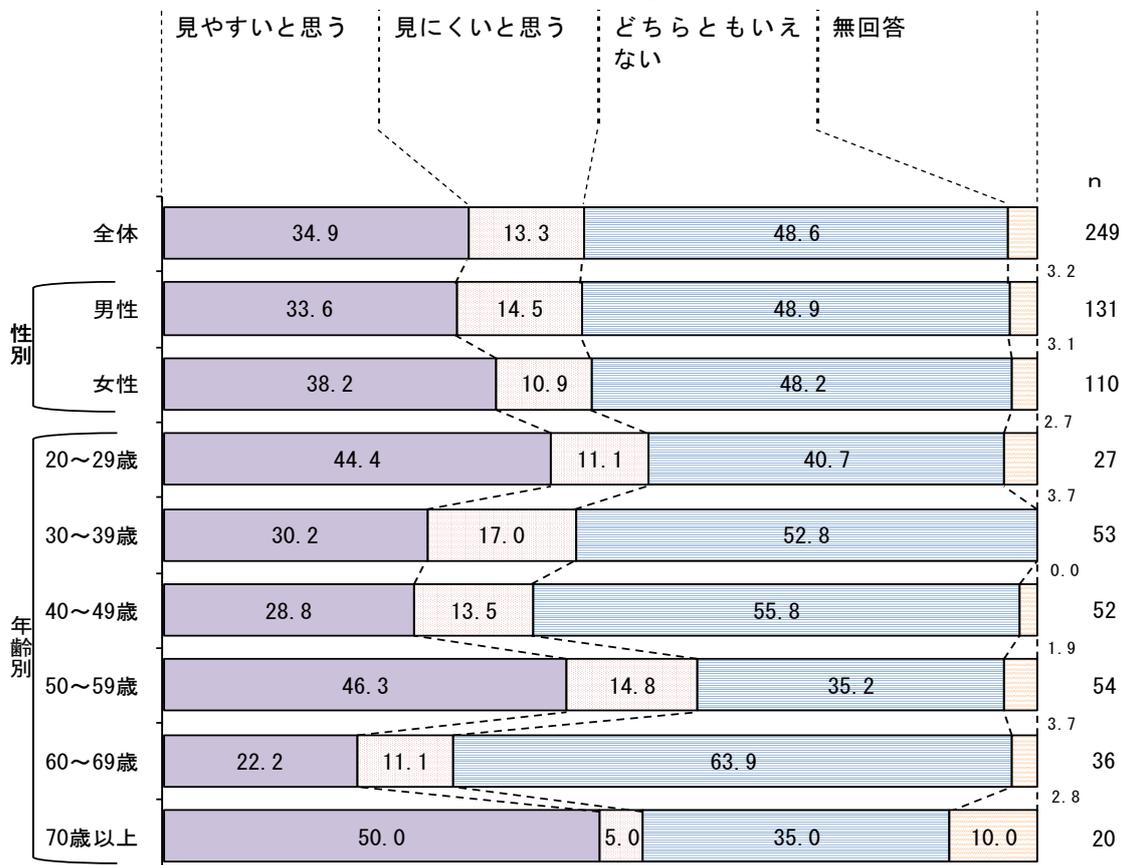
「インターネットの青梅市ホームページを見ている」と回答した人に、その見やすさについてたずねたところ、「見やすいと思う」は 34.9%にとどまり、「どちらともいえない」が 48.6%で最も多く挙げられている。なお「見にくいと思う」は 13.3%となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「どちらともいえない」が 48.9%・48.2%で約半数を占め最も多くなっている。

年齢別で、20～29歳・50～59歳・70歳以上で「見やすいと思う」が 44.4%・46.3%・50.0%と多くなっており、一方 30～39歳・40～49歳・60～69歳では「どちらともいえない」が 52.8%・55.8%・63.9%と多くなっている。

市のホームページについて（「市のホームページをみている」と回答した人のみ・全体、性別、年齢別）



(7) 市のホームページで充実してほしい項目

問 41-5 「青梅市ホームページ」で充実してほしい項目は何ですか。【問 41 で「2. インターネットの青梅市ホームページを見ている」と回答された方のみ／複数回答】



- 「診療所・病院の案内や紹介」が第1位。次いで「防災情報」、「市が今後行う計画の紹介」が続く。

[全体]

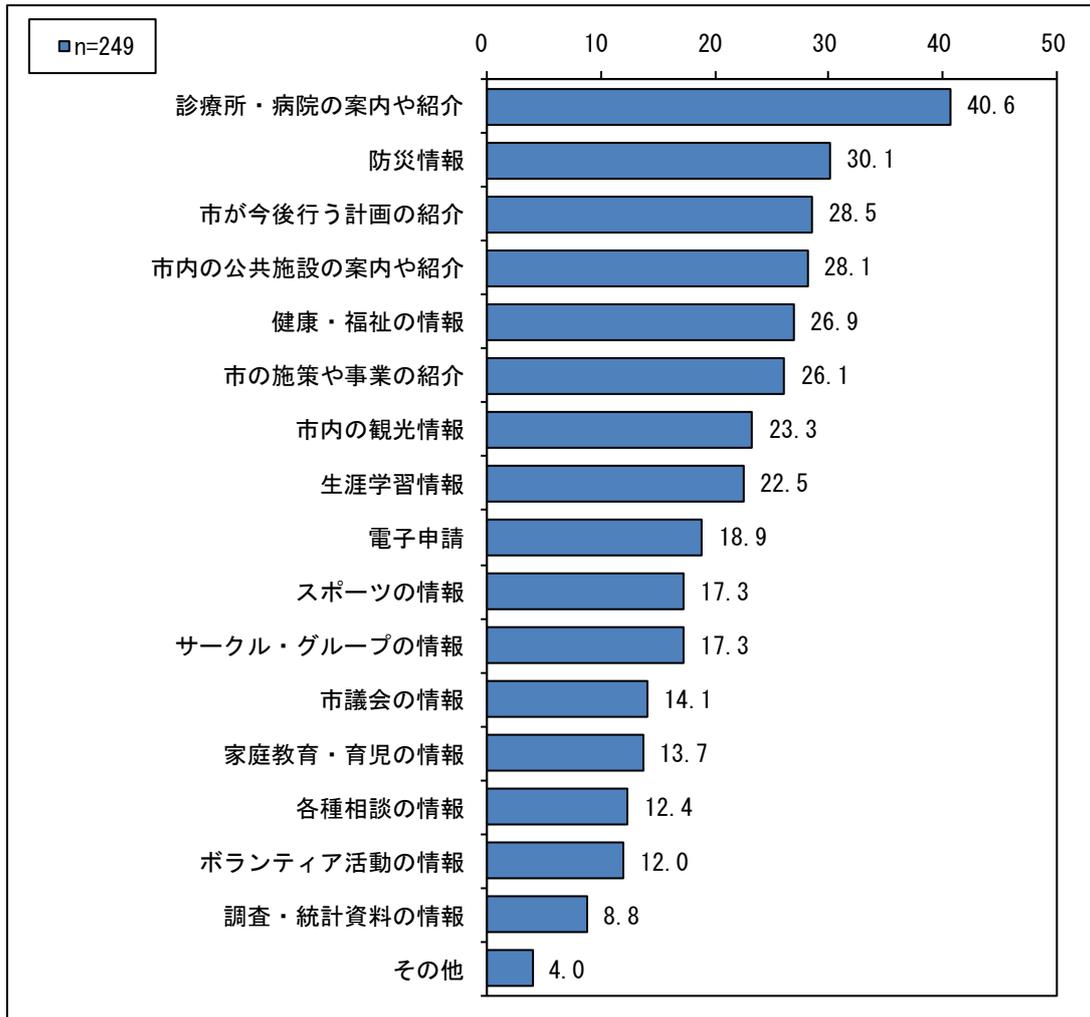
「インターネットの青梅市ホームページを見ている」と回答した人に、充実してほしい項目についてたずねたところ、「診療所・病院の案内や紹介」が40.6%で第1位に挙げられ、次いで「防災情報」が30.1%、「市が今後行う計画の紹介」が28.5%、「市内の公共施設の案内や紹介」が28.1%、「健康・福祉の情報」が26.9%、「市の施策や事業の紹介」が26.1%などの順となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「診療所・病院の案内や紹介」が36.6%・46.4%で第1位となっている。

年齢別で見ると、20～29歳・30～39歳・40～49歳・50～59歳で「診療所・病院の案内や紹介」が44.4%・41.5%・46.2%・37.0%、60～69歳で「市の施策や事業の紹介」、「市が今後行う計画の紹介」がともに44.4%、70歳以上で「市の施策や事業の紹介」、「診療所・病院の案内や紹介」、「健康・福祉の情報」がともに30.0%で、それぞれ第1位となっている。

市のホームページで充実してほしい項目（「市のホームページを見ている」と回答した人のみ・全体）



(8) インターネットの接続端末

問 42 高度情報化の進展で、ホームページの閲覧やEメールなど、インターネットは現代生活に欠かせない情報源となっています。ご自宅でインターネットを利用する際に使用する端末は何ですか。【複数回答】



● 「パソコン」が他を大きく引き離して第1位。

[全体]

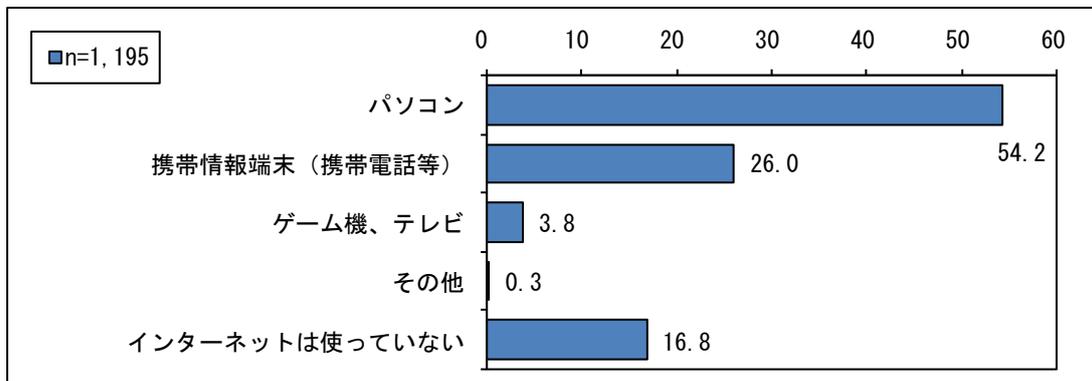
自宅でのインターネットへの接続端末をたずねたところ「パソコン」が54.2%と他を大きく引き離して第1位となっており、次いで「携帯情報端末(携帯電話等)」が26.0%、「ゲーム機、テレビ」が3.8%の順となっている。なお、「インターネットは使っていない」は16.8%となっている。

[属性別]

性別で見ると、男性・女性ともに「パソコン」が61.6%・49.9%で第1位となっている。

年齢別で見ると、60歳代以下のすべての年齢層で「パソコン」が第1位に挙げられているが、70歳以上では、「インターネットは使っていない」が26.8%で第1位となっている。また、20～29歳・30～39歳では「携帯情報端末(携帯電話等)」も65.3%・54.2%で半数以上を占めている。

インターネットへの接続端末(全体)



(9) インターネットへの接続回線

問42-1 ご自宅でのインターネット接続回線の種類は何ですか。【問42で「1」から「4」のいずれかを選択された方のみ／複数回答】

● 「ブロードバンド回線（光回線）」が第1位。次いで「携帯電話／PHS回線」、「ブロードバンド回線（ADSL回線）」が続く。

[全体]

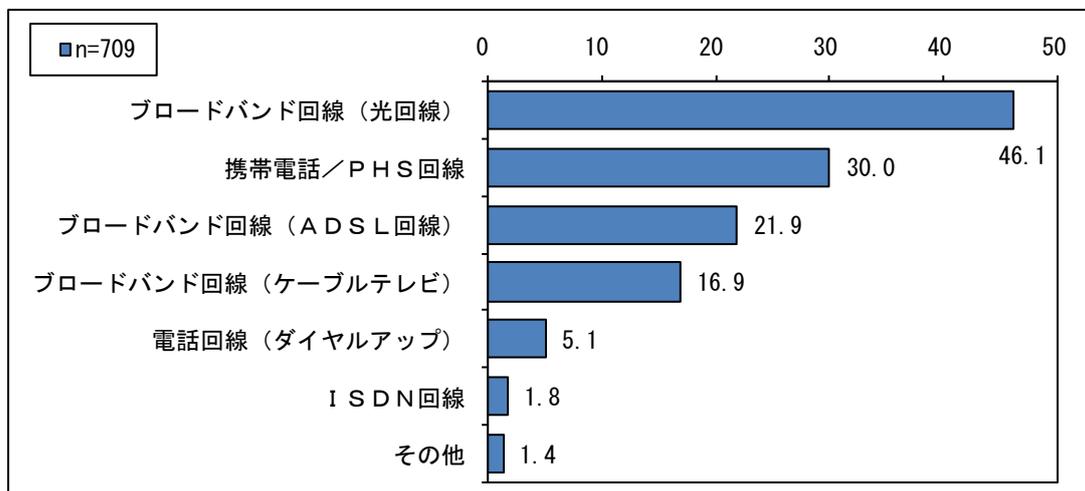
自宅でのインターネットを利用していると回答した人に、その接続回線をたずねたところ、「ブロードバンド回線（光回線）」が46.1%で第1位に挙げられ、次いで「携帯電話／PHS回線」が30.0%、「ブロードバンド回線（ADSL回線）」が21.9%、「ブロードバンド回線（ケーブルテレビ）」が16.9%などの順となっている。

[属性別]

性別でみると、男性・女性ともに「ブロードバンド回線（光回線）」が49.6%・42.7%で第1位、「携帯電話／PHS回線」が28.8%・32.0%で第2位となっている。

年齢別でみると、20～29歳・40～49歳・50～59歳・60～69歳で「ブロードバンド回線（光回線）」が54.8%・46.9%・52.5%・38.6%、30～39歳で「携帯電話／PHS回線」が48.6%、70歳以上で「ブロードバンド回線（ケーブルテレビ）」が31.4%で、それぞれ第1位となっている。

インターネットの接続回線（「自宅でインターネットを利用している人」のみ・全体）



(10) インターネットの利用目的

問 42-2 ご自宅でインターネットを利用する目的は何ですか【問 42 で「1」から「4」のいずれかを選択された方／複数回答】

● 「情報の検索・情報の収集」が他を大きく引き離して第1位。

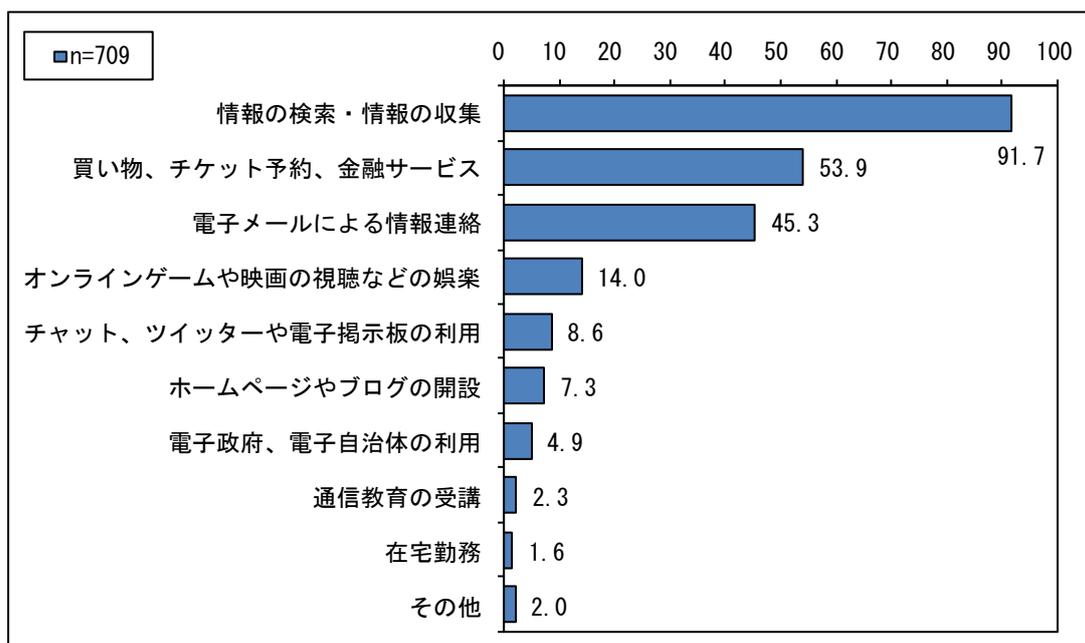
[全体]

自宅でのインターネットを利用していると回答した人に、利用目的をたずねたところ、「情報の検索・情報の収集」が91.7%で他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「買い物、チケット予約、金融サービス」が53.9%、「電子メールによる情報連絡」が45.3%などの順となっている。

[属性別]

性別・年齢別で見ると、全体と同様にすべての層で「情報の検索・情報の収集」が他を大きく引き離して第1位となっている。

インターネットの利用目的（「自宅でインターネットを利用している人」のみ・全体）



20 多摩川競艇事業について

(1) 多摩川競艇事業の認知度

問 43 青梅市が府中市内で競艇事業を行っていることをご存じですか。

● 「知っている」が 67.5%。一方「知らない」が 29.0%。

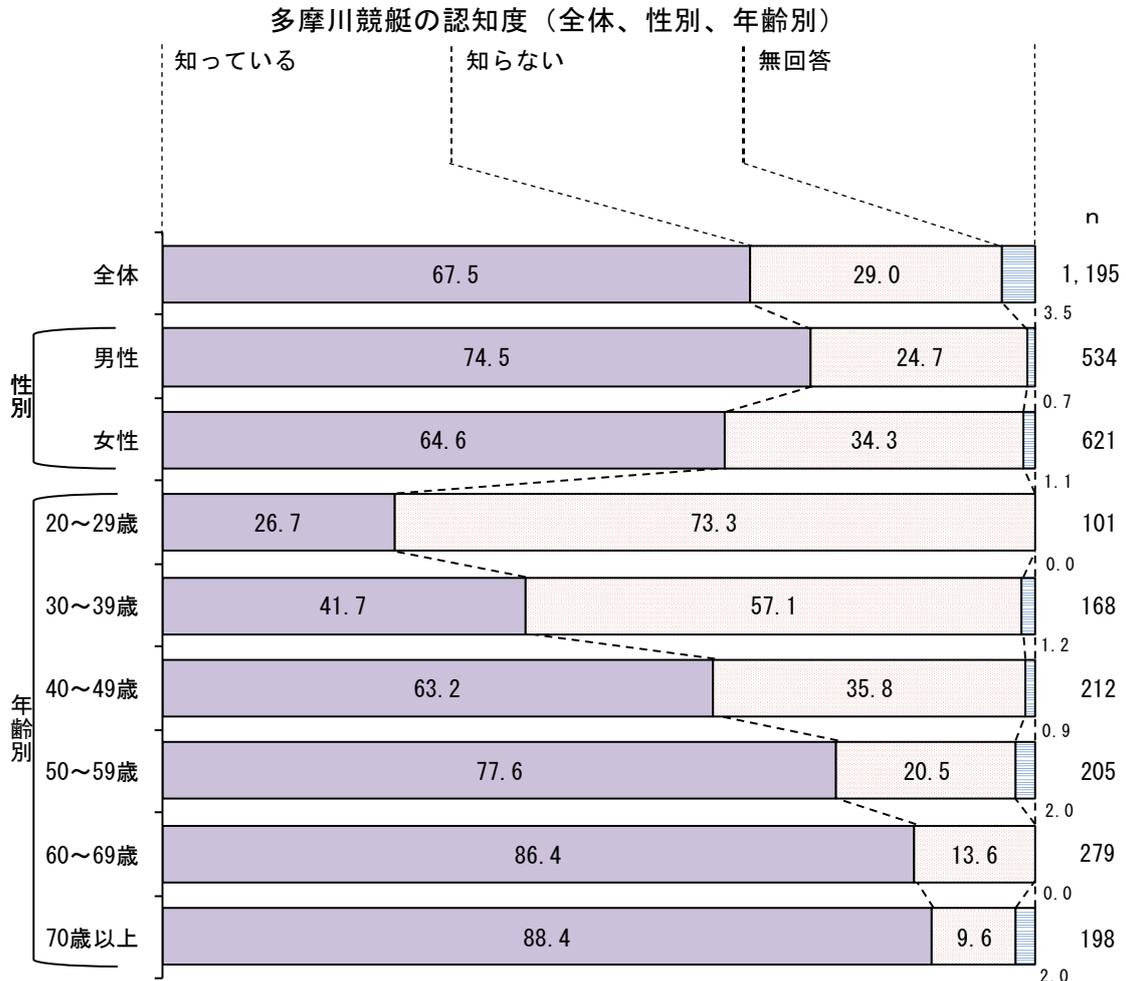
[全体]

青梅市が競艇事業を行っていることの認知度をたずねたところ「知っている」が 67.5%、「知らない」が 29.0%となっており、約 7 割の人が多摩川競艇事業を知っている結果となっている。

[属性別]

性別で見ると、「知っている」が男性 74.5%・女性 64.6%となっており、男性が多くなっている。

年齢別で見ると、「知っている」が 20～29 歳で 26.7%となっているが、年齢が上がるとともに増加し、70 歳以上では 88.4%で約 9 割に達している。



資料：数表・調査票

